

令和元年度

業務報告書

地域人口の現状分析ならびに将来予測に係る
委託業務

令和元年 12 月

兵庫県佐用町

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

目次

I 概要編	1
1. 業務目的.....	1
2. 業務の全体フローと業務体制.....	1
(1) 業務の全体フロー.....	1
(2) 業務体制.....	1
3. 将来人口の推計手法について.....	2
(1) 使用した推計手法について.....	2
(2) コーホート要因法とコーホート変化率法の違いについて.....	2
(3) 将来人口推計の計算イメージ.....	3
(4) 推計エリアとシミュレーション内容.....	4
(5) 人口分析・将来人口の推計に使用したデータ.....	4
(6) 補正が必要なエリアと補正方法について.....	5
(7) 将来人口推計のフローチャート.....	6
(8) 人口安定化の条件と定住増加組数について.....	7
(9) 推計結果シートの構成.....	8
(10) 推計結果シートの解説.....	9
(11) 推計シミュレーション方法.....	10
II 佐用町全体編	11
1. 現状分析（2014～2019年）.....	11
(1) 人口全体増減.....	11
(2) 年代別人口構成グラフ.....	11
(3) 年代別コーホート変化率.....	12
2. 現状推移シナリオ.....	13
(1) 人口と高齢化率予測.....	13
(2) 小・中学生数予測.....	14
(3) 20年後の年代別人口構成グラフ.....	14
3. 合計特殊出生率向上シナリオ（【2.10】及び【8.89】）.....	15
(1) 人口と高齢化率予測.....	15
(2) 小・中学生数予測.....	16
(3) 20年後の年代別人口構成グラフ.....	17
4. 10代後半流出防止シナリオ（全面ストップ時）.....	18
(1) 人口と高齢化率予測.....	18
(2) 小・中学生数予測.....	18
(3) 20年後の年代別人口構成グラフ.....	19

5.	U & I ターン増加シナリオ.....	20
(1)	人口と高齢化率予測.....	20
(2)	小・中学生数予測.....	20
(3)	20年後の年代別人口構成グラフ.....	21
6.	組み合わせ最適シナリオ.....	22
(1)	人口と高齢化率予測.....	22
(2)	小・中学生数予測.....	23
(3)	20年後の年代別人口構成グラフ.....	23

Ⅲ 地域づくり協議会編..... 24

1.	現状分析（2014～2019年）.....	25
(1)	人口増減数・増減率.....	25
(2)	高齢化率.....	26
(3)	4歳以下幼児数・増減率.....	27
(4)	小学生数・増減率.....	28
(5)	30代女性数・増減率.....	29
(6)	30代男女コーホート増減数・増減率.....	30
(7)	10代後半男女流出数・流出率.....	32
(8)	出生率.....	33
(9)	社会増減数・増減率.....	34
(10)	コーホート変化率一覧.....	35
(11)	一覧表.....	36
2.	現状推移シナリオ.....	37
(1)	人口予測.....	37
(2)	高齢化率予測.....	38
(3)	小学生数予測.....	40
(4)	30代女性数予測.....	41
(5)	一覧表.....	43
3.	U & I ターン増加シナリオ.....	44
(1)	人口予測.....	44
(2)	高齢化率予測.....	46
(3)	小学生数予測.....	47
(4)	30代女性数予測.....	49
(5)	一覧表.....	51

4.	組み合わせ最適シナリオ.....	52
(1)	人口予測.....	52
(2)	高齢化率予測.....	54
(3)	小学生数予測.....	56
(4)	30代女性数予測.....	57
(5)	一覧表.....	59

IV 人口分析結果報告会編..... 60

1.	報告講演会	
	「佐用町の未来を見つめる講演会 ～いつ考える？今でしょ～」.....	60
(1)	概要.....	60
(2)	当日の進行と成果.....	60

V 政策提言編..... 61

1.	身近な地元ごとの人口ビジョンと戦略を立てていく ～真の「地方創生」は「2階建て方式」で.....	61
2.	地区ごとの人口ビジョンに向けた研修会を開く.....	63
3.	所得取戻しのカギは、域内経済循環の強化 ～毎年1%分を地元産に変えていく.....	67
4.	定住を支える新たな拠点・ネットワーク・組織構造 ～「小さな拠点」と「郷づくり会社」を地元に創る.....	70
5.	じっくりと地域のつながりの中へ定住 ～毎年1組ずつを丁寧に導き入れる.....	72
6.	地域の介護の実情を調べ、持続可能に組み直す.....	73
7.	女性専門の「起業支援センター機能」を創設する.....	77

I 概要編

1. 業務目的

兵庫県佐用町においては、今後の地域づくりや定住対策等を検討実施するため、まずは現状把握が必要である。そのため、佐用町における地域活動単位に相当する13地域づくり協議会エリアごとの人口の現状分析並びに将来予測を行い、各地区の人口構成における優位性と問題点を明らかにし、住民に対して成果報告会を行うことで、人口減少の実態を身近なものとして捉え、「我がこと意識」の醸成を図ることを目的とする。また、地域別人口分析と将来予測の結果を、佐用町において現在実施している地域づくり協議会の振り返りの取り組み及び改定作業中の地域創生人口ビジョン・総合戦略の基礎資料とすることも当業務の目的である。

2. 業務の全体フローと業務体制

(1) 業務の全体フロー

- ① 令和元年6月 人口推計・分析用データの受渡し
- ② 令和元年7月 人口推計・分析の実施
(佐用町全体・協議会13エリア 計14エリア)
- ③ 令和元年8～9月 人口推計シミュレーションの実施
(佐用町全体・協議会13エリア 計14エリア)
*定住増加、若年層流出防止、出生率向上の組み合わせ策等
- ④ 令和元年10～12月 本業務における成果報告会と成果とりまとめ

(2) 業務体制

業務受託者：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

業務責任者：代表理事 藤山 浩

分 析：理事 森山 慶久

業務支援：研究マネージャ 田中 宏美

3. 将来人口の推計手法について

(1) 使用した推計手法について

今回の佐用町人口推計では【コーホート変化率法】を使用して将来人口を推計した。

(2) コーホート要因法とコーホート変化率法の違いについて

・コーホート法とは

同時に出生した集団（コーホート）の、ある期間の人口の変化を捉えることで将来人口を推計する方法である。コーホート法は大きく分けると、【コーホート要因法】と【コーホート変化率法】の2つがある。

例えば、ある年の20～24歳人口は5年後には25～29歳となるが、その間の実際の人口動態を分析し、これから導出された傾向を基準として20～24歳人口に乗じることで、5年後の25～29歳人口を推計する。

・コーホート要因法とは

地域の人口変化は、出生、死亡、流入、流出によって決まる。各コーホートの人口変化要因として①生残率（残存率）、②年齢別出生率（または合計特殊出生率）、③出生男女比、④社会移動率の4つを想定し、それぞれの将来仮定値を設定して男女年齢別の人口を推計する方法である。

- 推計エリアの人口規模がある程度必要（約2,000人以上）。
- 各種のデータが完全に揃えば、推計の精度が高い。
- 推計に必要なデータ（①～④）の取得が困難。
- 過去の人口動態が続かないと想定される地域の推計に適している。
- 推計の計算手法・考え方の専門性が高い。

・コーホート変化率法とは

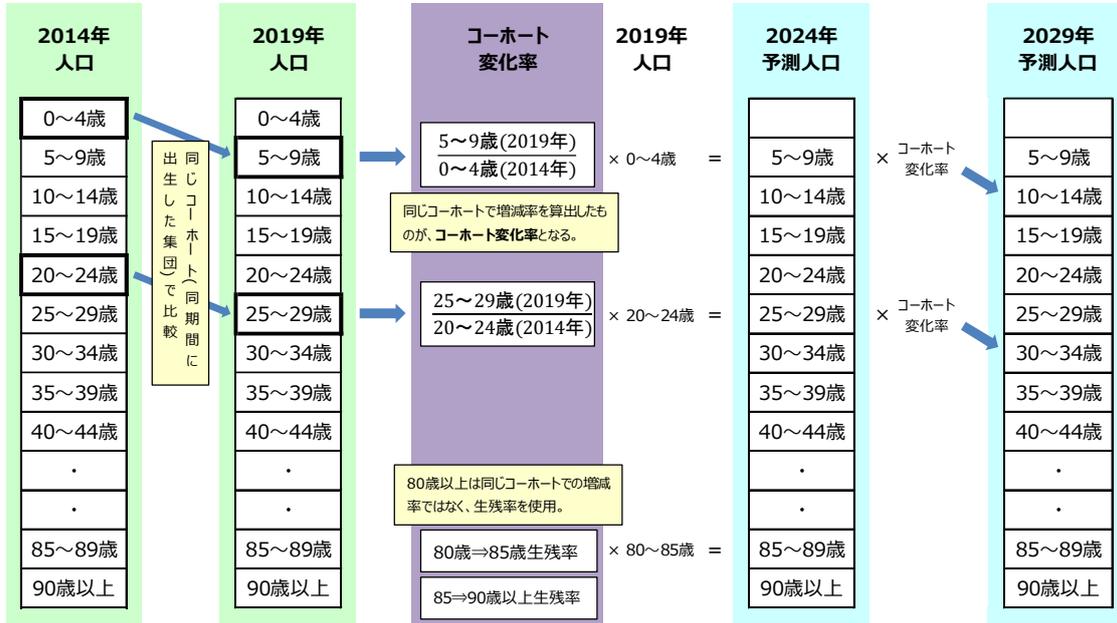
各コーホートのデータから変化率を算出し、将来もこの変化率が大きく変化しないと仮定して推計を行う方法である。通常のコーホート変化率法では、①2時点の変化率のみ設定し、男女年齢別の人口を推計する方法である。

- 人口規模が小さなエリアでも推計が可能となる（約200人以上）。
- 推計に必要なデータ（①のみ）の取得が比較的容易。
- 過去の人口動態が続かない地域の推計には適していない。
- 計算手法と考え方が比較的容易で理解しやすい。

以上を踏まえ、今回の佐用町人口推計では、対象地域データの集約が困難な「コーホート要因法」よりも、小地域の推計にも対応し理解しやすい「コーホート変化率法」を使用して将来人口を推計するのが適切であると判断する。

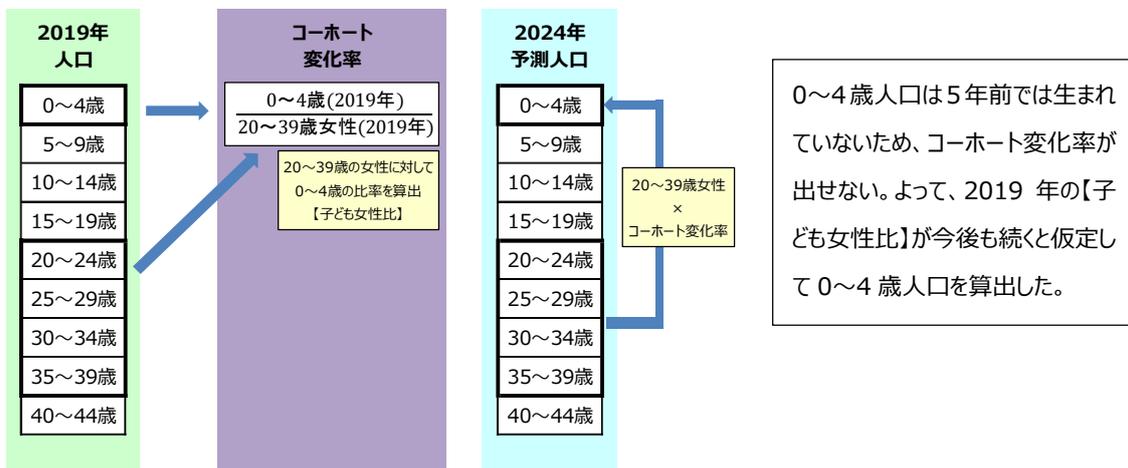
(3) 将来人口推計の計算イメージ

【5～90歳以上の計算方法】



※中山間地域において80歳以上の社会移動は稀であると予測されるため、変化率には生残率(2030→2035年)を使用した。

【0～4歳の計算方法】



(4) 推計エリアとシミュレーション内容

佐用町全体・地域づくり協議会 13 エリア、計 14 エリアでの人口推計・分析及び、出生率・流出率・定住増加が改善した場合の人口推計シミュレーションを実施した。

推計した単位（町全体・地域づくり協議会単位）によって、将来人口予測・人口安定化に必要な定住増加組数等の合計値は異なるが、この理由は以下の通りである。

小さな地域単位にすると、その中で良いコーホート変化率を持っている地域の人口予測は、大きく伸びる結果となる。あまりに過大な変化率は一定の補正を実施しているが、それでもそうした優良地域に引っ張られ、小さい単位に分割するほど合計値は大きくなる傾向がある。一方、大きな地域単位（町全体等）にすると、過大な変化率は平準化され、少なめの予測値になる傾向がある。

ただ、この傾向や合計値の差異は、あくまで地域ごとの実態を踏まえて予測値を算出する基本に立てば不可避であり、無理に大きな地域単位等に合わせて補正すると、地域の現状を正確に反映しないことになる。

推計した単位の合計値を比較して、どちらが正確なのかということにはあまり意味はなく、それぞれの単位・数値で、基本に則り、算出されていることが重要であると考えて推計を実施している。

(5) 人口分析・将来人口の推計に使用したデータ

・佐用町住民基本台帳の人口データ（2014・2019年04月30日現在）

男女5歳刻み19階級（90歳以上一括り）の人口データを使用した。

（外国人を含む総数）

・将来の80歳以上の佐用町生残率データ（2018年3月推計）

中山間地域において80歳以上の社会移動は稀であると予測されることから、コーホート変化率の代わりに80歳以上は生残率を用いて推計を行った。

生残率データは【国立社会保障・人口問題研究所】のホームページよりダウンロードした。

(6) 補正が必要なエリアと補正方法について

コーホート変化率法の考え方は、過去5年間の人口動態が、将来にわたって維持されるものと仮定して推計する手法である。これは逆に考えると過去5年間の人口動態が続かないエリアについては、将来人口が正しく算出できない可能性が高く、このような地域では変化率の補正が必要となる。また、小地域での推計においては、特定階級の人口が0人で、推計に必要な変化率の算出自体ができない地域も多々あり、このような地域についても補正が必要となってくる。

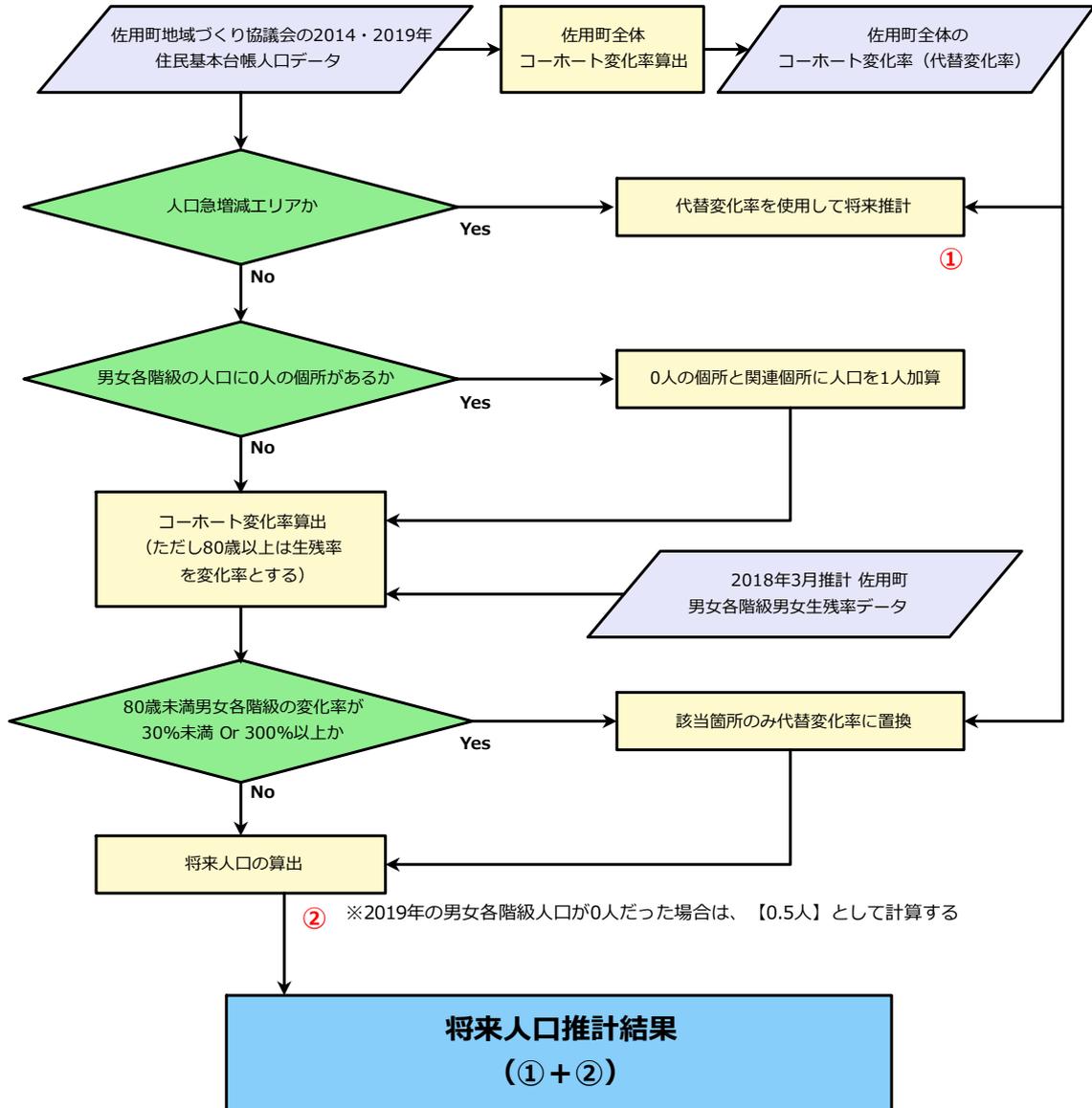
補正が必要なエリアの条件と補正方法を以下に示す。

- 80歳未満の特定階級の変化率が0%となるエリアについては、特定階級とそれに関連する階級人口に1人加算処理して変化率を算出した。
- 将来人口を算出する際には2019年の男女5歳刻み各階級に変化率を乗じて将来人口を推計するが、その際に2019年の男女階級人口が0人の場合は、僅かでも傾向を反映させるため、0.5人に置換して将来人口を推計した。
- 特殊施設（老人ホーム等）の新設・廃止等の理由で、80歳未満特定階級の変化率が急増減となる階級の変化率は※₁代替変化率を使用した。
急増減階級とみなす^{しきいち}閾値は以下の通りである。
変化率が30%未満 Or 300%超え
- 全体の人口が過去5年間で急増減しているエリアについては、一時的な要因の可能性が高いため（新興住宅地建設、立ち退き等）、80歳未満の変化率は※₁代替変化率を使用した。
急増減地域とみなす^{しきいち}閾値は以下の通りである。
過去5年間の人口増減率が（80%未満 Or 120%超え） And 2019年地域総人口30人以上

※₁代替変化率について

住民基本台帳2014・2019年人口データから、佐用町全体男女5歳刻み80歳未満までの16階級の変化率を算出し、これを代替変化率とした。

(7) 将来人口推計のフローチャート



(8) 人口安定化の条件と定住増加組数について

人口安定化の条件としては、以下の3つの基準を同時に満たしていれば、人口安定化が達成できているものとして仮定する。

① 30年後の人口総数が2019年人口総数と比較して**1割減以内**に収まること。

② 30年後の高齢化率が2019年の高齢化率と比較して**悪化しない**こと。

ただし、2019年の高齢化率が40%以下の場合は、30年後の高齢化率が**40%以内**に収まれば高齢化率は悪化していないものと判断する。

③ 30年後の年少人口（0～14歳）が2019年の年少人口と比較して**1割減以内**に収まること。

「まち・ひと・しごと創生」の長期ビジョン（2014年策定）では2060年に1億人程度の人口を確保することを目指している。これは当時人口から換算すると、約45年後には人口減少率が約2割減以内に収まるという意味である。

「まち・ひと・しごと創生」の長期ビジョンの目標に準拠し、30年後に1割減以内となれば、45年後（2060年頃）には2割減以内には収まる可能性が高いため、30年後人口総数1割減以内を人口安定化の条件と設定した。また、45年後ではなく、30年後を評価基準としたのは、地域住民の方にとって45年は長いと感じられ、目標意識が薄れてしまうことを危惧し、比較的近い将来の30年後を基準としている。

実際には各地域の実情・課題・可能性に応じた、地域毎の人口安定化の条件を設定することが望まれる。

流出率・合計特殊出生率の改善だけでは上記条件の人口安定化が難しい場合、新たに定住人口を増加させる必要がある。ではどの程度、新規定住者を確保していけば人口安定化が達成できるのか算出する必要がある。そこで、30年後に人口が安定するために必要な定住増加組数を算出している。

なお、必要定住組数の単位を下記の3類型（①30代前半夫婦子連れ＋②20代前半夫婦＋③退職夫婦）を1組（＝3世帯：7人）とし、毎年1組ずつ定住していくものとする。

- 30歳代前半夫婦が4歳以下の子供を連れてU・Iターン（3人）
- 20代前半夫婦がU・Iターン（2人）
- 60代前半夫婦（定年退職者）がU・Iターン（2人）

必要な組数の最少単位は**0.1組**として算出し、最終的に必要な定住増加組数は上記の最大値を取得する。

(9) 推計結果シートの構成

人口推計したエリア毎の結果は Microsoft Excel® で確認することができる。【現行推移モデル】【U&I ターン増加モデル】【組み合わせ最適モデル】の3つのパターン別推計結果を確認でき、加えて【定住組数・流出率・※₁合計特殊出生率】が変更された場合のシミュレーションも可能となっている。

- **現行推移モデル**

過去5年間の人口動態が続いた場合の45年後(2064年)までの推計結果の表示。

- **U&I ターン増加モデル**

【流出率・合計特殊出生率】は過去5年間の人口動態が続くと仮定し、定住増加だけで人口安定化を達成した場合の推計結果と、定住増加を変更したシミュレーションが可能。

- **組み合わせ最適モデル**

10代後半の流出率(主に高校卒業後)を半減させ、合計特殊出生率を【2.10(段階的に上昇)】とし、それでも人口安定化が達成できない場合は定住を増加させ、人口安定化を達成した場合の推計結果と、定住増加・流出率を変化させたシミュレーションが可能。

ただし、現状で流出率が0%未満のエリアは現状のままとし、合計特殊出生率も同様に、設定した値を超えているエリアについては現状のままとした。

※₁合計特殊出生率について

ここでの【合計特殊出生率】は、現状の社会移動を含む【子ども女性比(0~4歳/20~40歳女性)】を変換したものであり、一般的な【合計特殊出生率】とは異なる。

ただし、【合計特殊出生率】と【子ども女性比】は高い相関関係にあるため、値は近似し、むしろ社会移動を含めているため、より実効性が高いともいえる。

(10) 推計結果シートの解説

現状推移モデルの結果を元に、各値や各グラフを解説する。

前後5年の男女年齢別の人口データ

変化率に補正をかけているエリアか
 FLG 0 = 補正をかけていない
 FLG 3 = 80歳未満すべての階級に補正をかけている
 FLG 45 = 一部の該当階級に補正をかけている

5年毎の男女年齢別の将来人口を計算

【総人口・高齢化率・後期高齢化率・小・中学生数】を自動集計

現在と二十年後(年次は可変)の階層別の男女人口

男女年齢階級別のコーホート変化数・率のグラフ

今後の5年刻みの総人口と高齢化率予測のグラフ

今後の5年刻みの小学生・中学生数及び、年少人口の予測グラフ

(11) 推計シミュレーション方法

U&I ターン増加モデルを基にシミュレーション方法を解説する。

● 出生率を変更するには

該当箇所に入出生率を入力すると自動計算されます。
出生率を一律に設定されたい場合は、左側のセルを入力、
期間毎に詳細な設定をしたい場合は、右側のセルに入力してください。

● 毎年の定住組数を変更させるには

該当箇所に入毎年定住組数を入力すると自動計算されます。

人口予測シミュレーション

● 出生率を変更するには

● 毎年の定住組数を変更させるには

● 10代後半の流出率を変更させるには

● その他の変更をされたい場合は

合計特殊出生率 (TFR) 30.3

10代後半から20代前半の流出率 23%

10代後半から20代前半の流出率 32%

合計特殊出生率 (TFR) 1.41

2019年～2024年 1.41

2024年～2029年 1.41

2029年～2034年 1.41

2034年～2039年 1.41

2039年～2044年 1.41

● 10代後半の流出率を変更させるには

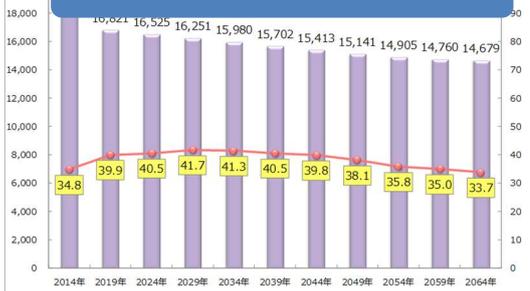
該当箇所に入流出率を入力すると自動計算されます。

● その他の変更をされたい場合は

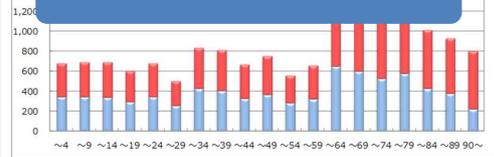
「出生率・10代後半流出率・毎年定住組数」以外にも詳細な設定をされたい場合は、該当の変化率を直接変更してください。変化率の値を変更すると自動計算されます。

ただし、変更される場合は、人口推計の考え方・計算方法等を十分に理解した上で変更されることをお奨めします。

変更後の人口総数と・高齢化率推移



変更後の将来人口ピラミッド



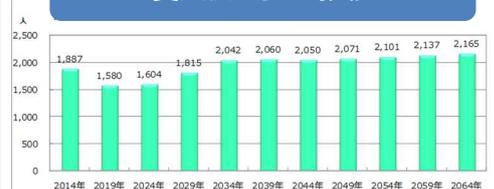
変更前の人口総数と・高齢化率推移



図②-2 小・中学生人口の将来予測



変更後の子ども推移



Ⅱ 佐用町全体編

佐用町全体での人口の現状分析・パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1. 現状分析（2014～2019年）

佐用町全体の過去5年間（2014 - 2019年間）の人口動態の推移を検討していく。

（1）人口全体増減

	実数			率		
	2014年	2019年	増減	2014年	2019年	増減
人口総数	18,718	16,821	-1,897	-10.1%		
高齢者	6,505	6,719	214	34.8%	39.9%	5.2%
4歳以下幼児	495	448	-47	2.6%	2.7%	0.02%
小学生	835	679	-156	4.5%	4.0%	-0.42%
30代女性	817	679	-138	4.4%	4.0%	-0.33%

佐用町全体として人口は減少傾向にある。高齢者数・率は増えている半面、次世代を担う4歳以下幼児や小学生、30代女性が減少していることが課題である。

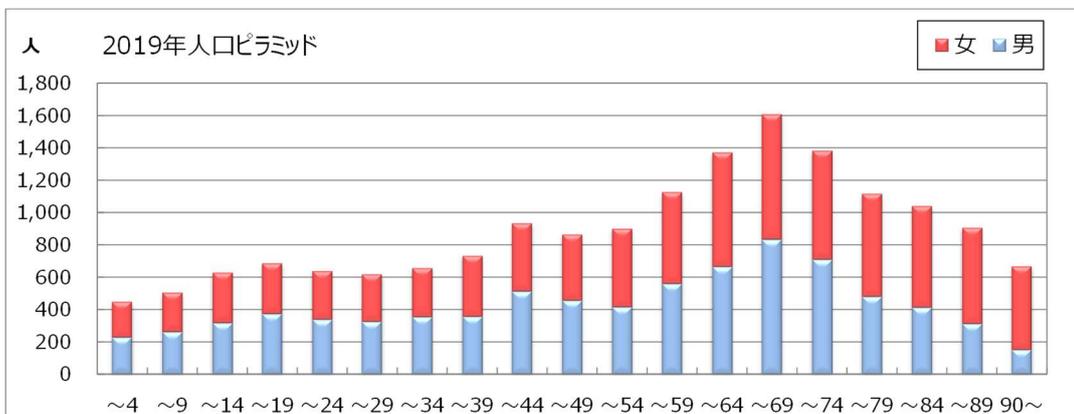
<参考>

兵庫県平均・全国平均との比較

	佐用町 2019年	兵庫県平均 2015年	全国平均 2015年
高齢化率	39.9%	29.7%	26.6%
4歳以下幼児率	2.7%	4.0%	4.0%
小学生率	4.0%	5.3%	5.2%
30代女性率	4.0%	5.7%	6.1%

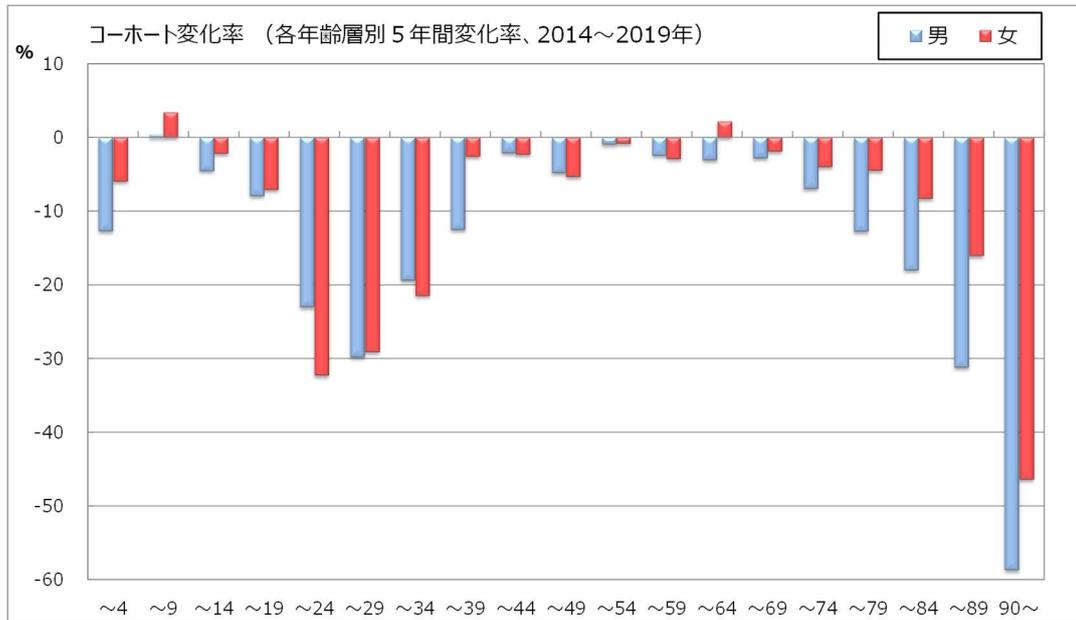
兵庫県・全国平均は2015年国勢調査統計より集計（年齢不詳人口は按分し、外国人含む総数で集計）

（2）年代別人口構成グラフ



60代を中心にピークがあり、今後10年間で次世代定住が急務となる。

(3) 年代別コーホート変化率



5~9歳の子どもが僅かに流入超過しているものの、全体的にほとんどの世代で流出傾向にあることが分かる。

特に注視されるのが、20~34歳子育て世代の大幅な流出超過である、高校卒業後世代を中心に流出が始まっており、流出した人口はほとんど地元には戻らず、その後も40代後半まで流出傾向が続いている。

また、同世代においては、男性より女性の方が多く流出しており、結婚・出産年齢女性の流出超過が、少子化を呼ぶといった悪循環が始まることも懸念される。

現状の子連れ世帯の流入傾向を維持しつつ、20~34歳世代を中心とした若年層の流出率抑制と、30代からのU&Iターン者の上乗せが同時に進むことが理想となる。

過去5年間の推移が15年続いた場合の例：

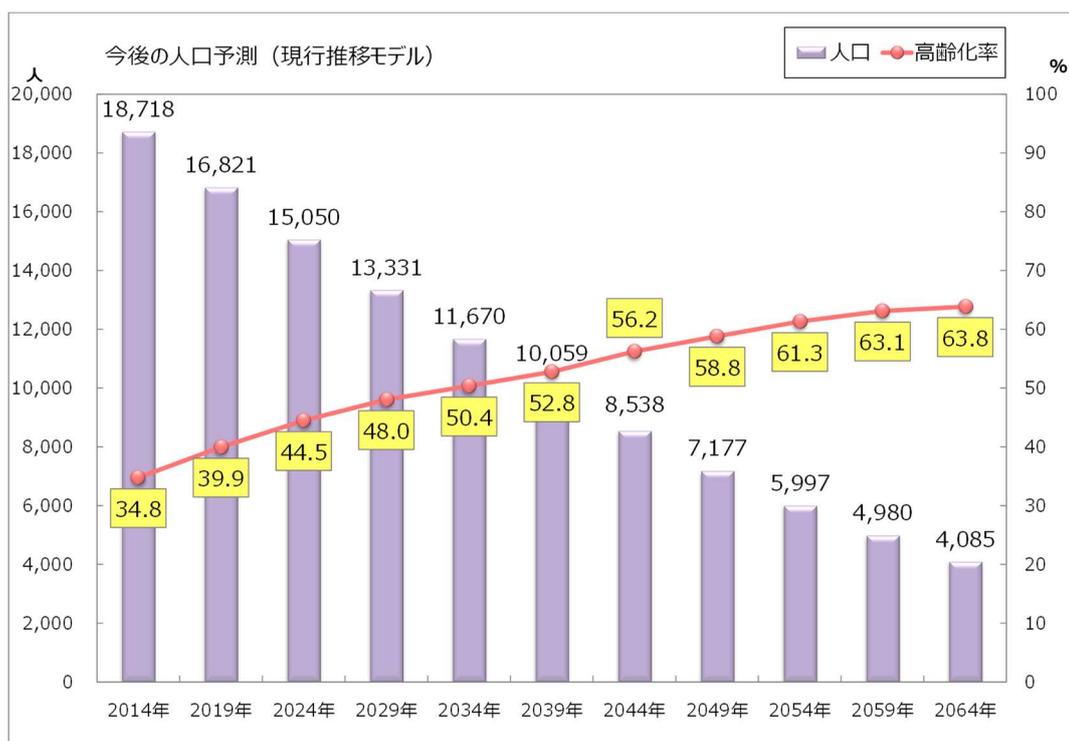
2019年に15~19歳男性が100人いた場合、2034年には**44**人まで減少（-56人）。

2019年に15~19歳女性が100人いた場合、2034年には**38**人まで減少（-62人）。

2. 現状推移シナリオ

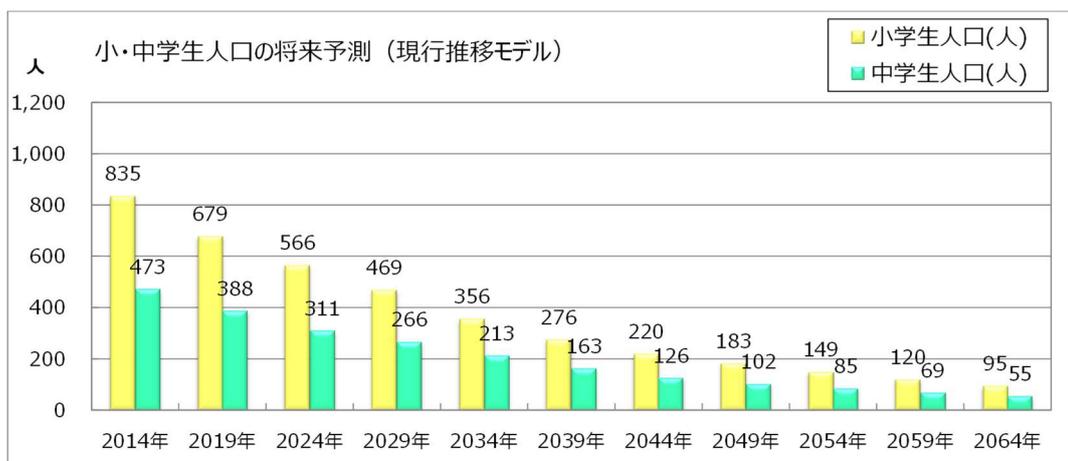
過去5年間（2014 - 2019 年間）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

（1）人口と高齢化率予測



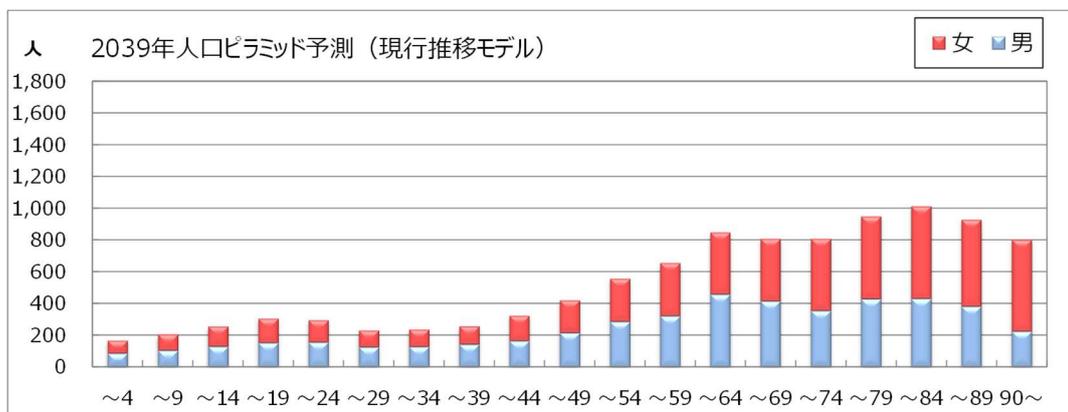
若年層を中心に大幅な流出が続くため、高齢化率は右肩上がりとなる。人口総数は右肩下がりとなり、下げ止まりが見えない状態となる。2064年には現在人口の約7.5割の減少となる。

(2) 小・中学生数予測



小・中学生も人口総数と同じく右肩下がりとなり、2064年には現在小・中学生数の8.6割減となる。これは人口総数以上の減り率である、このまま減少が続くと、現在の学校数維持は難しく、定住条件の悪化につながる懸念される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



2019年の人口構成グラフよりも各年代の人口が縮小しており、特に60代未満の人口の厚みが失われ、更なる人口の縮小につながろうとしている。

3. 合計特殊出生率向上シナリオ（【2.10】及び【8.89】）

人口動態は現状で推移し、※1合計特殊出生率（以下：「出生率」という）が上昇した場合の人口推移をパターン別に検討していく。

パターン1：段階的に出生率を上昇させたパターン。

佐用町人口ビジョンの目標出生率である2.10と設定した。

パターン2：出生率の上昇だけで人口安定化を達成させたパターン。

	合計特殊出生率	
	パターン1	パターン2
2019年	1.52	8.89
2024年	1.55	8.89
2029年	1.58	8.89
2034年	1.70	8.89
2039年	2.10	8.89
2044年	2.10	8.89
2049年	2.10	8.89
2054年～	2.10	8.89

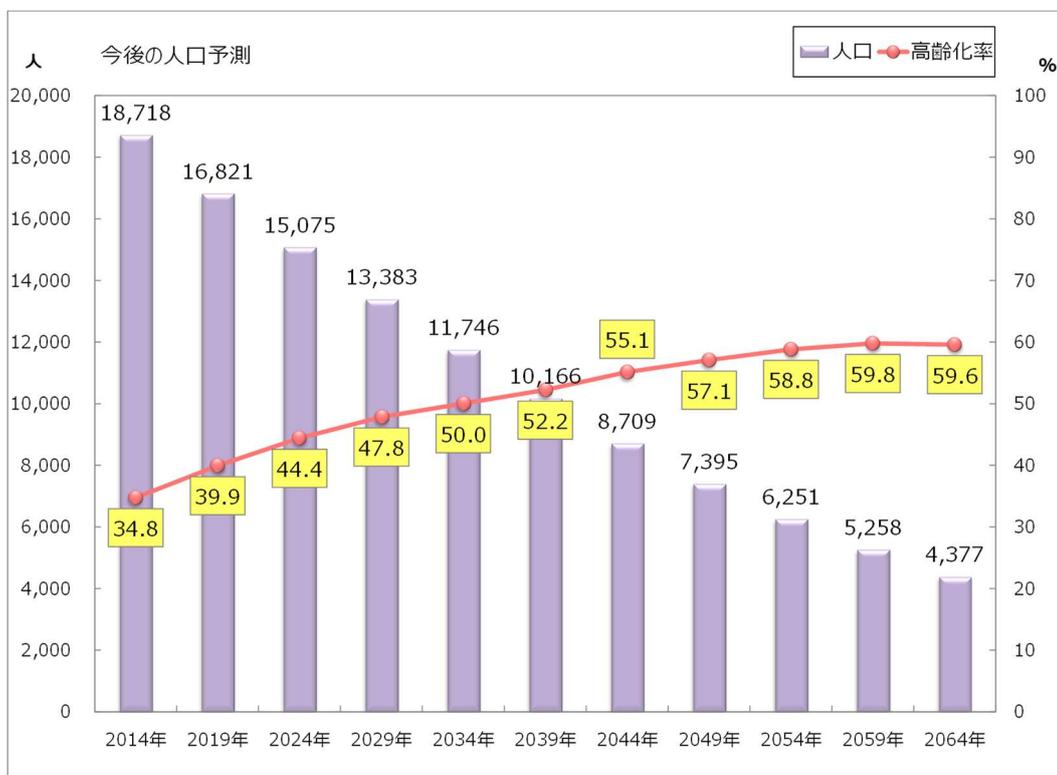
※1合計特殊出生率

ここでの【合計特殊出生率】は、現状の社会移動を含む【子ども女性比（0～4歳／20～39歳女性）】を変換したものであり、一般的な【合計特殊出生率】とは異なる。

ただし、【合計特殊出生率】と【子ども女性比】は高い相関関係があるため、値は近似し、むしろ社会移動を含めているため、より実効性が高いともいえる。

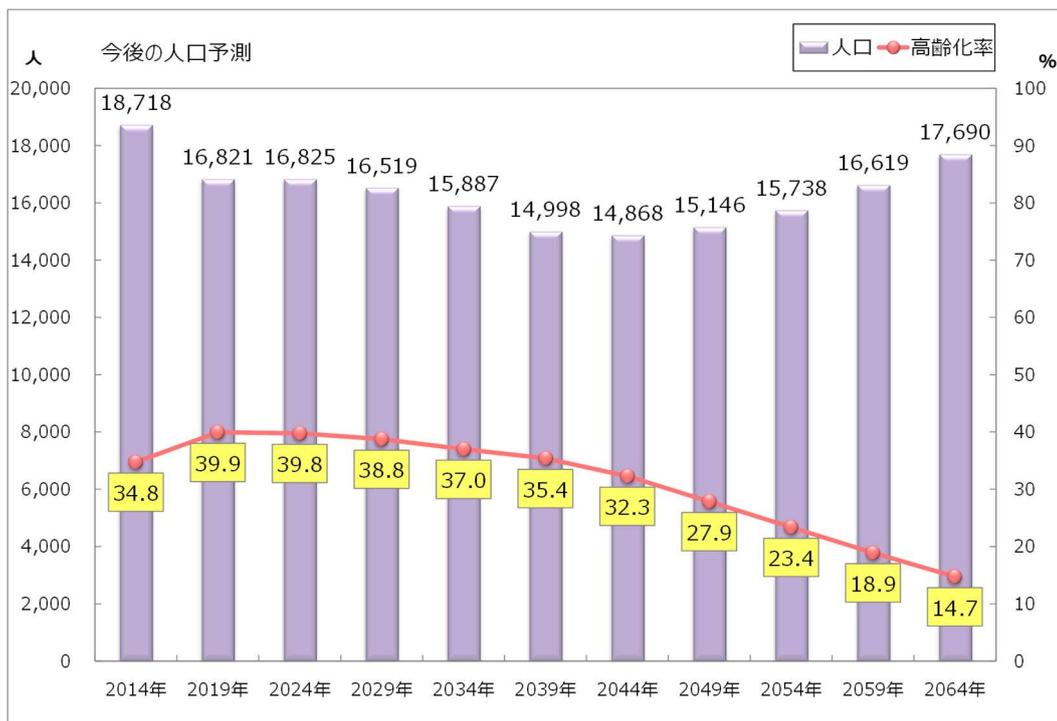
（1）人口と高齢化率予測

- ・パターン1（出生率2.10 段階的に上昇）



2064年には、現状推移と比べ約300人増加し、高齢化率も僅かに改善しているが、人口減少に歯止めはかからず、人口安定化は達成できていない。

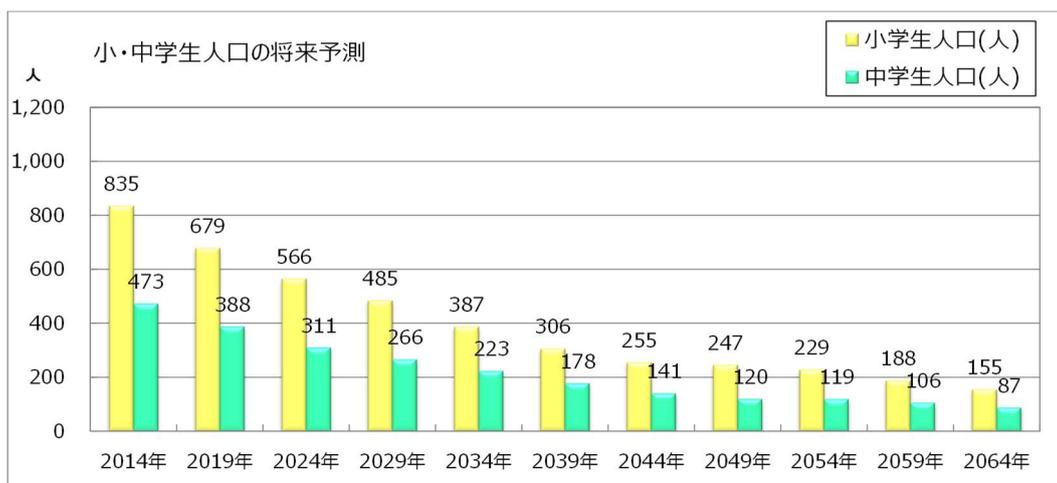
・パターン2（出生率 8.89）



出生率の向上だけで、人口を安定化させようとする、出生率を 8.89 まで向上させる必要がある。これは、当然ながら非現実的な数字である。過疎期以来長年にわたり若年層の流出が続いてきた地方自治体の多くでは、出生率の向上のみでの人口安定化は不可能である。

(2) 小・中学生数予測

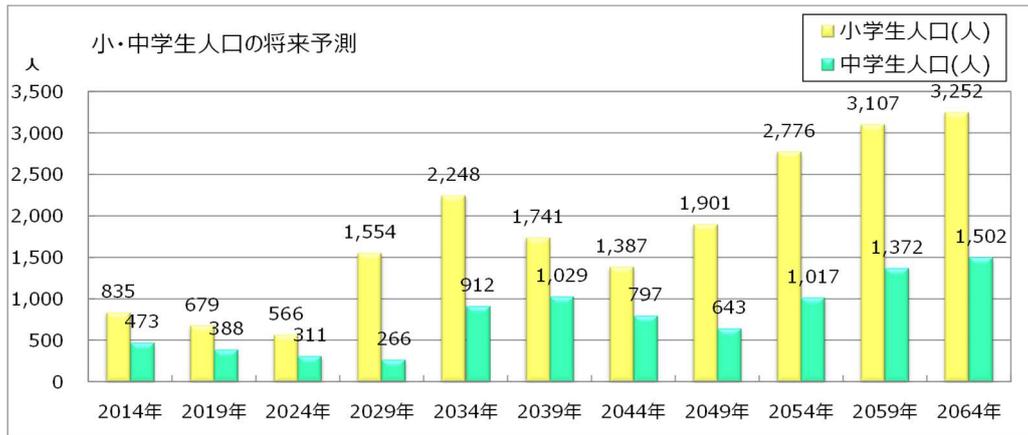
・パターン1（出生率 2.10 段階的に上昇）



現状推移の 2064 年では小・中学生数は現在人口の 8.6 割減であったが、このパターンでは約 7.7 割減と回復している（92 人増）。

出生率の向上は人口総数以上に、子ども人口に大きく影響している。しかし、小・中学生数についても、単なる出生率の向上のみでは、人口の安定化は難しい。

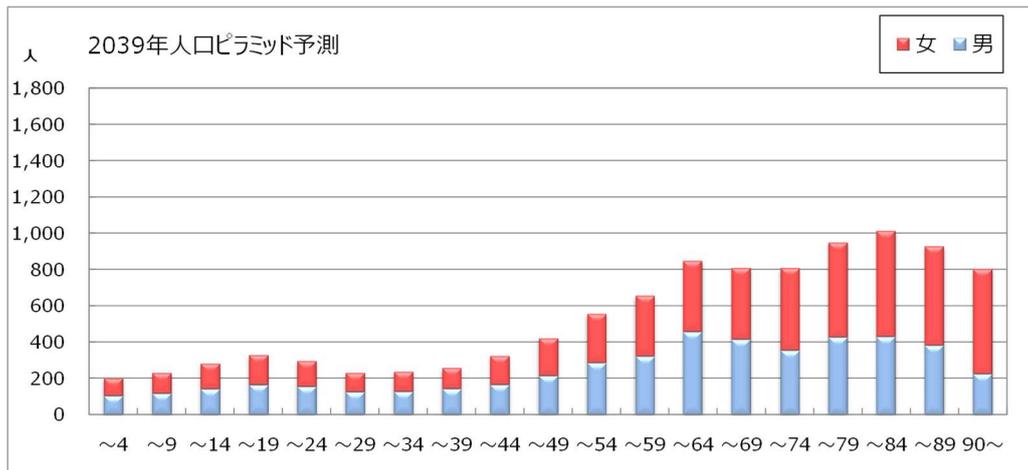
・パターン2（出生率 8.89）



出生率を 8.89 まで向上させると、小・中学生数数は飛躍的に増加するが、これも非現実な想定となる。

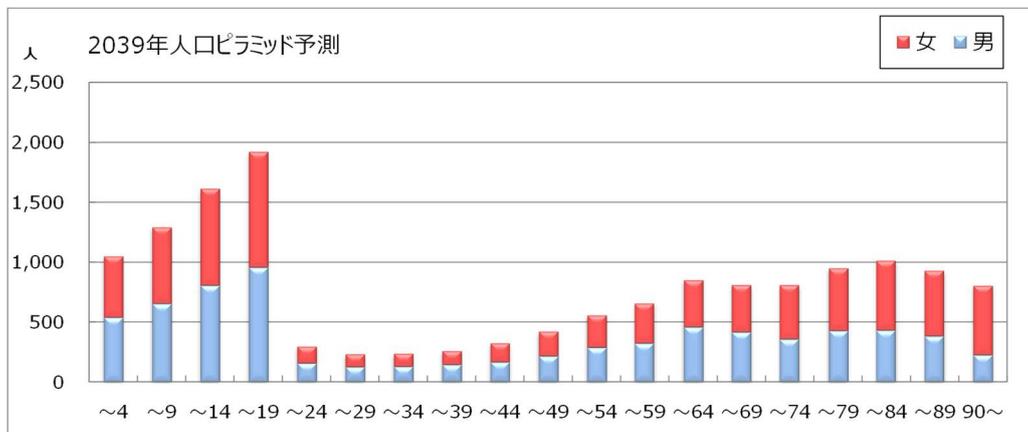
(3) 20 年後の年代別人口構成グラフ

・パターン1（出生率 2.10 段階的に上昇）



0～19 歳人口が増加する効果が現れている。

・パターン2（出生率 8.89）

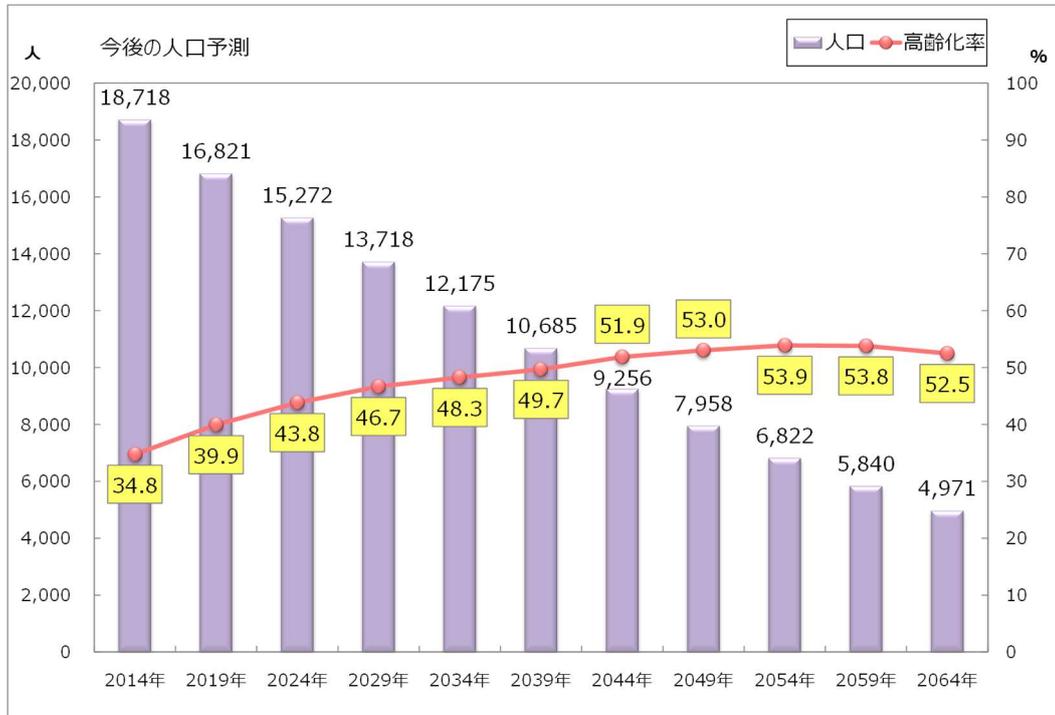


出生率の大幅な上昇によって、0～19 歳人口が激増している。

4. 10代後半流出防止シナリオ（全面ストップ時）

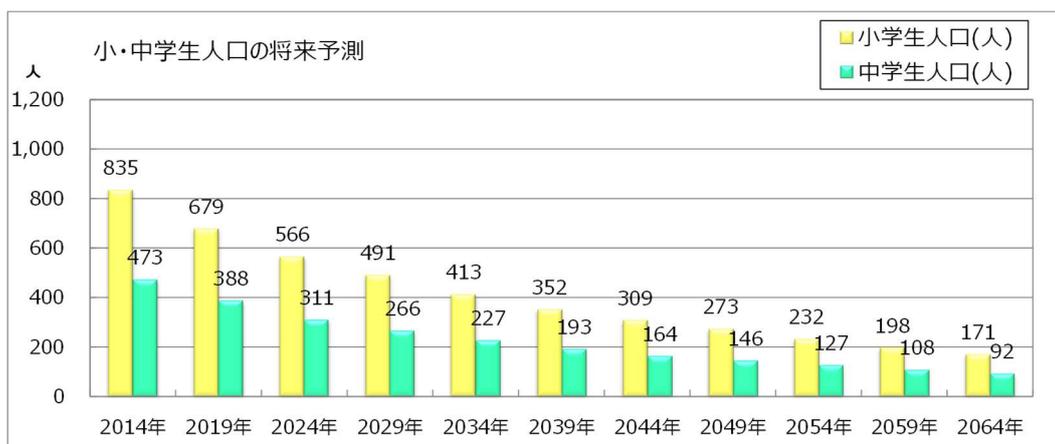
出生率は現状のままとし、10代後半（主に高校卒業後）の流出率を【0（流出なし）】とした場合の人口推移を検討していく。

（1）人口と高齢化率予測



現状推移と比べ、2064年には約900人増加し、人口総数・高齢化率ともかなり改善しているが、人口の減少は続き、人口安定化は達成できていない。

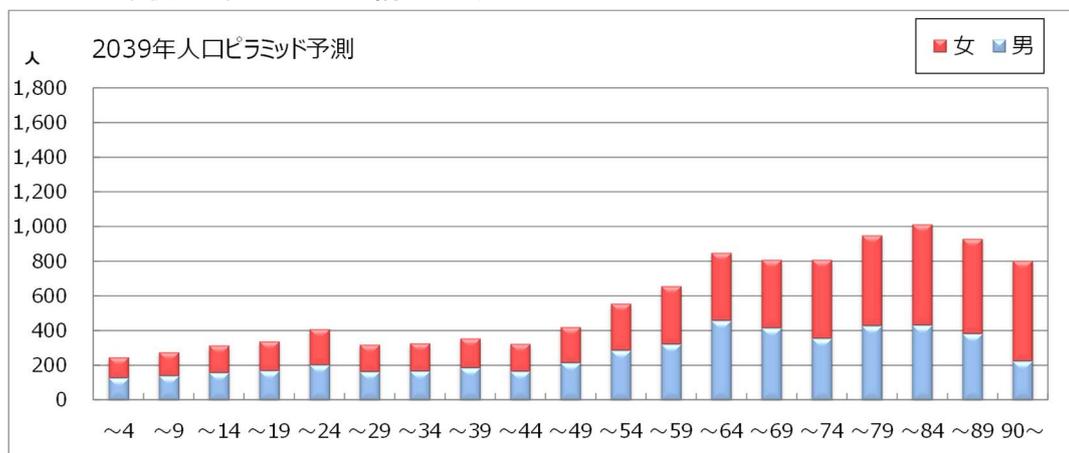
（2）小・中学生数予測



現状推移の2064年では小・中学生数は現在人口の約8.6割減だったが、10代後半の流出をストップさせると7.5割減まで改善している（113人増）。

若年世代の流出をストップさせることは人口総数だけでなく、子ども人口にも大きく影響していることが分かる。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



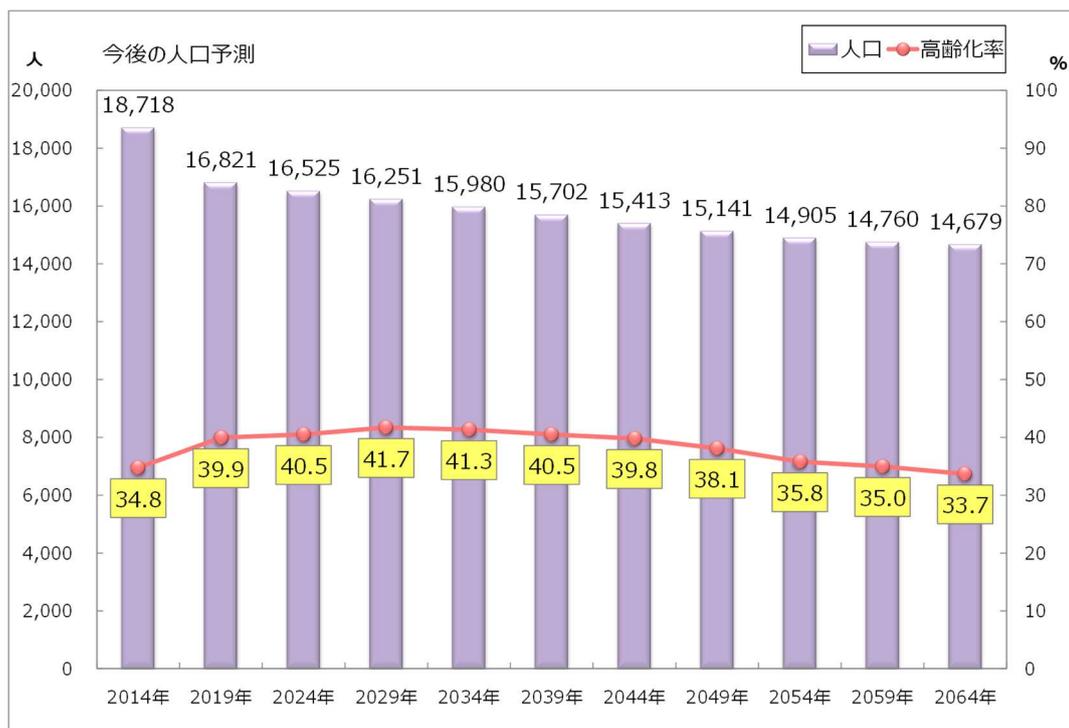
若い世代の流出をストップさせているため、40歳未満の世代の人口が増加している。

5. U & I ターン増加シナリオ

人口動態と出生率を現状のままとし、定住増加だけで人口安定化を達成させた場合の人口推移を検討していく。

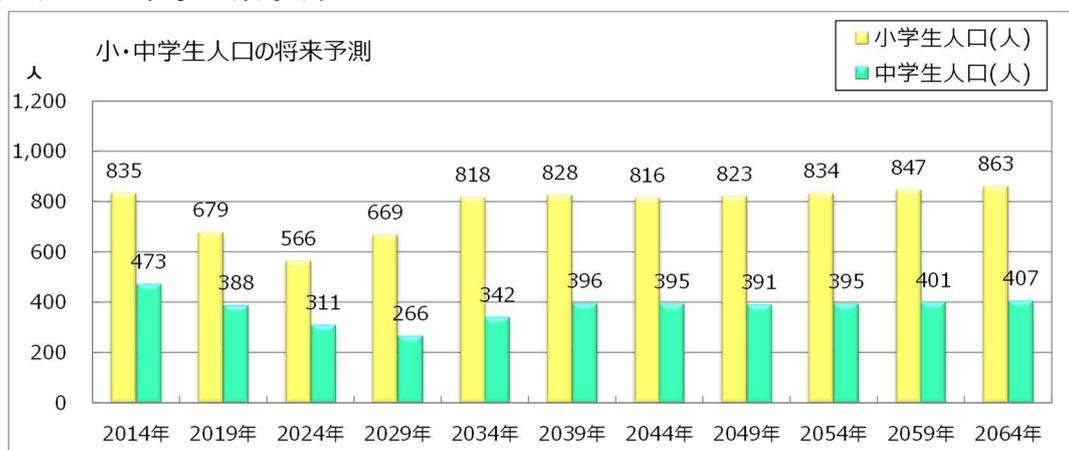
*安定化定住組数：毎年各世代 38.3 組（115 世帯 268 人）＝ 現在人口の約 1.59%

(1) 人口と高齢化率予測



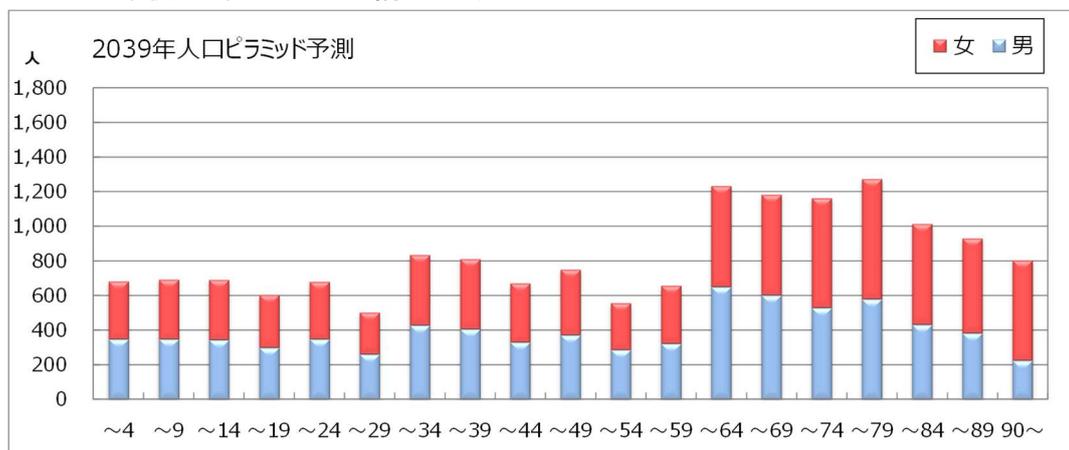
人口総数、高齢化率ともに、長期にわたる安定化が達成される。だが、毎年かなりの定住増加人数が必要となる。

(2) 小・中学生数予測



小・中学生数においては、2024年頃まで減少傾向にあるものの、その後は増加傾向にあり、約1,200人で安定化が達成される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



60代未満の人口の厚みが回復し、安定した人口の再生産が展望できる。

6. 組み合わせ最適シナリオ

組み合わせ最適シナリオとしては、【出生率・10代後半の流出率】を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように3世代バランスのとれた人口定住を増加させるというのが望ましい。

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせ最適シナリオを検討していく。
 なお、出生率は佐用町の目標出生率である2.10と設定した(佐用町人口ビジョンより)。

出生率：2.10（段階的に上昇）

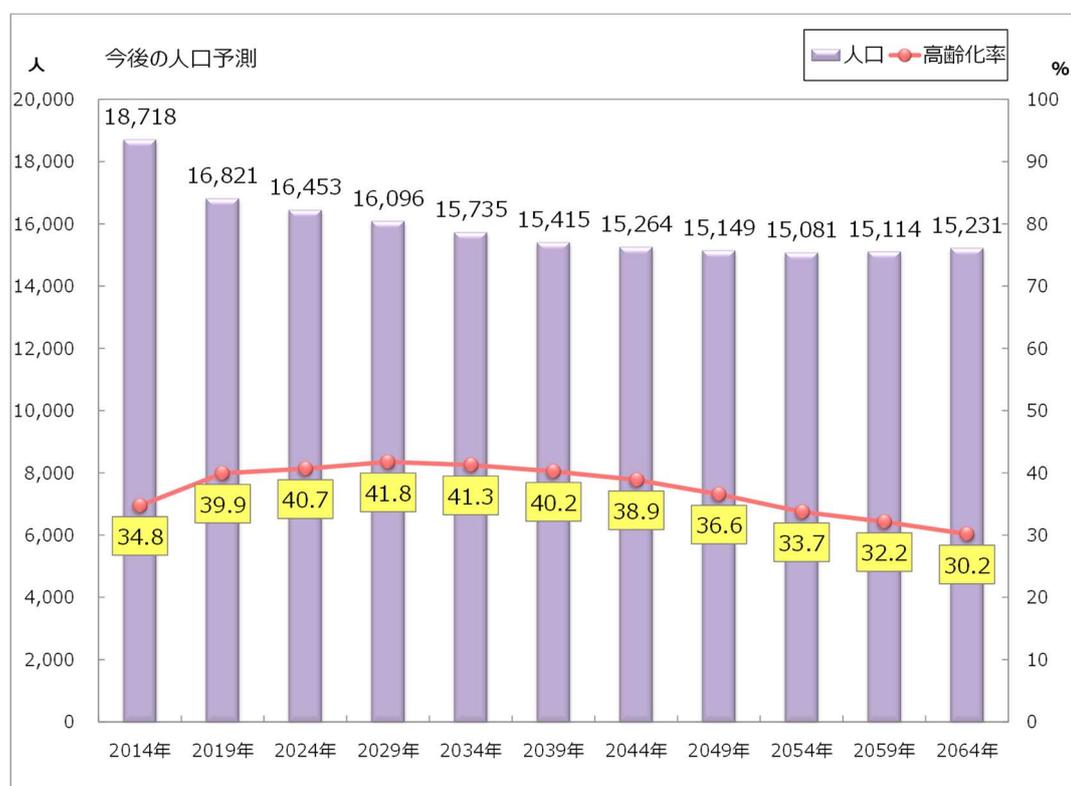
	合計特殊出生率
2019年	1.52
2024年	1.55
2029年	1.58
2034年	1.70
2039年	2.10
2044年～	2.10

流出率：10代後半の流出を半減

安定化定住組数：毎年32.6組（98世帯228人）現在人口の約1.36%

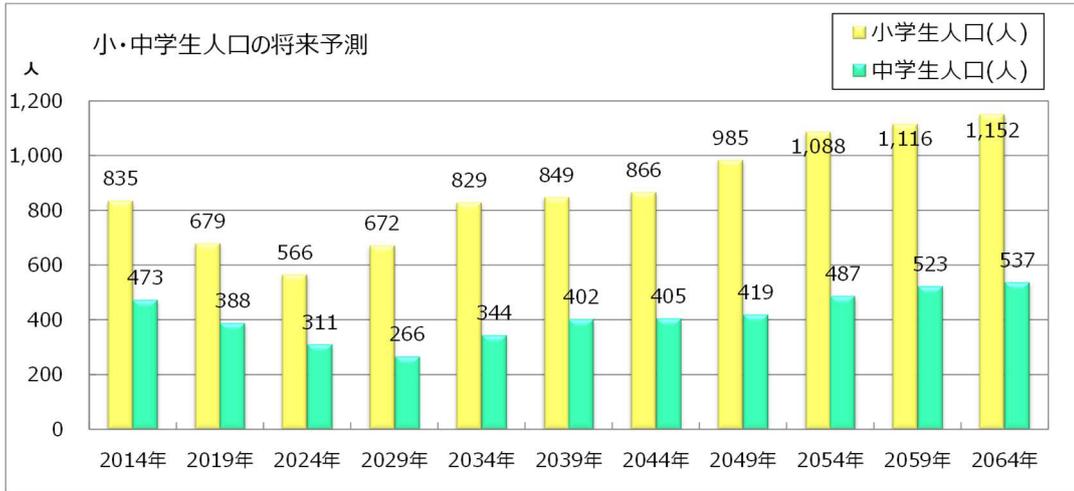
（出生率・流出率の改善との「合わせ技」により、少ない定住増加組数で十分となる。）

(1) 人口と高齢化率予測



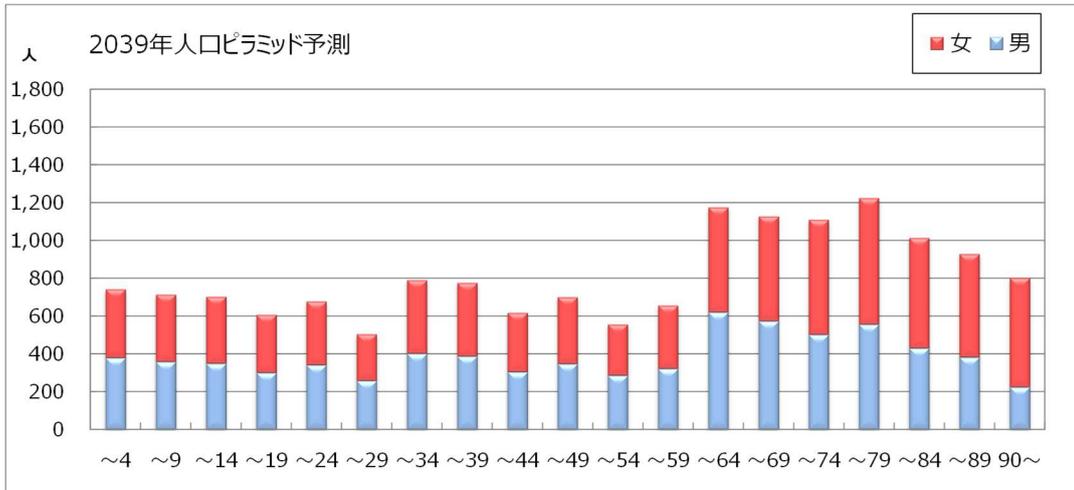
人口総数、高齢化率とも、長期にわたる安定化が達成される。

(2) 小・中学生数予測



小・中学生数においては、2024年頃までは減少傾向にあるものの、その後は増加傾向にあり安定化が達成される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



60代未満の人口の厚みが回復し、安定した人口の再生産が展望できる。

Ⅲ 地域づくり協議会編

佐用町全体の現状分析・人口推計だけでなく、更に小さな地域で見ることが重要である。地域毎の実情・課題・可能性に応じた現状分析・人口推計をすることで、より具体的な地域活性化策を提示することができるだろう。

佐用町を13の地域づくり協議会（以下「協議会」という）に分割し、協議会毎に現状分析・パターン別人口推計シミュレーションを行った。

地域毎のデータは一覧表及び、地図で表示する。

<参考>

佐用町地域づくり協議会名称マップ



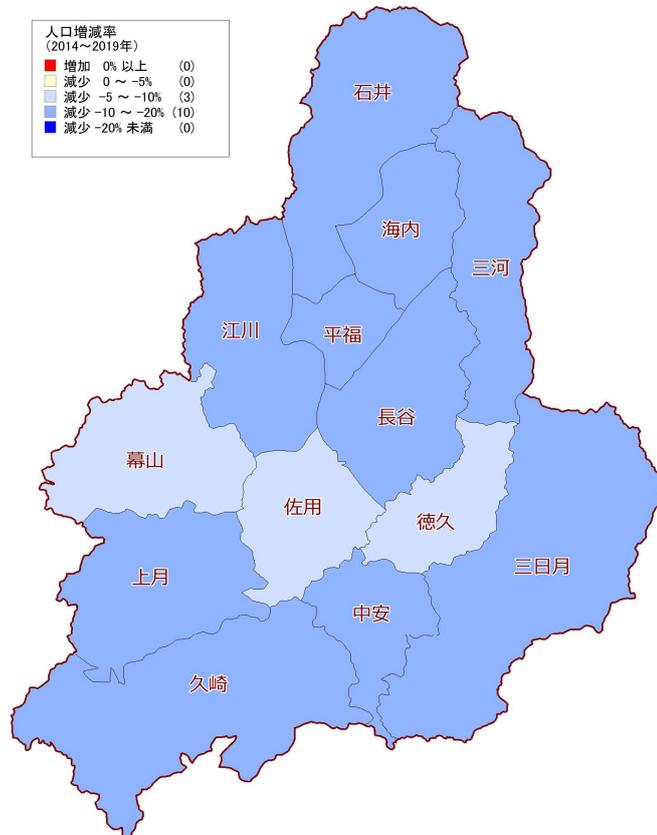
※地図境界データは『平成27年国勢調査境界データ』を基に作成

1. 現状分析（2014～2019年）

13の協議会毎に、過去5年間（2014 - 2019年間）の人口動態の推移を検討していく。

（1）人口増減数・増減率

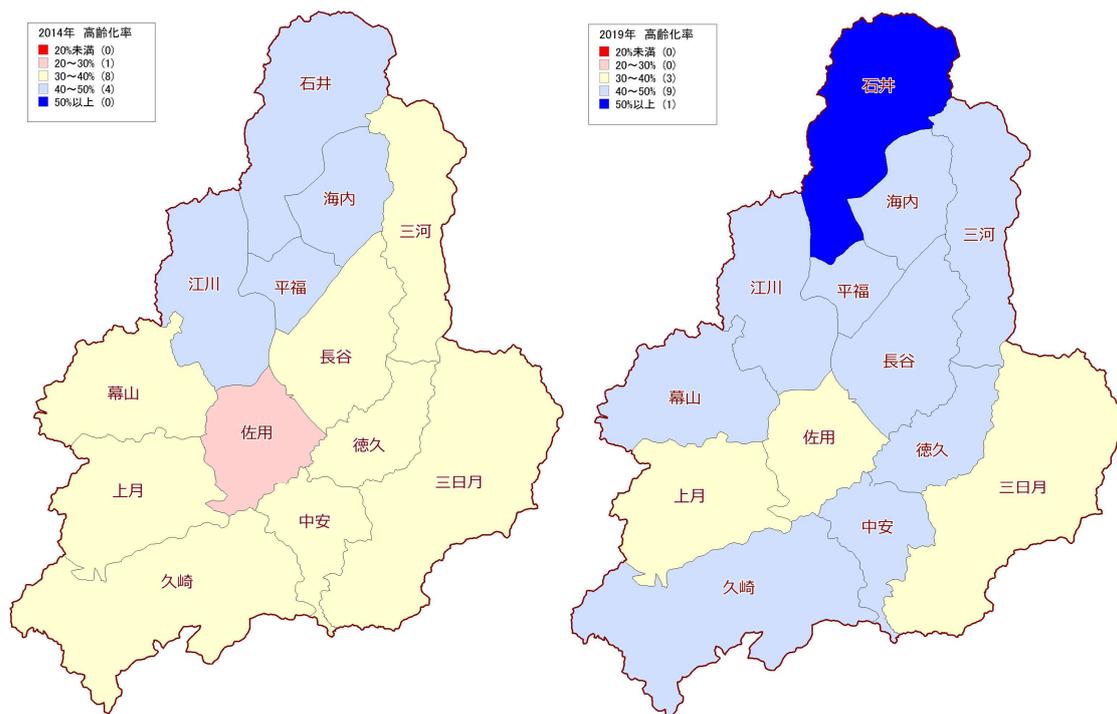
地域名	2014年 人口総数	2019年 人口総数	増減数	増減率
佐用	3,847	3,654	-193	-5.0%
長谷	886	794	-92	-10.4%
平福	745	628	-117	-15.7%
石井	651	573	-78	-12.0%
海内	223	189	-34	-15.2%
江川	1,120	984	-136	-12.1%
幕山	856	776	-80	-9.3%
上月	1,890	1,671	-219	-11.6%
久崎	1,834	1,597	-237	-12.9%
中安	1,175	1,031	-144	-12.3%
徳久	1,464	1,339	-125	-8.5%
三河	1,142	991	-151	-13.2%
三日月	2,885	2,594	-291	-10.1%
合計	18,718	16,821	-1,897	-10.1%



すべての地域で人口は減少傾向にあるが、同じ町内においても、減少率には差（-5.0%～-15.7%）が生じている。その原因を具体的に探り、今後の対策に活かす必要がある。

(2) 高齢化率

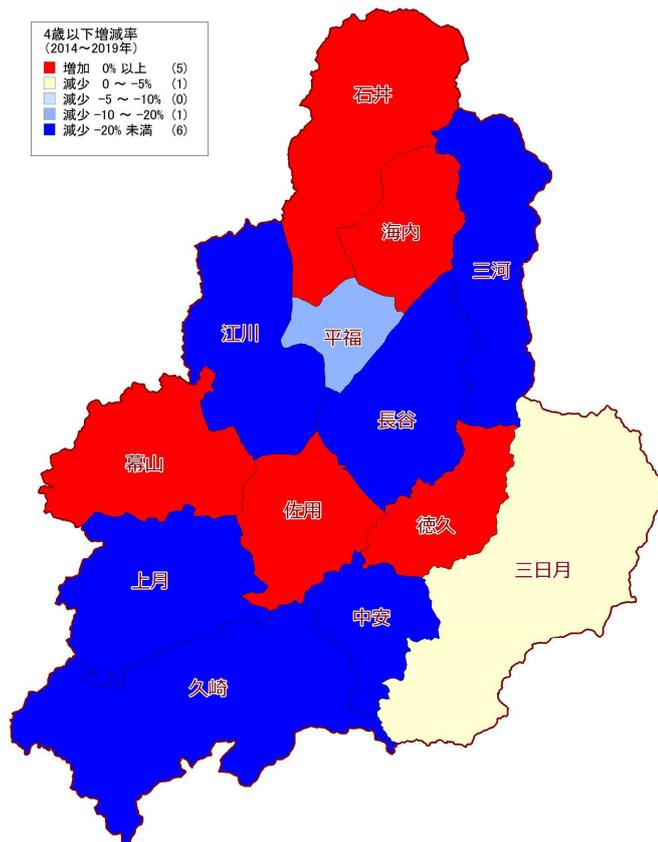
地域名	2014年 高齢化率	2019年 高齢化率	増減率	2014年 高齢者数	2019年 高齢者数	増減数
佐用	27.0%	30.2%	3.3%	1,038	1,105	67
長谷	35.4%	43.2%	7.8%	314	343	29
平福	44.3%	46.7%	2.4%	330	293	-37
石井	46.1%	52.9%	6.8%	300	303	3
海内	43.5%	49.7%	6.2%	97	94	-3
江川	41.3%	47.2%	5.9%	462	464	2
幕山	38.7%	44.2%	5.5%	331	343	12
上月	35.4%	39.1%	3.6%	670	653	-17
久崎	33.4%	40.9%	7.5%	613	653	40
中安	34.9%	44.4%	9.5%	410	458	48
徳久	36.3%	42.1%	5.9%	531	564	33
三河	34.6%	41.6%	7.0%	395	412	17
三日月	35.1%	39.9%	4.7%	1,014	1,034	20
合計	34.8%	39.9%	5.2%	6,505	6,719	214



すべての地域で高齢化率が上昇していることが分かる。また、総数としての高齢者数は増加しているが、13分の3地域では高齢者数の減少が始まっていることにも注目される。高齢者数の減少が始まっている地域では、高齢者人口のピーク又は、ピークを越えている可能性が高いことを意味し、自然減数が増えることで人口減少に拍車がかかると予測される。

(3) 4歳以下幼児数・増減率

地域名	2014年 4歳以下 幼児率	2019年 4歳以下 幼児率	増減率	2014年 4歳以下 幼児数	2019年 4歳以下 幼児数	増減数
佐用	4.0%	4.4%	3.2%	154	159	5
長谷	2.8%	2.1%	-32.0%	25	17	-8
平福	1.5%	1.4%	-18.2%	11	9	-2
石井	0.9%	1.7%	66.7%	6	10	4
海内	0.9%	2.1%	100.0%	2	4	2
江川	2.2%	1.7%	-32.0%	25	17	-8
幕山	2.5%	2.7%	0.0%	21	21	0
上月	2.7%	2.2%	-27.5%	51	37	-14
久崎	2.5%	1.4%	-50.0%	46	23	-23
中安	2.0%	1.8%	-20.8%	24	19	-5
徳久	1.9%	3.1%	46.4%	28	41	13
三河	2.8%	2.4%	-25.0%	32	24	-8
三日月	2.4%	2.6%	-4.3%	70	67	-3
合計	2.6%	2.7%	-9.5%	495	448	-47



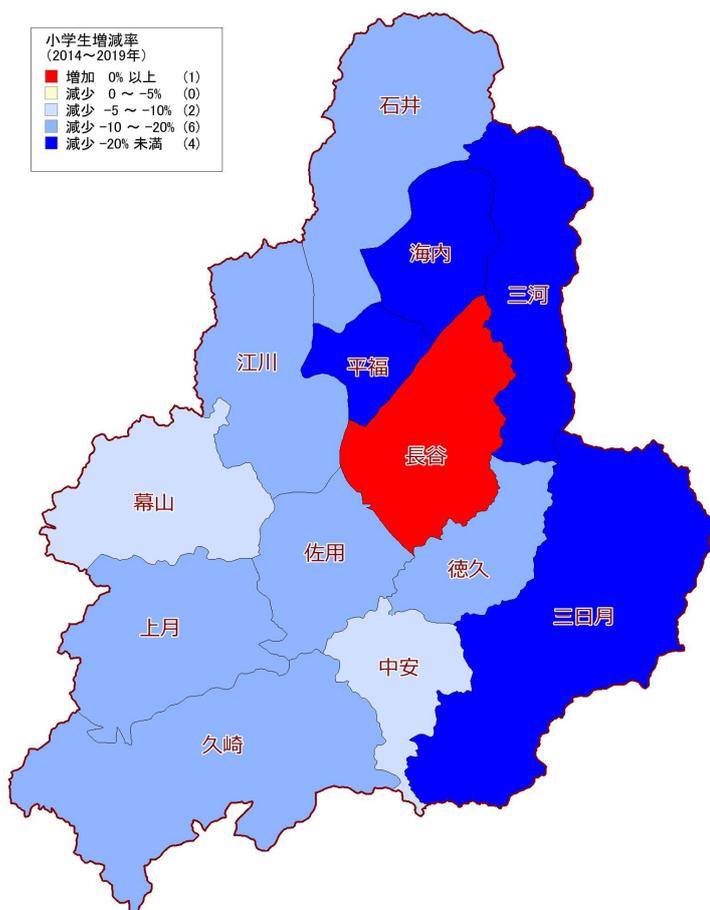
町全体の4歳以下人口数は約1割減少しているが、人口に対する4歳以下幼児率は僅かだが上昇している。このことから20～30代の流出の内訳は、単身・夫婦のみ世帯が多く、子連れ夫婦の流出は比較的少ないと予測される。

地域別に見ると13分の5地域では率・数ともに維持・上昇しており、地域毎の増減要因を具体的に探り、今後の対策に活かすことが期待される。

(4) 小学生数・増減率

小学生数は5～14歳男女人口に3/5を乗じて算出した（小学生は7,8,9,10,11,12歳と仮定）。

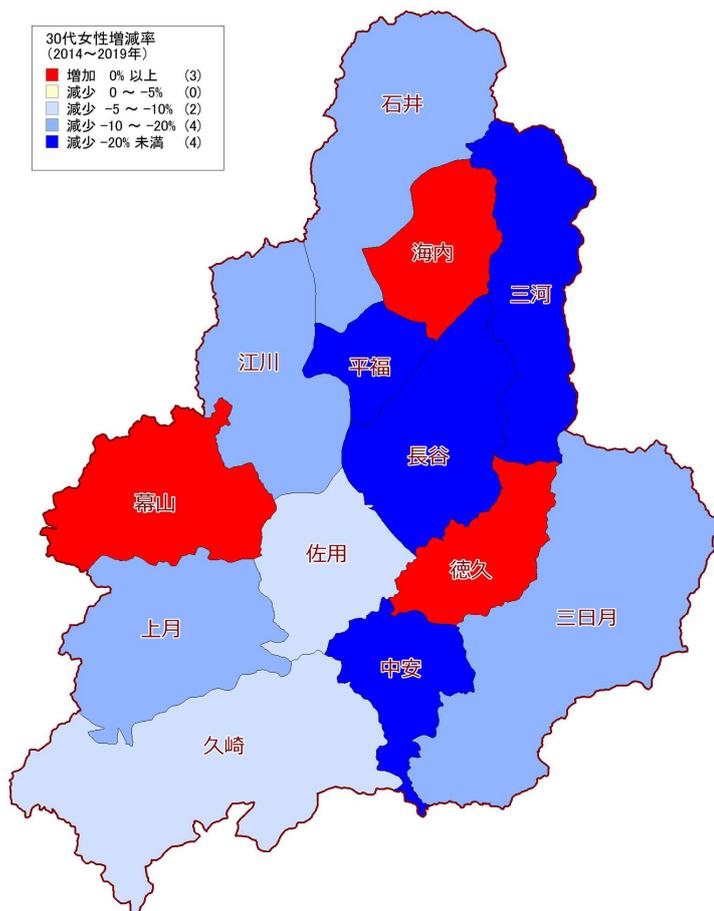
地域名	2014年 小学生率	2019年 小学生率	増減率	2014年 小学生数	2019年 小学生数	増減数
佐用	5.9%	5.4%	-12.4%	227	199	-28
長谷	4.3%	4.8%	1.6%	38	38	1
平福	4.3%	3.4%	-33.3%	32	22	-11
石井	2.2%	2.1%	-16.7%	14	12	-2
海内	3.5%	1.9%	-53.8%	8	4	-4
江川	3.5%	3.5%	-12.1%	40	35	-5
幕山	3.5%	3.6%	-8.0%	30	28	-2
上月	4.6%	4.2%	-19.4%	86	70	-17
久崎	3.7%	3.5%	-17.5%	68	56	-12
中安	3.6%	3.8%	-7.0%	43	40	-3
徳久	4.1%	3.6%	-19.0%	60	49	-11
三河	5.0%	3.9%	-31.6%	57	39	-18
三日月	4.6%	3.4%	-32.3%	132	89	-43
合計	4.5%	4.0%	-18.7%	835	679	-156



13分の12地域で小学生数・率ともに大きく減少しており、町全体の小学生人口は5年間で約2割も減少している。

(5) 30代女性数・増減率

地域名	2014年 30代 女性率	2019年 30代 女性率	増減率	2014年 30代 女性数	2019年 30代 女性数	増減数
佐用	5.6%	5.4%	-7.4%	215	199	-16
長谷	5.0%	3.1%	-43.2%	44	25	-19
平福	3.6%	3.2%	-25.9%	27	20	-7
石井	3.2%	3.1%	-14.3%	21	18	-3
海内	1.8%	2.1%	0.0%	4	4	0
江川	4.5%	4.1%	-20.0%	50	40	-10
幕山	3.2%	3.7%	7.4%	27	29	2
上月	4.9%	4.5%	-18.3%	93	76	-17
久崎	3.1%	3.3%	-7.0%	57	53	-4
中安	4.3%	2.8%	-42.0%	50	29	-21
徳久	3.3%	3.7%	2.0%	49	50	1
三河	5.3%	3.6%	-40.0%	60	36	-24
三日月	4.2%	3.9%	-16.7%	120	100	-20
合計	4.4%	4.0%	-16.9%	817	679	-138



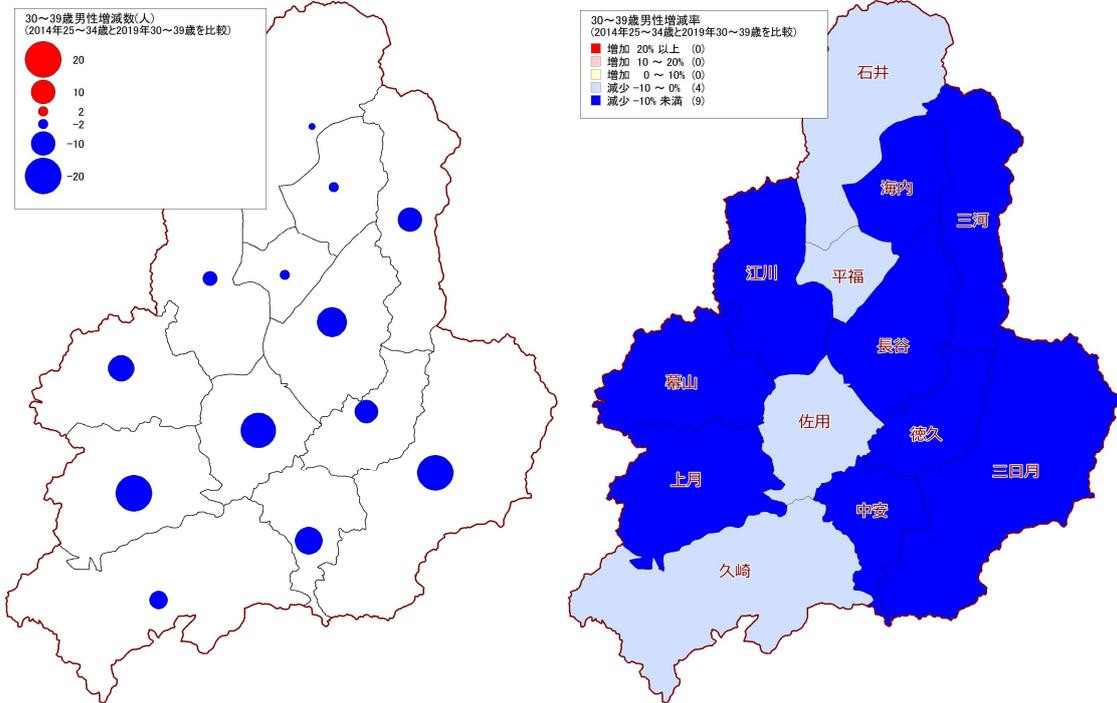
13分の10地域で30代女性数・率ともに大きく減少している。(町全体で約1.7割減)
結婚・出産年齢女性の減少は今後の少子化に大きく影響してくる。

(6) 30代男女コーホート増減数・増減率

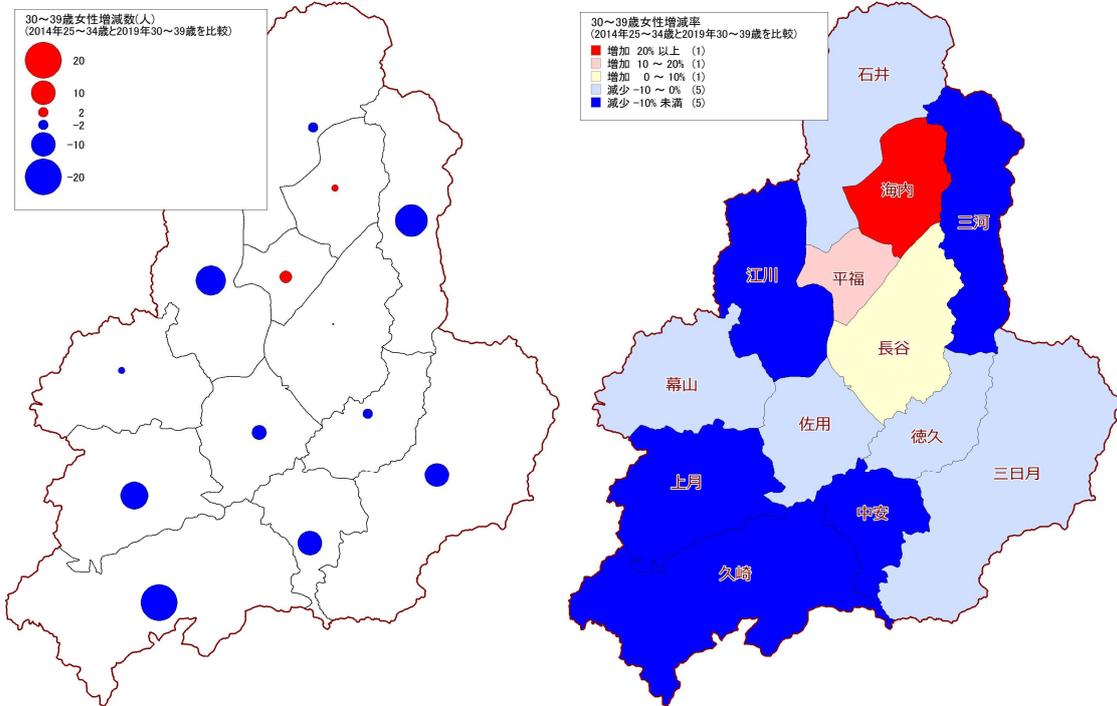
2014年と2019年の30～39歳男女の増減率ではなく、2014年25～34歳と2019年30～39歳男女で増減率を算出した。これにより、2014～2019年間での30代男女の社会増減が把握可能となる。

地域名	男性 コーホート 増減率	女性 コーホート 増減率	2014年 男25～34 歳人口数	2019年 男30～39 歳人口数	2014年 女25～34 歳人口数	2019年 女30～39 歳人口数	男性 増減数	女性 増減数
佐用	-9.1%	-2.0%	208	189	203	199	-19	-4
長谷	-26.4%	0.0%	53	39	25	25	-14	0
平福	-10.0%	17.6%	20	18	17	20	-2	3
石井	-4.0%	-10.0%	25	24	20	18	-1	-2
海内	-28.6%	33.3%	7	5	3	4	-2	1
江川	-11.8%	-25.9%	34	30	54	40	-4	-14
幕山	-22.9%	-3.3%	48	37	30	29	-11	-1
上月	-24.4%	-13.6%	90	68	88	76	-22	-12
久崎	-8.1%	-32.9%	74	68	79	53	-6	-26
中安	-23.5%	-25.6%	51	39	39	29	-12	-10
徳久	-14.1%	-3.8%	64	55	52	50	-9	-2
三河	-22.2%	-30.8%	45	35	52	36	-10	-16
三日月	-19.0%	-9.1%	126	102	110	100	-24	-10
合計	-16.1%	-12.0%	845	709	772	679	-136	-93

才) 男性増減数・増減率



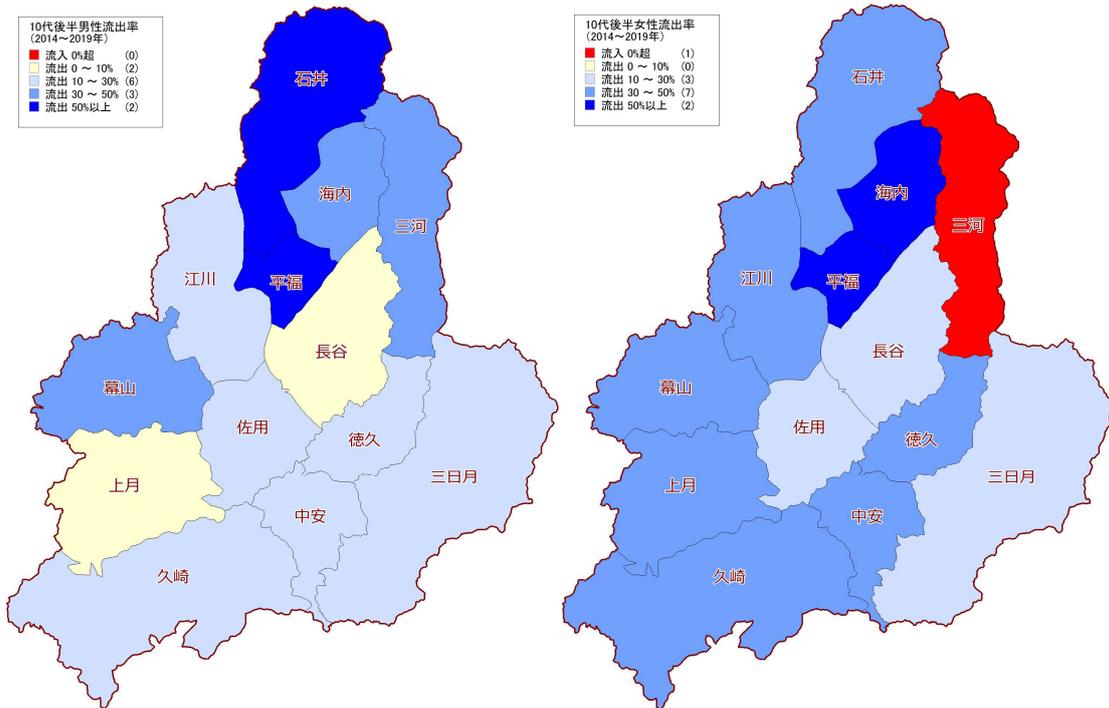
力) 女性増減数・増減率



ほとんどの地域で流出の傾向が男女とも同じであることから、夫婦での社会移動が多いと予測される。20～34歳では女性が流出率の方が高かったが、30～39歳では男性の流出率が高いことにも注目される。

(7) 10代後半男女流出数・流出率

地域名	男性 10代後半 流出率	女性 10代後半 流出率	2014年 男10代後 半人口数	2019年 男20代前 半人口数	2014年 女10代後 半人口数	2019年 女20代前 半人口数	男性 流出数	女性 流出数
佐用	21.3%	29.3%	108	85	99	70	23	29
長谷	9.1%	28.6%	11	10	7	5	1	2
平福	55.6%	57.9%	18	8	19	8	10	11
石井	50.0%	33.3%	8	4	12	8	4	4
海内	42.9%	60.0%	7	4	5	2	3	3
江川	16.7%	38.5%	18	15	26	16	3	10
幕山	44.4%	40.0%	18	10	15	9	8	6
上月	8.9%	32.7%	45	41	52	35	4	17
久崎	15.3%	38.5%	59	50	39	24	9	15
中安	28.6%	31.3%	28	20	32	22	8	10
徳久	28.1%	47.1%	32	23	51	27	9	24
三河	31.0%	-16.0%	29	20	25	29	9	-4
三日月	17.2%	26.2%	58	48	61	45	10	16
合計	23.0%	32.3%	439	338	443	300	101	143



10代後半（主に高校卒業後）人口は、ほとんどの地域（「三河」地域以外）で男女とも流出超過しており、男性より女性の方が多く流出している。

(8) 出生率

ここでの【出生率】は、現状の社会移動を含む【子ども女性比（0～4歳／20～39歳女性）】を変換したもので、一般的な【合計特殊出生率】とは異なる。

ただし、【合計特殊出生率】と【子ども女性比】は高い相関関係にあるため、値は近似し、むしろ社会移動を含めているため、より実効性が高いとも言える。

地域名	出生率	2019年 女20～39 歳人口数	2019年 4歳以下人 口数	子ども女性 比
佐用	1.83	348	159	0.46
長谷	1.66	41	17	0.41
平福	1.03	35	9	0.26
石井	1.21	33	10	0.30
海内	2.29	7	4	0.57
江川	0.94	72	17	0.24
幕山	1.59	53	21	0.40
上月	1.03	144	37	0.26
久崎	0.83	111	23	0.21
中安	1.31	58	19	0.33
徳久	1.58	104	41	0.39
三河	1.19	81	24	0.30
三日月	1.46	184	67	0.36
合計	1.41	1,271	448	0.35

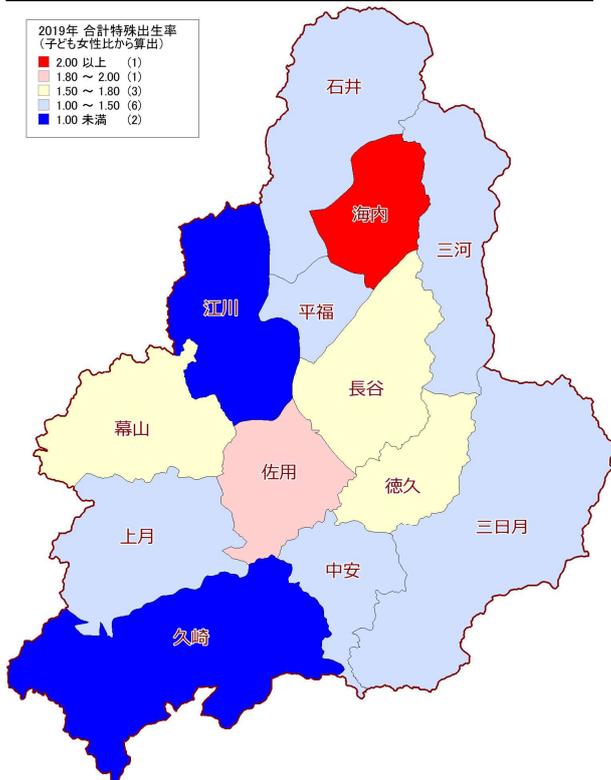
佐用町の H22 年合計特殊出生率は

【1.52】

（平成 20～24 年人口動態保健所・市区町村別統計より）

2019年 合計特殊出生率
(子ども女性比から算出)

- 2.00 以上 (1)
- 1.80 ~ 2.00 (1)
- 1.50 ~ 1.80 (3)
- 1.00 ~ 1.50 (6)
- 1.00 未満 (2)

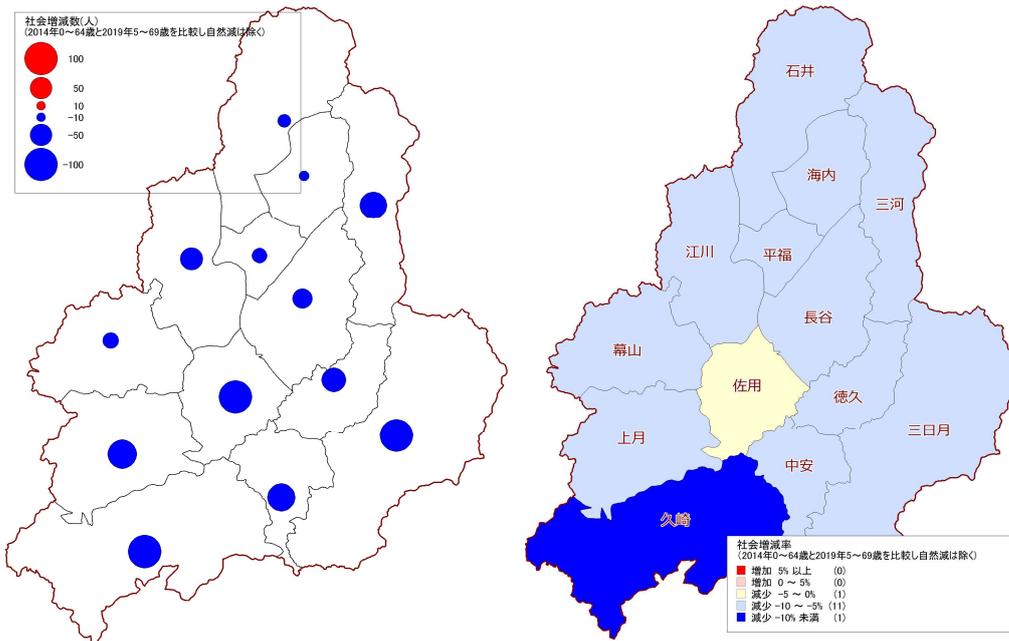


取得時点による誤差はあるが、13分の8地域で、H22年合計特殊出生率より低い値となった。これは実際の出生数が少ないというよりも、出産後数年の間に地域外に移動（引越し）しているため、子ども女性比（0～4歳／20～39歳女性）の値が小さくなっていると推測される。子ども女性比変換後の出生率が低い地域においては、出産後夫婦の定着も大きな課題であると考えられる。

(9) 社会増減数・増減率

2014～2019年0～64歳の自然減数(死亡者数)を、生残率データから予め算出しておき、2014年0～64歳人口から自然減数を除算したものと、2019年5～69歳で増減率を算出した。2014～2019年での自然減数を除くことで、より実態に近い社会増減が把握可能となる。

地域名	社会増減率	2014年 0～64歳人口 数(自然減除)	2019年 5～69歳人 口数	社会増減数
佐用	-4.0%	2,783	2,671	-112
長谷	-7.2%	566	525	-41
平福	-6.2%	410	385	-25
石井	-5.6%	346	327	-19
海内	-10.0%	124	112	-12
江川	-7.9%	651	599	-52
幕山	-5.5%	519	490	-29
上月	-6.5%	1,207	1,129	-78
久崎	-11.3%	1,208	1,072	-136
中安	-9.8%	756	682	-74
徳久	-6.3%	923	865	-58
三河	-9.6%	739	668	-71
三日月	-6.2%	1,851	1,737	-114
合計	-6.8%	12,083	11,262	-821



30代男女増減、4歳以下幼児、小学生、出生率等を合わせて検討していく。

すべての地域で社会減という結果となった。社会減少率が大きな地域では30代男女コーホート減少率も高い傾向にあることから、若年夫婦の流出の影響が大きいと予測される。だが、社会減少となっている地域でも、4歳以下人口・小学生人口が増えている地域や、子ども女性比が高い地域も確認できることから、僅かではあるが子連れ世帯の取り戻し傾向が見える。

そして、多くの地域に共通する人口減少の最も大きな要因は、若年世代の流出であり、特に20～30代におけるU&Iターン者の少なさが大きな要因であると予測される。

(10) コーホート変化率一覧

地域名	性別	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳
佐用	男	0.99	0.98	0.92	0.90	0.79	0.84	0.94	0.88	1.03	0.95	1.02	1.07	0.93	0.95	0.92	0.83
	女	1.08	1.07	0.99	0.95	0.71	0.94	0.93	1.03	0.99	0.93	0.96	1.00	1.04	0.96	0.96	0.97
長谷	男	0.89	1.33	1.00	0.91	0.91	0.72	0.64	0.90	0.90	0.94	0.93	0.91	0.87	0.95	0.98	0.85
	女	0.56	1.00	0.92	0.86	0.71	0.92	0.75	1.12	0.96	0.86	1.00	0.88	1.05	1.00	0.97	0.94
平福	男	0.57	1.00	0.88	0.89	0.44	0.42	0.77	1.14	0.95	1.15	1.00	0.91	1.00	1.16	0.84	0.93
	女	1.25	1.00	1.11	1.00	0.42	0.78	1.11	1.25	1.00	0.85	1.00	1.00	1.00	1.03	0.88	1.05
石井	男	1.75	1.00	1.00	0.83	0.50	0.67	1.44	0.69	0.79	1.14	1.00	1.00	0.95	0.97	0.97	0.67
	女	1.50	1.50	1.33	1.00	0.67	0.58	1.00	0.83	1.00	0.90	1.00	1.00	0.96	1.03	1.00	0.93
海内	男	0.00	1.00	1.00	0.80	0.57	0.71	0.50	0.83	1.00	1.20	0.89	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	女	1.50	0.50	1.00	1.00	0.40	0.25	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.80
江川	男	0.53	1.00	1.00	0.70	0.83	0.70	0.69	1.06	1.00	0.91	1.00	1.04	1.00	0.96	0.96	0.96
	女	1.00	1.00	0.95	1.00	0.62	0.59	0.62	0.86	1.05	0.94	0.96	1.00	1.02	1.00	1.02	1.00
幕山	男	1.78	1.11	1.30	0.92	0.56	0.75	0.73	0.82	1.07	1.00	1.00	0.93	0.95	1.09	0.88	0.90
	女	0.42	1.17	1.00	0.89	0.60	0.79	0.71	1.19	1.09	0.92	1.00	0.97	1.03	0.93	1.00	0.94
上月	男	0.69	1.03	0.81	0.84	0.91	0.66	0.78	0.73	0.98	1.00	0.97	0.96	1.02	0.98	0.96	0.85
	女	0.77	1.09	1.03	1.08	0.67	0.72	0.73	0.95	1.03	1.02	0.89	0.98	1.10	1.03	0.96	0.97
久崎	男	0.48	1.04	0.96	1.00	0.85	0.63	0.88	0.97	0.87	0.90	0.97	0.97	0.98	0.95	0.95	0.95
	女	0.52	0.96	0.92	0.77	0.62	0.59	0.59	0.84	0.91	0.95	0.93	1.00	0.92	0.99	0.97	0.95
中安	男	1.63	1.13	1.11	0.91	0.71	0.80	0.70	0.83	1.03	1.03	0.96	0.79	1.00	0.90	0.90	0.90
	女	0.38	0.88	1.05	1.00	0.69	0.33	0.55	1.00	0.88	0.97	1.04	0.81	1.04	0.97	0.96	0.95
徳久	男	1.00	1.24	1.00	1.06	0.72	0.69	0.84	0.88	1.06	0.82	1.03	0.88	0.98	1.00	0.93	0.90
	女	2.18	1.09	0.96	0.95	0.53	0.73	0.93	1.00	1.15	0.93	1.08	0.88	1.00	1.03	0.98	0.92
三河	男	0.53	0.93	0.90	0.90	0.69	0.54	0.68	0.87	0.97	0.93	0.92	1.17	0.94	0.94	0.84	0.88
	女	0.94	1.00	0.88	0.75	1.16	0.84	0.70	0.69	0.90	0.89	1.08	0.97	1.00	0.86	0.87	0.87
三日月	男	0.80	0.83	1.00	0.99	0.83	0.69	0.70	0.91	0.97	0.93	1.00	0.95	0.99	0.98	0.95	0.83
	女	1.17	1.03	0.93	0.93	0.74	0.61	0.79	1.04	0.92	0.97	1.06	1.01	1.03	0.98	0.96	0.99

※0～4歳は2014～2019年の増減率

(11) 一覽表

地域名	現状分析 2014~2019年														
	(1) 人口総数				(2) 高齢化率		(3) 4歳以下幼児率・増減			(4) 小学生率・増減			(5) 30代女性率・増減		
	2014年 人口総数	2019年 人口総数	増減数	増減率	2014年 高齢化率	2019年 高齢化率	2014年 4歳以下 幼児率	2019年 4歳以下 幼児率	増減率	2014年 小学生率	2019年 小学生率	増減率	2014年 30代女 性率	2019年 30代女 性率	増減率
佐用	3,847	3,654	-193	-5.0%	27.0%	30.2%	4.0%	4.4%	0.3%	5.9%	5.4%	-0.5%	5.6%	5.4%	-0.1%
長谷	886	794	-92	-10.4%	35.4%	43.2%	2.8%	2.1%	-0.7%	4.3%	4.8%	0.6%	5.0%	3.1%	-1.8%
平福	745	628	-117	-15.7%	44.3%	46.7%	1.5%	1.4%	0.0%	4.3%	3.4%	-0.9%	3.6%	3.2%	-0.4%
石井	651	573	-78	-12.0%	46.1%	52.9%	0.9%	1.7%	0.8%	2.2%	2.1%	-0.1%	3.2%	3.1%	-0.1%
海内	223	189	-34	-15.2%	43.5%	49.7%	0.9%	2.1%	1.2%	3.5%	1.9%	-1.6%	1.8%	2.1%	0.3%
江川	1,120	984	-136	-12.1%	41.3%	47.2%	2.2%	1.7%	-0.5%	3.5%	3.5%	0.0%	4.5%	4.1%	-0.4%
幕山	856	776	-80	-9.3%	38.7%	44.2%	2.5%	2.7%	0.3%	3.5%	3.6%	0.1%	3.2%	3.7%	0.6%
上月	1,890	1,671	-219	-11.6%	35.4%	39.1%	2.7%	2.2%	-0.5%	4.6%	4.2%	-0.4%	4.9%	4.5%	-0.4%
久崎	1,834	1,597	-237	-12.9%	33.4%	40.9%	2.5%	1.4%	-1.1%	3.7%	3.5%	-0.2%	3.1%	3.3%	0.2%
中安	1,175	1,031	-144	-12.3%	34.9%	44.4%	2.0%	1.8%	-0.2%	3.6%	3.8%	0.2%	4.3%	2.8%	-1.4%
徳久	1,464	1,339	-125	-8.5%	36.3%	42.1%	1.9%	3.1%	1.1%	4.1%	3.6%	-0.5%	3.3%	3.7%	0.4%
三河	1,142	991	-151	-13.2%	34.6%	41.6%	2.8%	2.4%	-0.4%	5.0%	3.9%	-1.1%	5.3%	3.6%	-1.6%
三日月	2,885	2,594	-291	-10.1%	35.1%	39.9%	2.4%	2.6%	0.2%	4.6%	3.4%	-1.1%	4.2%	3.9%	-0.3%
合計	18,718	16,821	-1,897	-10.1%	34.8%	39.9%	2.6%	2.7%	0.0%	4.5%	4.0%	-0.4%	4.4%	4.0%	-0.3%

地域名	現状分析 2014~2019年										
	(6) 30代コ-ホ-ト増減数・率				(7) 10代後半流出数・率				(8) 出生率	(9) 社会増減数・率	
	男性 増減数	女性 増減数	男性 増減率	女性 増減率	男性 流出数	女性 流出数	男性 流出率	女性 流出率	出生率	増減数	増減率
佐用	-19	-4	-9.1%	-2.0%	23	29	21.3%	29.3%	1.83	-112	-4.0%
長谷	-14	0	-26.4%	0.0%	1	2	9.1%	28.6%	1.66	-41	-7.2%
平福	-2	3	-10.0%	17.6%	10	11	55.6%	57.9%	1.03	-25	-6.2%
石井	-1	-2	-4.0%	-10.0%	4	4	50.0%	33.3%	1.21	-19	-5.6%
海内	-2	1	-28.6%	33.3%	3	3	42.9%	60.0%	2.29	-12	-10.0%
江川	-4	-14	-11.8%	-25.9%	3	10	16.7%	38.5%	0.94	-52	-7.9%
幕山	-11	-1	-22.9%	-3.3%	8	6	44.4%	40.0%	1.59	-29	-5.5%
上月	-22	-12	-24.4%	-13.6%	4	17	8.9%	32.7%	1.03	-78	-6.5%
久崎	-6	-26	-8.1%	-32.9%	9	15	15.3%	38.5%	0.83	-136	-11.3%
中安	-12	-10	-23.5%	-25.6%	8	10	28.6%	31.3%	1.31	-74	-9.8%
徳久	-9	-2	-14.1%	-3.8%	9	24	28.1%	47.1%	1.58	-58	-6.3%
三河	-10	-16	-22.2%	-30.8%	9	-4	31.0%	-16.0%	1.19	-71	-9.6%
三日月	-24	-10	-19.0%	-9.1%	10	16	17.2%	26.2%	1.46	-114	-6.2%
合計	-136	-93	-16.1%	-12.0%	101	143	23.0%	32.3%	1.41	-821	-6.8%

2. 現状推移シナリオ

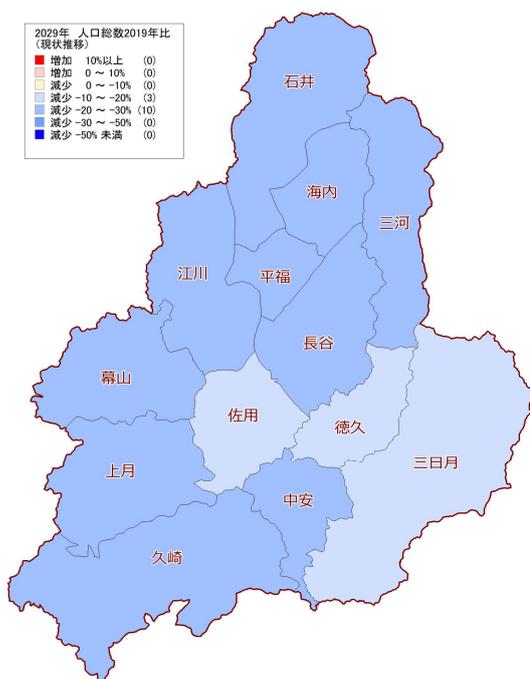
13 の協議会毎に、過去 5 年間の人口動態が続いた場合の人口推移を検討していく。

(1) 人口予測

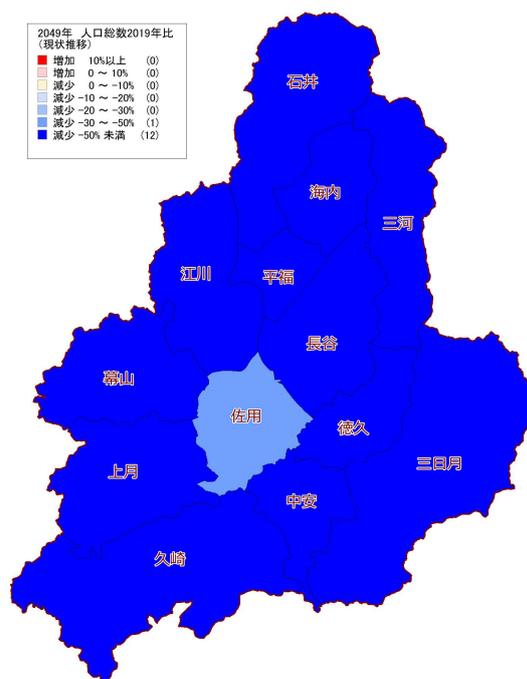
ア) 一覧表

地域名	人口総数				対2019年比		
	2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年
佐用	3,654	3,235	2,296	1,683	-11.5%	-37.2%	-53.9%
長谷	794	617	326	190	-22.3%	-58.9%	-76.1%
平福	628	479	244	130	-23.7%	-61.1%	-79.3%
石井	573	421	198	107	-26.4%	-65.4%	-81.3%
海内	189	144	73	37	-23.8%	-61.3%	-80.2%
江川	984	740	357	187	-24.8%	-63.7%	-81.0%
幕山	776	611	323	191	-21.2%	-58.4%	-75.4%
上月	1,671	1,323	721	410	-20.9%	-56.8%	-75.5%
久崎	1,597	1,188	555	267	-25.6%	-65.3%	-83.3%
中安	1,031	785	334	155	-23.8%	-67.6%	-85.0%
徳久	1,339	1,090	589	358	-18.6%	-56.0%	-73.3%
三河	991	734	352	185	-26.0%	-64.4%	-81.3%
三日月	2,594	2,080	1,131	623	-19.8%	-56.4%	-76.0%
合計	16,821	13,448	7,501	4,523	-20.1%	-55.4%	-73.1%

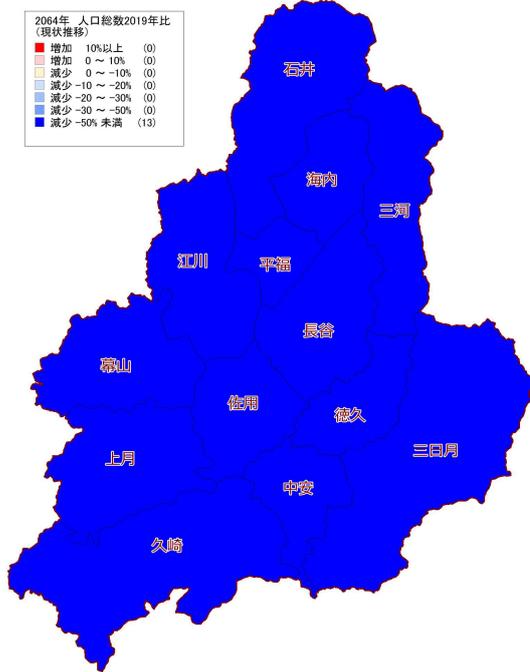
イ) 人口増減率 2029 年 (対 2019 年)



ウ) 人口増減率 2049 年 (対 2019 年)



エ) 人口増減率 2064 年 (対 2019 年)



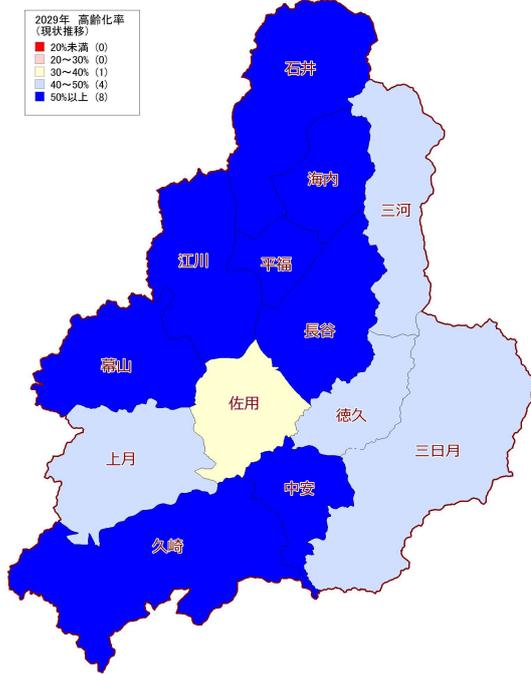
現状のまま推移すると、30年後の2049年には、13分の12地域で人口が半数未満となり、45年後の2064年にはすべての地域で半数未満となる。

(2) 高齢化率予測

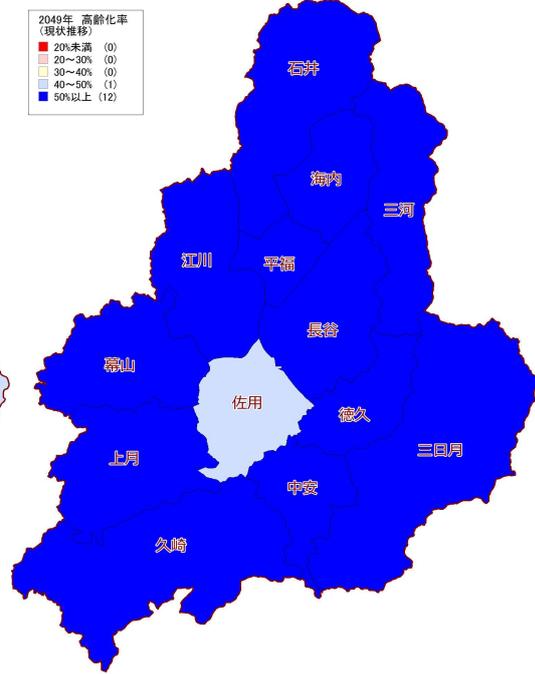
ア) 一覧表

地域名	高齢化率				対2019年増減			高齢者数			
	2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	30.2%	35.8%	42.9%	44.5%	5.6%	12.6%	14.3%	1,105	1,159	984	750
長谷	43.2%	50.9%	55.3%	52.4%	7.7%	12.1%	9.2%	343	314	180	99
平福	46.7%	56.3%	67.2%	76.5%	9.6%	20.6%	29.8%	293	270	164	99
石井	52.9%	59.0%	61.8%	64.2%	6.1%	8.9%	11.4%	303	249	123	69
海内	49.7%	54.0%	68.0%	70.6%	4.3%	18.3%	20.8%	94	78	50	26
江川	47.2%	57.6%	71.9%	80.3%	10.5%	24.8%	33.2%	464	427	257	150
幕山	44.2%	51.0%	55.6%	62.1%	6.8%	11.4%	17.9%	343	312	179	119
上月	39.1%	49.7%	62.8%	68.5%	10.6%	23.7%	29.4%	653	657	453	280
久崎	40.9%	53.6%	67.3%	79.3%	12.7%	26.4%	38.4%	653	636	374	212
中安	44.4%	55.2%	70.1%	74.7%	10.7%	25.7%	30.3%	458	433	234	116
徳久	42.1%	47.8%	53.1%	60.6%	5.7%	11.0%	18.5%	564	521	313	217
三河	41.6%	47.0%	58.3%	58.2%	5.5%	16.7%	16.6%	412	345	206	108
三日月	39.9%	48.4%	63.4%	66.2%	8.6%	23.5%	26.3%	1,034	1,008	717	412
合計	39.9%	47.6%	56.4%	58.8%	7.7%	16.5%	18.8%	6,719	6,408	4,234	2,657

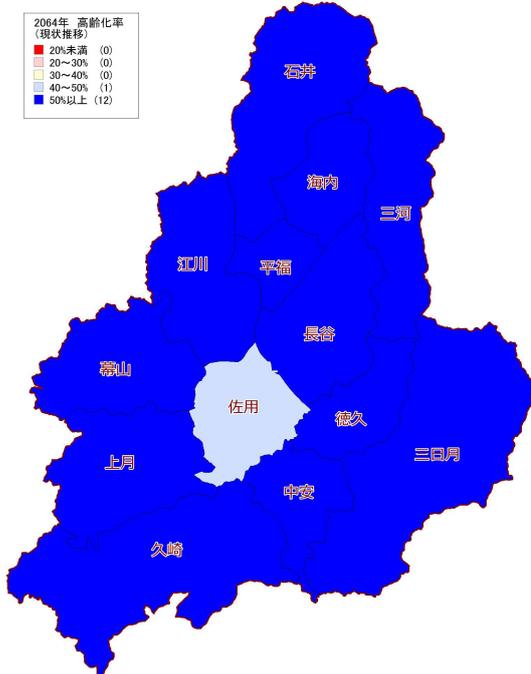
イ) 高齢化率 2029 年



ウ) 高齢化率 2049 年



エ) 高齢化率 2064 年



高齢者数はほとんどの地域で現在をピークに右肩下がりとなる。だが、それ以上に若年層の流出が大きいと、長期的に多くの地域で高齢化率は右肩上がりとなり、30年後の2049年には13分の12地域で高齢化率が50%を超える。

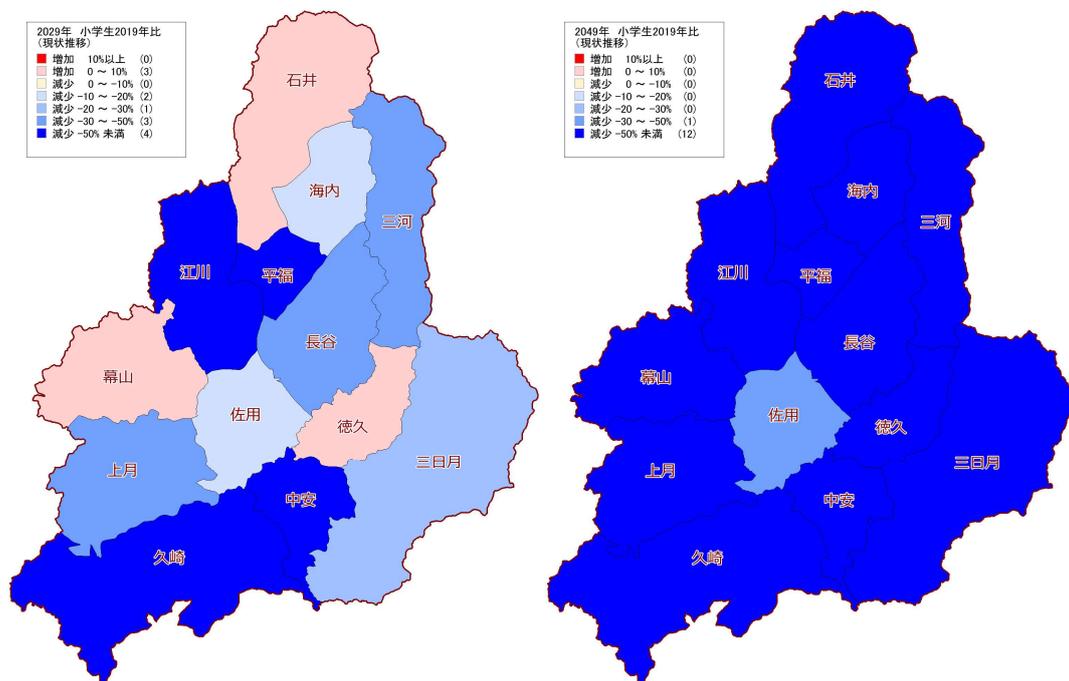
(3) 小学生数予測

ア) 一覧表

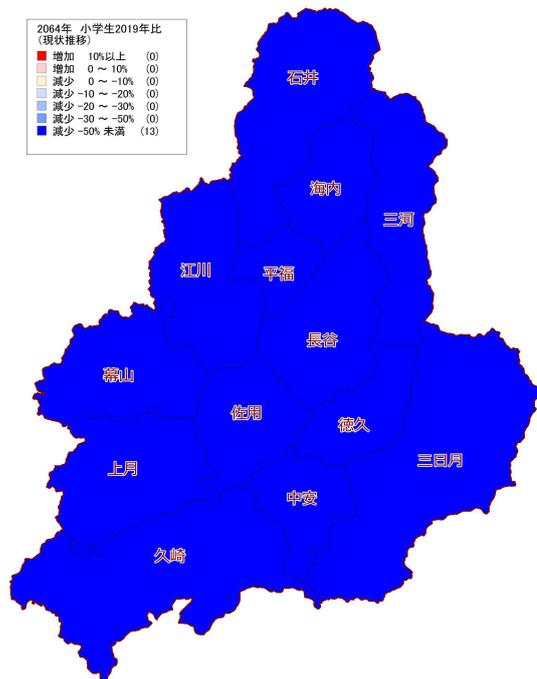
地域名	小学生数				対2019年比			小学生率			
	2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	199	178	111	84	-10.5%	-44.3%	-57.5%	5.4%	5.5%	4.8%	5.0%
長谷	38	20	15	7	-49.1%	-60.2%	-81.5%	4.8%	3.2%	4.7%	3.7%
平福	22	10	3	2	-52.8%	-84.5%	-92.3%	3.4%	2.1%	1.4%	1.3%
石井	12	13	5	4	8.3%	-54.6%	-64.4%	2.1%	3.1%	2.7%	4.0%
海内	4	3	1	1	-10.7%	-63.4%	-76.3%	1.9%	2.2%	1.8%	2.3%
江川	35	16	4	1	-54.9%	-89.6%	-96.6%	3.5%	2.1%	1.0%	0.6%
幕山	28	28	10	6	1.4%	-65.2%	-79.0%	3.6%	4.6%	3.0%	3.0%
上月	70	38	15	7	-45.6%	-78.8%	-89.8%	4.2%	2.9%	2.0%	1.7%
久崎	56	22	4	1	-60.8%	-93.4%	-98.3%	3.5%	1.9%	0.7%	0.3%
中安	40	19	4	1	-52.5%	-89.6%	-96.4%	3.8%	2.4%	1.2%	0.9%
徳久	49	50	17	11	3.3%	-65.9%	-78.2%	3.6%	4.6%	2.8%	3.0%
三河	39	25	12	6	-36.7%	-70.3%	-84.8%	3.9%	3.4%	3.3%	3.2%
三日月	89	65	24	13	-27.3%	-73.1%	-85.9%	3.4%	3.1%	2.1%	2.0%
合計	679	486	224	144	-28.4%	-67.0%	-78.8%	4.0%	3.6%	3.0%	3.2%

イ) 小学生増減率 2029年 (対2019年)

ウ) 小学生増減率 2049年 (対2019年)



エ) 小学生増減率 2064 年（対 2019 年）



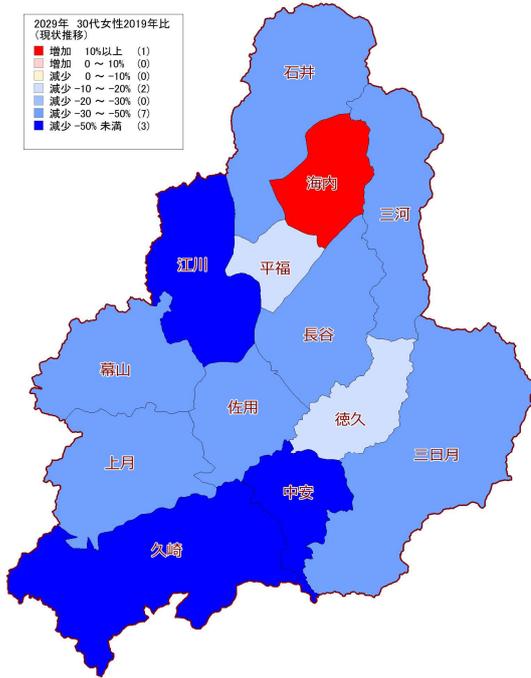
小学生数が一時的に増加する地域もあるが、中・長期的に見ると、すべての地域で小学生数の減少は続き、2049年には13分の12地域で、2064年にはすべての地域で小学生数が半数未満となっていく。これは子育て世代の流出と、それに伴う出生数の低下が要因であると考えられる。

(4) 30代女性数予測

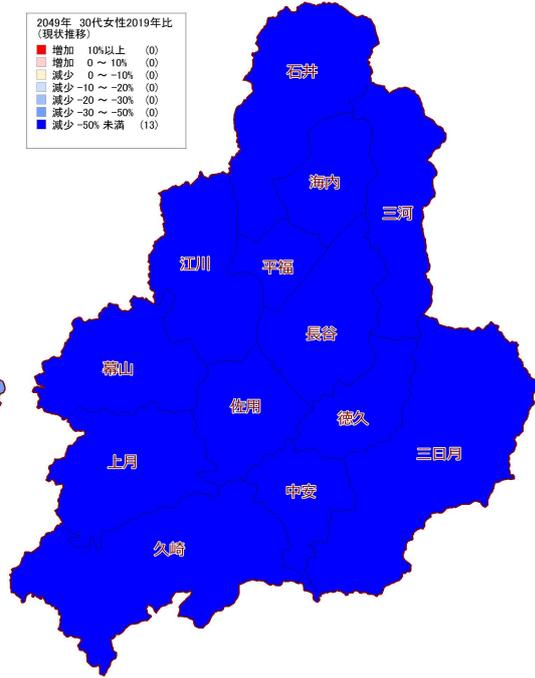
ア) 一覧表

地域名	30代女性数				対2019年比			30代女性率			
	2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	199	137	96	67	-31.1%	-52.0%	-66.5%	5.4%	4.2%	4.2%	4.0%
長谷	25	13	10	5	-49.4%	-58.5%	-78.4%	3.1%	2.1%	3.2%	2.8%
平福	20	17	4	2	-16.8%	-79.8%	-87.9%	3.2%	3.5%	1.7%	1.9%
石井	18	11	4	3	-41.7%	-79.8%	-82.2%	3.1%	2.5%	1.8%	3.0%
海内	4	5	1	1	20.9%	-64.6%	-77.7%	2.1%	3.4%	1.9%	2.4%
江川	40	14	3	1	-64.3%	-92.0%	-97.1%	4.1%	1.9%	0.9%	0.6%
幕山	29	18	7	4	-38.6%	-76.7%	-86.3%	3.7%	2.9%	2.1%	2.1%
上月	76	41	16	8	-46.1%	-78.8%	-89.6%	4.5%	3.1%	2.2%	1.9%
久崎	53	25	5	1	-52.3%	-91.4%	-98.2%	3.3%	2.1%	0.8%	0.4%
中安	29	8	3	1	-73.0%	-91.3%	-97.1%	2.8%	1.0%	0.8%	0.5%
徳久	50	43	13	7	-13.0%	-75.0%	-86.0%	3.7%	4.0%	2.1%	2.0%
三河	36	25	12	6	-31.5%	-65.4%	-83.7%	3.6%	3.4%	3.5%	3.2%
三日月	100	53	20	11	-46.7%	-79.7%	-89.5%	3.9%	2.6%	1.8%	1.7%
合計	679	409	193	117	-39.7%	-71.5%	-82.8%	4.0%	3.0%	2.6%	2.6%

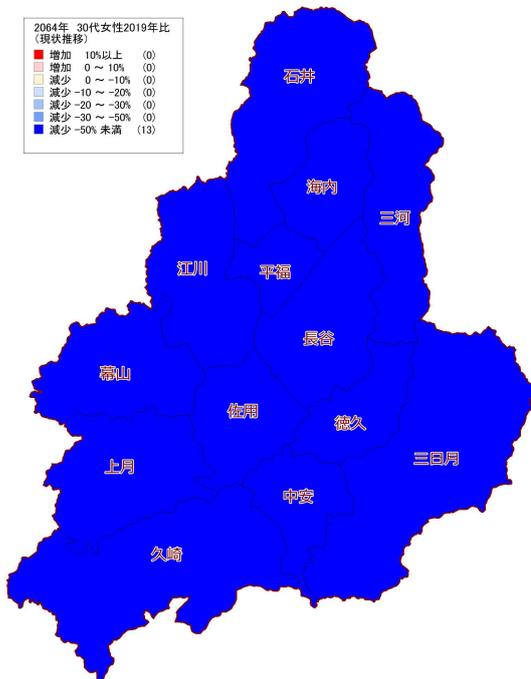
イ) 30代女性増減率 2029年(対2019年)



ウ) 30代女性増減率 2049年(対2019年)



エ) 30代女性増減率 2064年(対2019年)



30代女性の減少は続き、45年後の2064年には、すべての地域で6割以上減(うち10地域では8割以上減)となっていく。

(5) 一覧表

地域名	現状推移シナリオ							
	(1) 人口総数				(2) 高齢化率			
	2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	3,654	3,235	2,296	1,683	30.2%	35.8%	42.9%	44.5%
長谷	794	617	326	190	43.2%	50.9%	55.3%	52.4%
平福	628	479	244	130	46.7%	56.3%	67.2%	76.5%
石井	573	421	198	107	52.9%	59.0%	61.8%	64.2%
海内	189	144	73	37	49.7%	54.0%	68.0%	70.6%
江川	984	740	357	187	47.2%	57.6%	71.9%	80.3%
幕山	776	611	323	191	44.2%	51.0%	55.6%	62.1%
上月	1,671	1,323	721	410	39.1%	49.7%	62.8%	68.5%
久崎	1,597	1,188	555	267	40.9%	53.6%	67.3%	79.3%
中安	1,031	785	334	155	44.4%	55.2%	70.1%	74.7%
徳久	1,339	1,090	589	358	42.1%	47.8%	53.1%	60.6%
三河	991	734	352	185	41.6%	47.0%	58.3%	58.2%
三日月	2,594	2,080	1,131	623	39.9%	48.4%	63.4%	66.2%
合計	16,821	13,448	7,501	4,523	39.9%	47.6%	56.4%	58.8%

地域名	現状推移シナリオ							
	(3) 小学生数予測				(4) 30代女性数予測			
	2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	199	178	111	84	199	137	96	67
長谷	38	20	15	7	25	13	10	5
平福	22	10	3	2	20	17	4	2
石井	12	13	5	4	18	11	4	3
海内	4	3	1	1	4	5	1	1
江川	35	16	4	1	40	14	3	1
幕山	28	28	10	6	29	18	7	4
上月	70	38	15	7	76	41	16	8
久崎	56	22	4	1	53	25	5	1
中安	40	19	4	1	29	8	3	1
徳久	49	50	17	11	50	43	13	7
三河	39	25	12	6	36	25	12	6
三日月	89	65	24	13	100	53	20	11
合計	679	486	224	144	679	409	193	117

3. U & I ターン増加シナリオ

13 協議会毎の人口動態と出生率を現状のままとし、定住増加だけで人口安定化を達成させた場合の人口推移を検討していく。

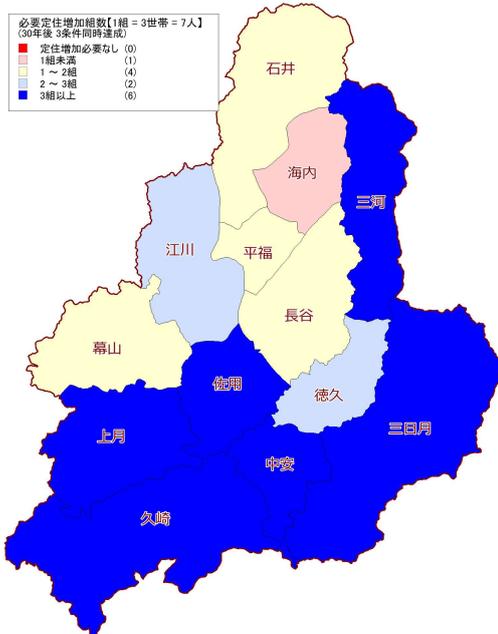
*安定化定住組数：毎年各世代 39 組（合計 117 世帯 273 人）現在人口の約 1.62%

(1) 人口予測

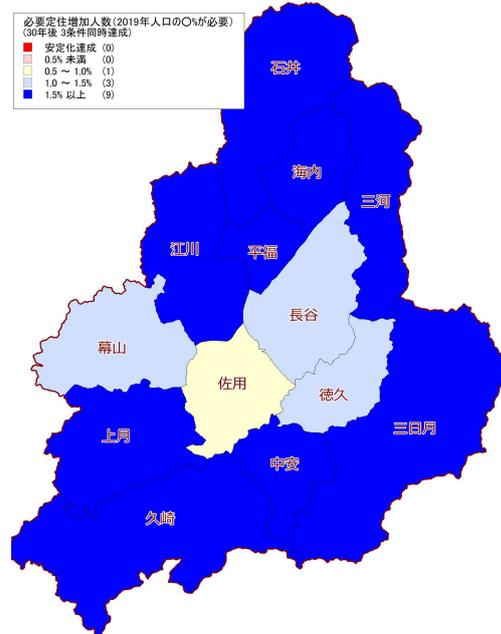
ア) 一覧表

地域名	毎年定住増加組数	1,000人 当たり 必要人数	人口総数				対2019年比		
			2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	7.9	3,654	3,571	3,303	3,135	-2.3%	-9.6%	-14.2%
長谷	1.7	15.0	794	757	725	725	-4.7%	-8.7%	-8.7%
平福	1.5	16.7	628	594	576	576	-5.4%	-8.3%	-8.3%
石井	1.5	18.3	573	533	518	545	-7.1%	-9.6%	-4.9%
海内	0.6	22.2	189	176	171	170	-6.8%	-9.8%	-10.2%
江川	2.8	19.9	984	942	888	873	-4.2%	-9.8%	-11.3%
幕山	1.6	14.4	776	741	707	713	-4.5%	-8.9%	-8.2%
上月	4.6	19.3	1,671	1,659	1,617	1,592	-0.7%	-3.2%	-4.7%
久崎	5.1	22.4	1,597	1,547	1,448	1,385	-3.1%	-9.3%	-13.3%
中安	3.2	21.7	1,031	1,019	937	912	-1.2%	-9.1%	-11.6%
徳久	2.7	14.1	1,339	1,304	1,221	1,211	-2.6%	-8.8%	-9.6%
三河	3.1	21.9	991	956	895	885	-3.6%	-9.7%	-10.6%
三日月	6.5	17.5	2,594	2,573	2,460	2,394	-0.8%	-5.2%	-7.7%
合計	39.0	16.2	16,821	16,370	15,464	15,116	-2.7%	-8.1%	-10.1%

イ) 安定化に必要な定住増加組数

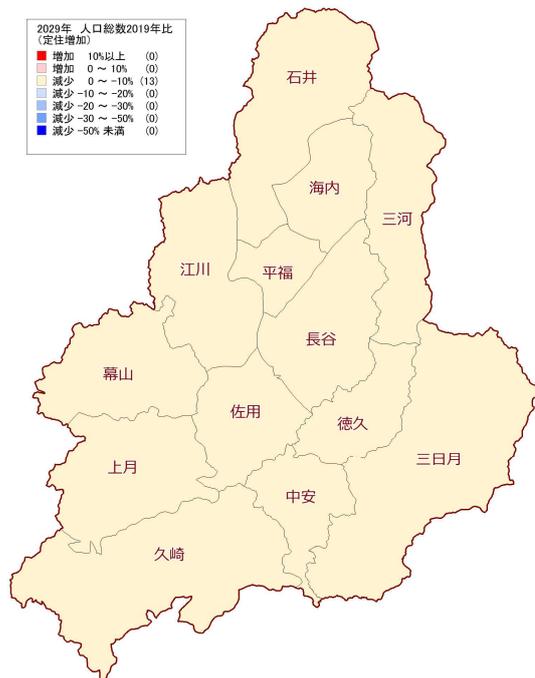


ウ) 安定化に必要な定住増加人数（1,000人当たり）

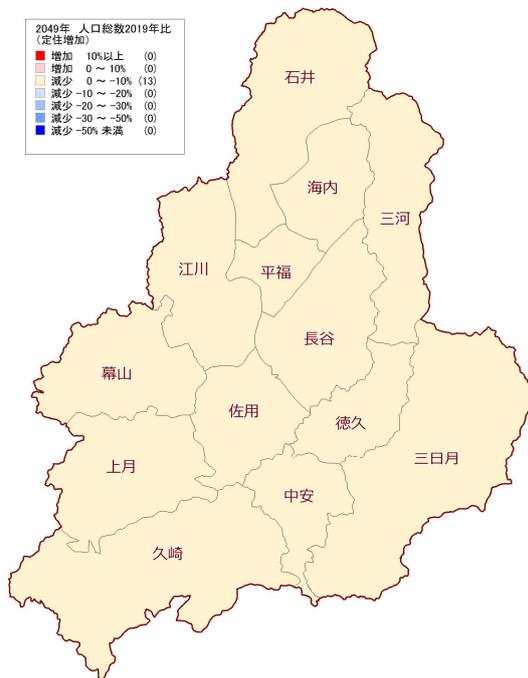


定住増加だけで人口安定化を達成するには、13分の12地域で、現在人口の1%以上の定住増加が毎年必要となる。

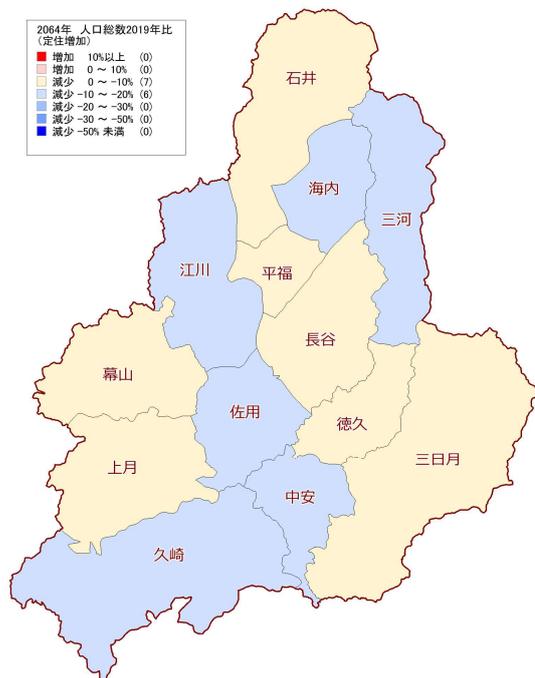
エ) 人口増減率 2029 年 (対 2019 年)



オ) 人口増減率 2049 年 (対 2019 年)



カ) 人口増減率 2064 年 (対 2019 年)



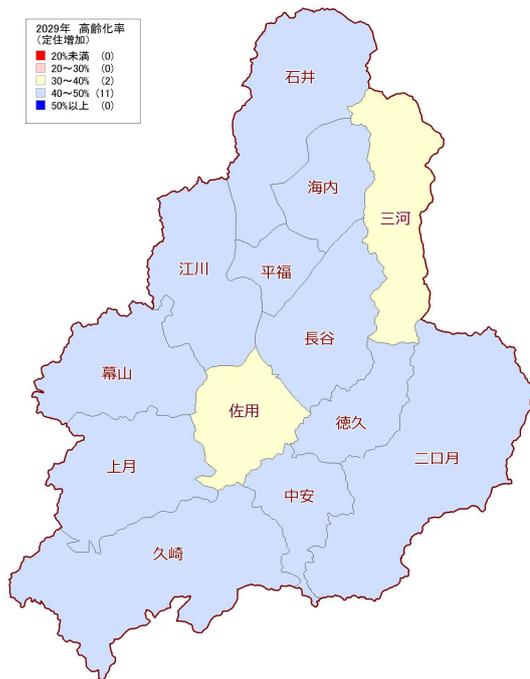
30年後の2049年にはすべての地域で人口総数が1割減以内となり、人口安定化は達成される。45年後の2064年にも2割減以内となり、長期的にすべての地域で人口総数の安定化が達成される。

(2) 高齢化率予測

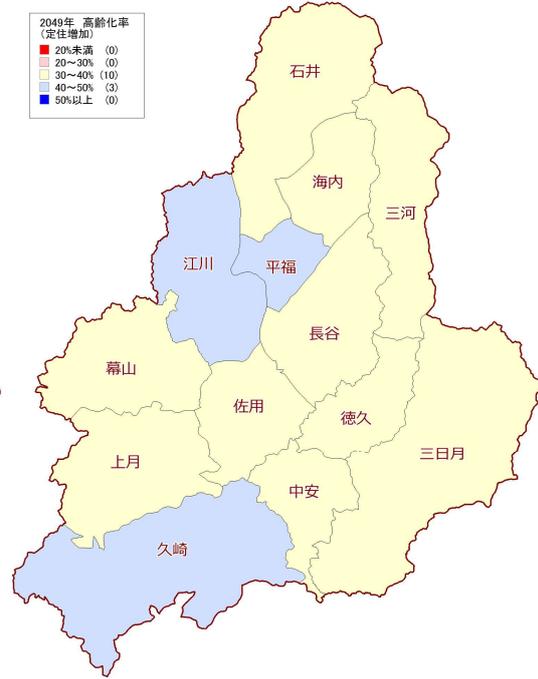
ア) 一覧表

地域名	毎年定住 増加組数	高齢化率				対2019年増減			高齢者数			
		2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	30.2%	33.6%	34.7%	31.9%	3.3%	4.4%	1.6%	1,105	1,198	1,145	999
長谷	1.7	43.2%	43.7%	34.5%	27.7%	0.5%	-8.7%	-15.5%	343	331	250	201
平福	1.5	46.7%	48.2%	40.0%	36.0%	1.5%	-6.6%	-10.7%	293	286	230	207
石井	1.5	52.9%	49.5%	35.3%	28.6%	-3.4%	-17.5%	-24.3%	303	264	183	156
海内	0.6	49.7%	46.5%	39.1%	31.2%	-3.3%	-10.6%	-18.5%	94	82	67	53
江川	2.8	47.2%	48.2%	42.8%	38.7%	1.0%	-4.4%	-8.5%	464	454	380	338
幕山	1.6	44.2%	44.3%	34.8%	31.3%	0.1%	-9.4%	-12.9%	343	328	246	223
上月	4.6	39.1%	42.4%	40.0%	35.9%	3.3%	0.9%	-3.2%	653	703	646	571
久崎	5.1	40.9%	44.3%	40.4%	37.0%	3.5%	-0.5%	-3.9%	653	686	585	513
中安	3.2	44.4%	45.5%	38.2%	32.4%	1.0%	-6.2%	-12.0%	458	463	358	295
徳久	2.7	42.1%	42.0%	35.0%	32.3%	-0.1%	-7.1%	-9.8%	564	548	428	391
三河	3.1	41.6%	39.0%	34.6%	29.2%	-2.5%	-7.0%	-12.3%	412	373	309	259
三日月	6.5	39.9%	41.7%	40.0%	34.4%	1.8%	0.1%	-5.5%	1,034	1,072	983	823
合計	39.0	39.9%	41.5%	37.6%	33.3%	1.5%	-2.4%	-6.7%	6,719	6,787	5,810	5,029

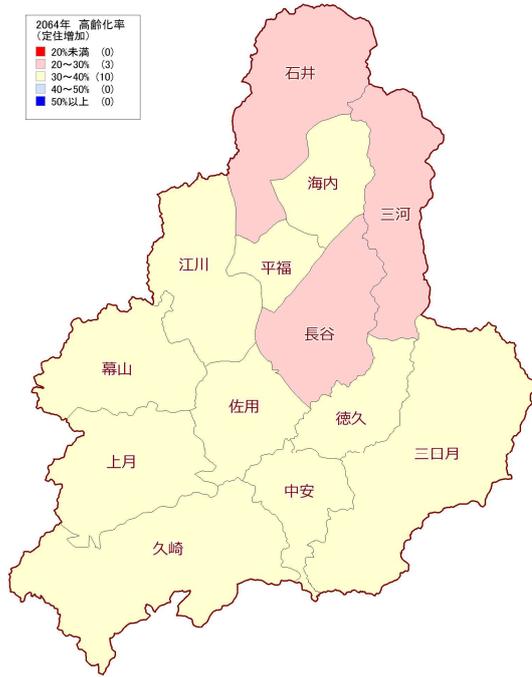
イ) 高齢化率 2029年



ウ) 高齢化率 2049年



工) 高齢化率 2064年



長期的に、すべての地域で40%未満での高齢化率の安定、低下が達成される。

(3) 小学生数予測

ア) 一覧表

地域名	毎年定住増加組数	小学生数				対2019年比			小学生率			
		2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	199	202	204	209	1.7%	2.5%	5.4%	5.4%	5.7%	6.2%	6.7%
長谷	1.7	38	30	55	56	-20.7%	43.1%	46.4%	4.8%	4.0%	7.6%	7.8%
平福	1.5	22	17	27	28	-21.3%	22.8%	29.0%	3.4%	2.9%	4.6%	4.8%
石井	1.5	12	22	36	45	83.5%	202.8%	278.5%	2.1%	4.1%	7.0%	8.3%
海内	0.6	4	5	10	11	43.1%	178.1%	196.4%	1.9%	2.9%	5.9%	6.3%
江川	2.8	35	28	37	38	-19.3%	7.1%	10.3%	3.5%	3.0%	4.2%	4.4%
幕山	1.6	28	38	47	52	36.9%	69.5%	86.6%	3.6%	5.1%	6.6%	7.2%
上月	4.6	70	60	79	83	-13.7%	13.6%	19.6%	4.2%	3.6%	4.9%	5.2%
久崎	5.1	56	44	59	60	-22.4%	5.4%	6.9%	3.5%	2.8%	4.1%	4.4%
中安	3.2	40	35	50	53	-12.3%	26.4%	32.8%	3.8%	3.4%	5.3%	5.8%
徳久	2.7	49	67	74	80	38.0%	53.2%	64.1%	3.6%	5.1%	6.1%	6.6%
三河	3.1	39	39	53	56	0.0%	35.9%	44.2%	3.9%	4.1%	5.9%	6.4%
三日月	6.5	89	96	123	131	7.8%	38.0%	46.9%	3.4%	3.7%	5.0%	5.5%
合計	39.0	679	683	855	903	0.6%	25.8%	32.9%	4.0%	4.2%	5.5%	6.0%

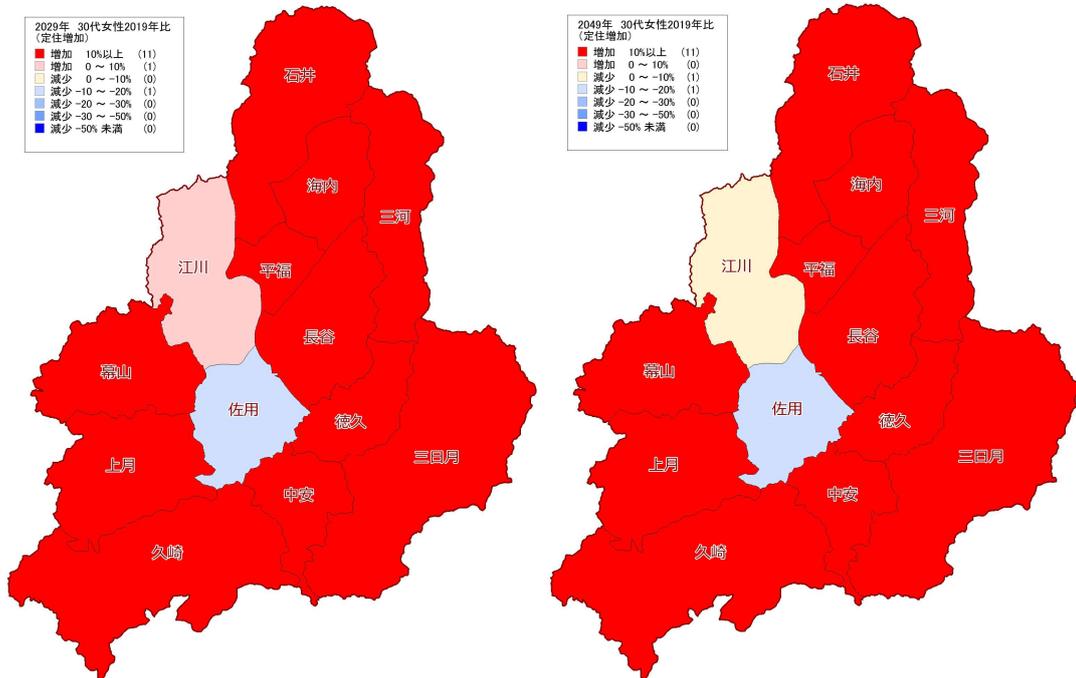
(4) 30代女性数予測

ア) 一覧表

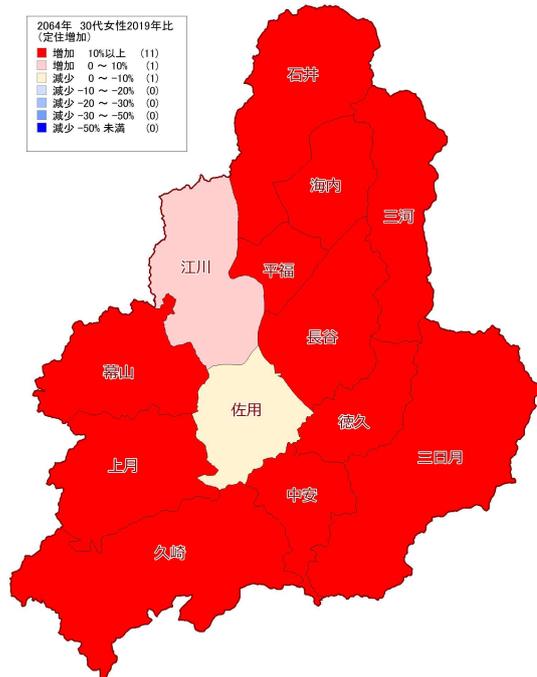
地域名	毎年定住 増加組数	30代女性数				対2019年比			30代女性率			
		2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	199	179	174	183	-10.1%	-12.7%	-8.1%	5.4%	5.0%	5.3%	5.8%
長谷	1.7	25	31	41	45	22.6%	63.0%	81.4%	3.1%	4.1%	5.6%	6.3%
平福	1.5	20	34	36	41	67.6%	77.5%	105.3%	3.2%	5.6%	6.2%	7.1%
石井	1.5	18	24	25	36	34.7%	41.1%	101.3%	3.1%	4.6%	4.9%	6.7%
海内	0.6	4	9	11	13	120.9%	177.2%	213.2%	2.1%	5.0%	6.5%	7.4%
江川	2.8	40	40	39	42	0.7%	-3.3%	4.4%	4.1%	4.3%	4.4%	4.8%
幕山	1.6	29	35	34	39	21.7%	17.7%	36.0%	3.7%	4.8%	4.8%	5.5%
上月	4.6	76	86	84	95	12.8%	10.8%	24.8%	4.5%	5.2%	5.2%	6.0%
久崎	5.1	53	72	68	70	36.2%	27.9%	32.2%	3.3%	4.7%	4.7%	5.1%
中安	3.2	29	40	40	42	37.3%	39.1%	46.5%	2.8%	3.9%	4.3%	4.7%
徳久	2.7	50	70	58	65	41.0%	15.7%	29.4%	3.7%	5.4%	4.7%	5.3%
三河	3.1	36	51	54	60	41.3%	50.0%	66.3%	3.6%	5.3%	6.0%	6.8%
三日月	6.5	100	120	118	133	19.5%	18.2%	33.3%	3.9%	4.6%	4.8%	5.6%
合計	39.0	679	790	782	865	16.4%	15.1%	27.3%	4.0%	4.8%	5.1%	5.7%

イ) 30代女性増減率 2029年(対2019年)

ウ) 30代女性増減率 2049年(対2019年)



エ) 30代女性増減率 2064年（対2019年）



長期的に、すべての地域で30代女性の安定化が達成される。

(5) 一覧表

地域名	U & I ターン増加シナリオ								
	毎年定住増加組数	(1) 人口総数				(2) 高齢化率			
		2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	3,654	3,571	3,303	3,135	30.2%	33.6%	34.7%	31.9%
長谷	1.7	794	757	725	725	43.2%	43.7%	34.5%	27.7%
平福	1.5	628	594	576	576	46.7%	48.2%	40.0%	36.0%
石井	1.5	573	533	518	545	52.9%	49.5%	35.3%	28.6%
海内	0.6	189	176	171	170	49.7%	46.5%	39.1%	31.2%
江川	2.8	984	942	888	873	47.2%	48.2%	42.8%	38.7%
幕山	1.6	776	741	707	713	44.2%	44.3%	34.8%	31.3%
上月	4.6	1,671	1,659	1,617	1,592	39.1%	42.4%	40.0%	35.9%
久崎	5.1	1,597	1,547	1,448	1,385	40.9%	44.3%	40.4%	37.0%
中安	3.2	1,031	1,019	937	912	44.4%	45.5%	38.2%	32.4%
徳久	2.7	1,339	1,304	1,221	1,211	42.1%	42.0%	35.0%	32.3%
三河	3.1	991	956	895	885	41.6%	39.0%	34.6%	29.2%
三日月	6.5	2,594	2,573	2,460	2,394	39.9%	41.7%	40.0%	34.4%
合計	39	16,821	16,370	15,464	15,116	39.9%	41.5%	37.6%	33.3%

地域名	U & I ターン増加シナリオ								
	毎年定住増加組数	(3) 小学生数予測				(4) 30代女性数予測			
		2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	4.1	199	202	204	209	199	179	174	183
長谷	1.7	38	30	55	56	25	31	41	45
平福	1.5	22	17	27	28	20	34	36	41
石井	1.5	12	22	36	45	18	24	25	36
海内	0.6	4	5	10	11	4	9	11	13
江川	2.8	35	28	37	38	40	40	39	42
幕山	1.6	28	38	47	52	29	35	34	39
上月	4.6	70	60	79	83	76	86	84	95
久崎	5.1	56	44	59	60	53	72	68	70
中安	3.2	40	35	50	53	29	40	40	42
徳久	2.7	49	67	74	80	50	70	58	65
三河	3.1	39	39	53	56	36	51	54	60
三日月	6.5	89	96	123	131	100	120	118	133
合計	39	679	683	855	903	679	790	782	865

4. 組み合わせ最適シナリオ

組み合わせ最適シナリオとしては、13の協議会毎に【出生率・10代後半の流出率】を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように3世代バランスのとれた人口定住を増加させるというのが望ましい。

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせた最適シナリオを検討していく。
 なお、出生率は佐用町の目標出生率である2.10と設定した(佐用町人口ビジョンより)。

出生率：2.10（段階的に上昇）

	合計特殊出生率
2019年	1.52
2024年	1.55
2029年	1.58
2034年	1.70
2039年	2.10
2044年～	2.10

ただし、現状で2.10を超えている地域については現状のままとする。

流出率：10代後半の流出率を半減

ただし、現状で流出がない地域は現状のままとする。

安定化定住組数：毎年各世代31.3組（合計94世帯219人）現在人口の約1.30%

（出生率・流出率の改善との「合わせ技」により、少ない定住増加組数で十分となる。）

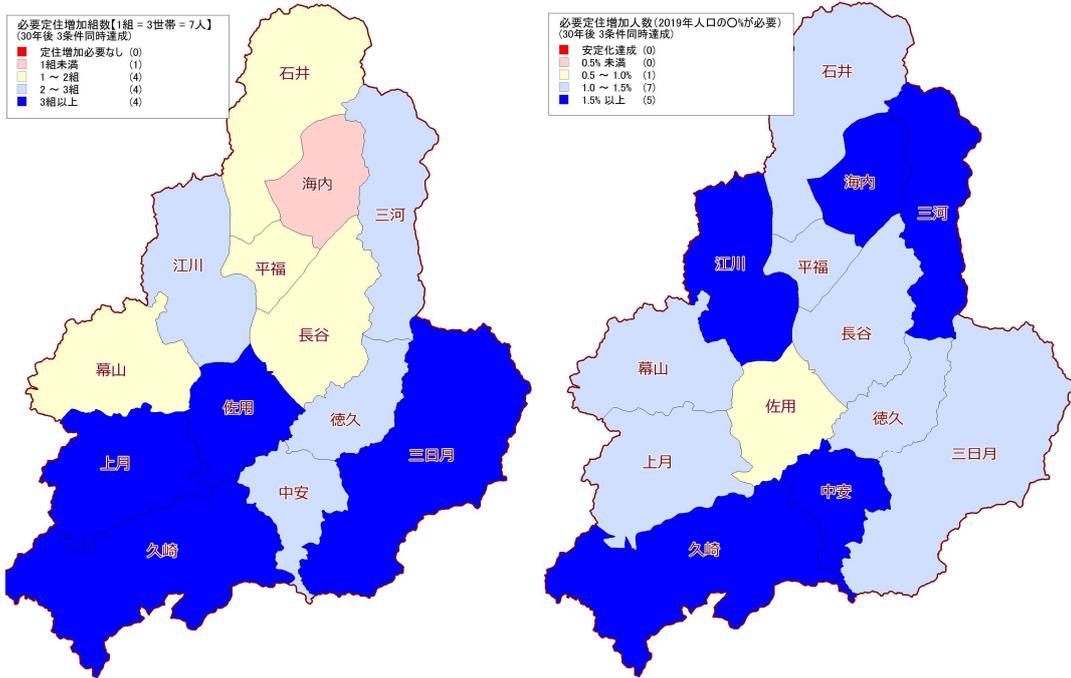
（1）人口予測

ア）一覧表

地域名	10代後半流出率		合計特殊出生率	毎年定住増加組数	1,000人当たり必要人数	人口総数				対2019年比		
	男性	女性				2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	5.9	3,654	3,547	3,293	3,192	-2.9%	-9.9%	-12.6%
長谷	5%	14%	2.10	1.5	13.2	794	748	720	744	-5.8%	-9.4%	-6.3%
平福	28%	29%	2.10	1.1	12.3	628	588	570	603	-6.3%	-9.2%	-4.0%
石井	25%	17%	2.10	1.2	14.7	573	522	521	609	-8.9%	-9.1%	6.2%
海内	21%	30%	2.29	0.5	18.5	189	179	181	188	-5.2%	-4.4%	-0.6%
江川	8%	19%	2.10	2.3	16.4	984	936	888	899	-4.9%	-9.8%	-8.7%
幕山	22%	20%	2.10	1.4	12.6	776	736	718	763	-5.1%	-7.4%	-1.7%
上月	4%	16%	2.10	3.1	13.0	1,671	1,604	1,521	1,535	-4.0%	-9.0%	-8.1%
久崎	8%	19%	2.10	4.2	18.4	1,597	1,537	1,455	1,433	-3.7%	-8.9%	-10.3%
中安	14%	16%	2.10	2.8	19.0	1,031	1,008	931	934	-2.2%	-9.7%	-9.4%
徳久	14%	24%	2.10	2.2	11.5	1,339	1,285	1,206	1,245	-4.0%	-9.9%	-7.1%
三河	16%	-16%	2.10	2.6	18.4	991	942	893	917	-4.9%	-9.9%	-7.4%
三日月	9%	13%	2.10	5.3	14.3	2,594	2,513	2,354	2,323	-3.1%	-9.3%	-10.5%
合計				31.3	13.0	16,821	16,147	15,248	15,385	-4.0%	-9.3%	-8.5%

イ) 安定化に必要な定住増加組数

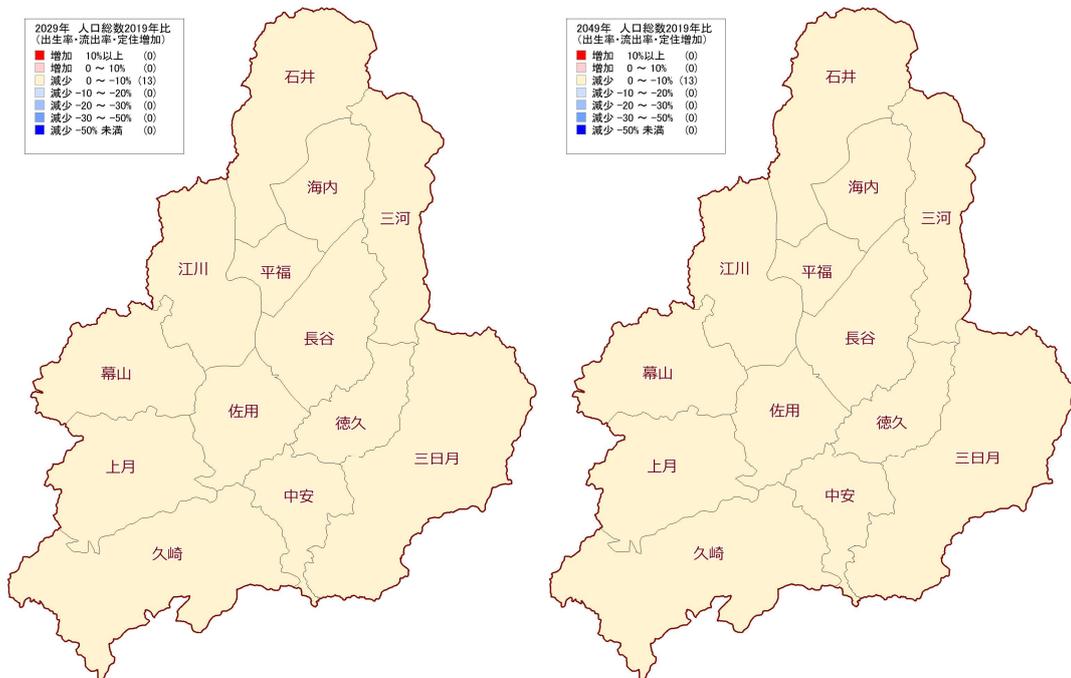
ウ) 安定化に必要な定住増加人数 (1,000人当たり)



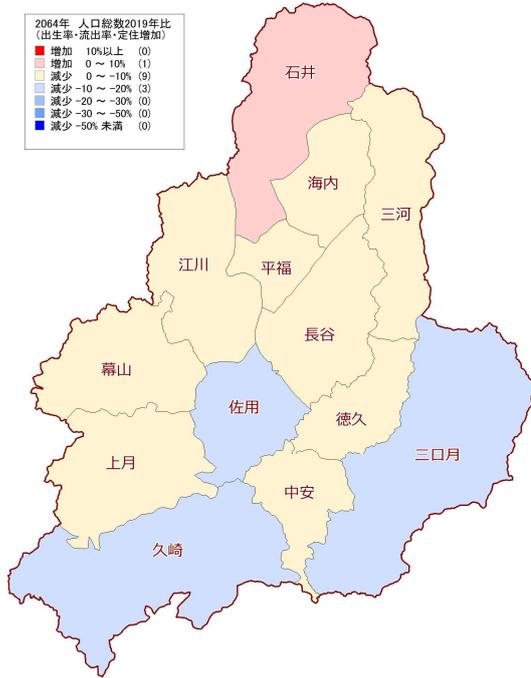
定住増加のみのシナリオと比較して、少ない定住増加組数・人数で安定化を達成する。

エ) 人口増減率 2029年 (対 2019年)

オ) 人口増減率 2049年 (対 2019年)



カ) 人口増減率 2064 年 (対 2019 年)



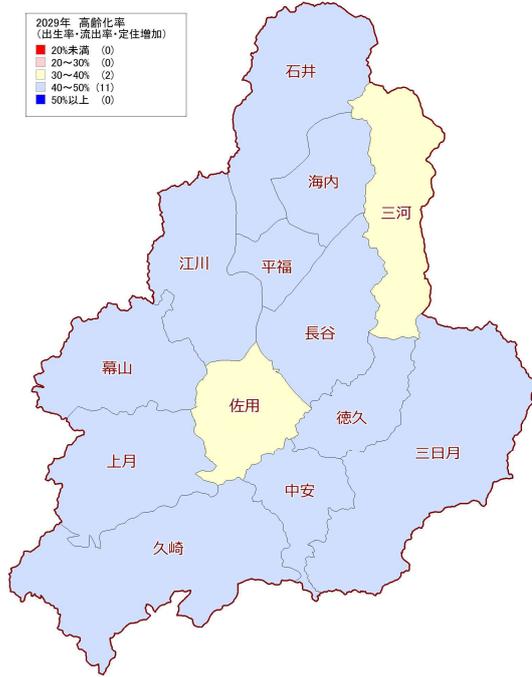
30年後の2049年にはすべての地域で人口総数が1割減以内となり、長期的に人口総数の安定化が達成される。

(2) 高齢化率予測

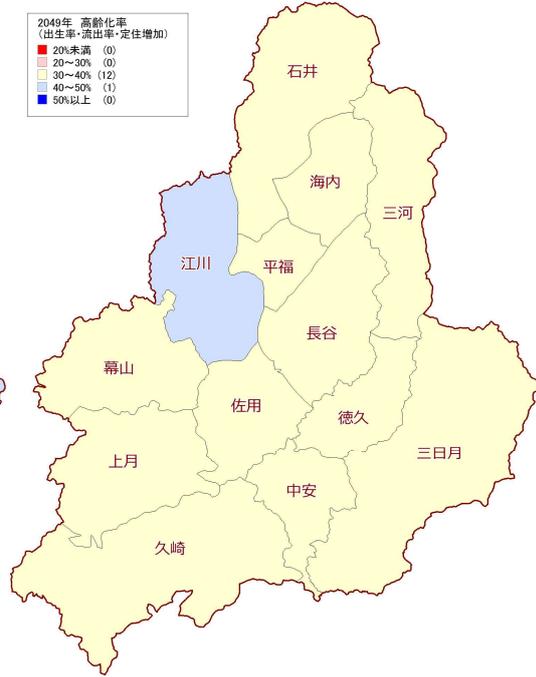
ア) 一覧表

地域名	10代後半流出率		合計 特殊 出生率	毎年 定住 増加 組数	高齢化率				対2019年増減			高齢者数			
	男性	女性			2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	30.2%	33.5%	33.6%	29.4%	3.3%	3.3%	-0.8%	1,105	1,189	1,105	938
長谷	5%	14%	2.10	1.5	43.2%	43.9%	33.6%	25.4%	0.7%	-9.6%	-17.8%	343	329	242	189
平福	28%	29%	2.10	1.1	46.7%	47.9%	37.3%	29.6%	1.2%	-9.3%	-17.0%	293	282	213	179
石井	25%	17%	2.10	1.2	52.9%	49.9%	32.8%	22.7%	-3.0%	-20.1%	-30.1%	303	261	171	138
海内	21%	30%	2.29	0.5	49.7%	45.7%	36.9%	28.2%	-4.1%	-12.8%	-21.6%	94	82	67	53
江川	8%	19%	2.10	2.3	47.2%	48.0%	40.3%	33.9%	0.8%	-6.8%	-13.3%	464	449	358	304
幕山	22%	20%	2.10	1.4	44.2%	44.2%	33.1%	27.5%	0.0%	-11.1%	-16.7%	343	326	238	210
上月	4%	16%	2.10	3.1	39.1%	42.9%	38.4%	31.0%	3.8%	-0.7%	-8.0%	653	688	583	477
久崎	8%	19%	2.10	4.2	40.9%	44.1%	37.7%	32.1%	3.2%	-3.2%	-8.8%	653	677	548	460
中安	14%	16%	2.10	2.8	44.4%	45.6%	36.8%	29.2%	1.1%	-7.6%	-15.2%	458	459	343	273
徳久	14%	24%	2.10	2.2	42.1%	42.3%	33.7%	28.8%	0.1%	-8.4%	-13.3%	564	543	406	359
三河	16%	-16%	2.10	2.6	41.6%	39.1%	32.8%	25.6%	-2.5%	-8.8%	-16.0%	412	369	293	235
三日月	9%	13%	2.10	5.3	39.9%	42.2%	39.7%	32.2%	2.3%	-0.2%	-7.7%	1,034	1,060	934	747
合計				31.3	39.9%	41.6%	36.1%	29.6%	1.6%	-3.9%	-10.3%	6,719	6,713	5,500	4,561

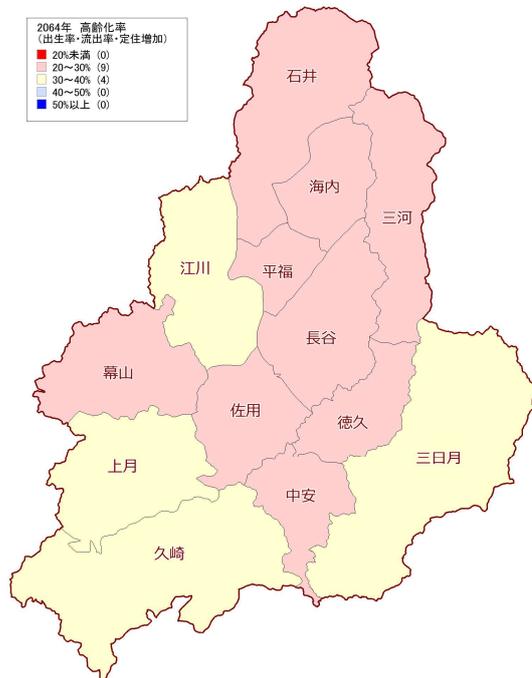
イ) 高齢化率 2029 年



ウ) 高齢化率 2049 年



エ) 高齢化率 2064 年



長期的に、すべての地域で 40%未満での高齢化率の安定、低下が達成される。

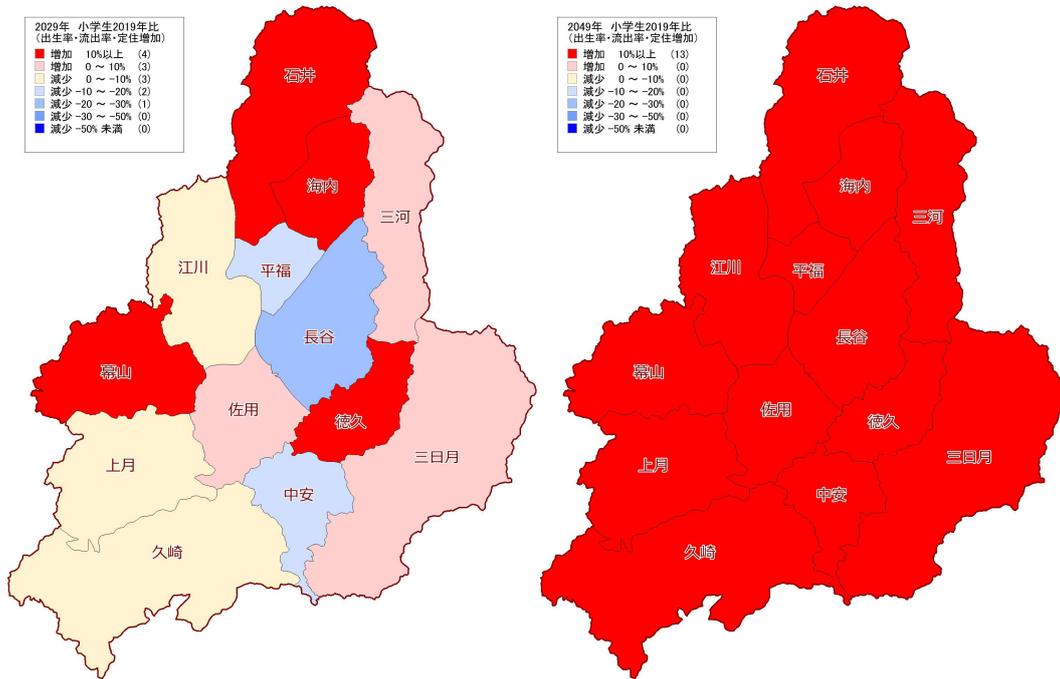
(3) 小学生数予測

ア) 一覧表

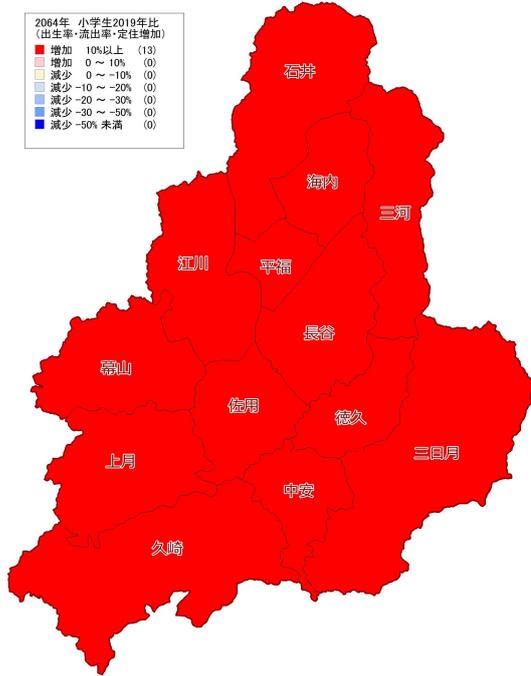
地域名	10代後半流出率		合計 特殊 出生率	毎年 定住 増加 組数	小学生数				対2019年比			小学生率			
	男性	女性			2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	199	200	219	240	0.6%	10.4%	20.7%	5.4%	5.6%	6.7%	7.5%
長谷	5%	14%	2.10	1.5	38	30	60	67	-22.8%	56.2%	73.8%	4.8%	4.0%	8.3%	9.0%
平福	28%	29%	2.10	1.1	22	19	37	48	-12.4%	73.1%	121.6%	3.4%	3.2%	6.6%	7.9%
石井	25%	17%	2.10	1.2	12	23	45	70	88.0%	277.8%	485.5%	2.1%	4.3%	8.7%	11.5%
海内	21%	30%	2.29	0.5	4	5	11	12	49.6%	208.5%	246.9%	1.9%	3.0%	6.1%	6.6%
江川	8%	19%	2.10	2.3	35	32	53	63	-8.4%	52.5%	82.1%	3.5%	3.4%	6.0%	7.1%
幕山	22%	20%	2.10	1.4	28	37	53	65	35.6%	90.7%	137.3%	3.6%	5.1%	7.3%	8.6%
上月	4%	16%	2.10	3.1	70	65	102	126	-7.0%	46.5%	80.8%	4.2%	4.0%	6.7%	8.2%
久崎	8%	19%	2.10	4.2	56	53	87	100	-6.4%	54.8%	78.0%	3.5%	3.4%	6.0%	7.0%
中安	14%	16%	2.10	2.8	40	35	59	69	-11.9%	48.1%	73.3%	3.8%	3.5%	6.3%	7.3%
徳久	14%	24%	2.10	2.2	49	65	84	100	34.1%	72.5%	105.1%	3.6%	5.1%	7.0%	8.0%
三河	16%	-16%	2.10	2.6	39	41	67	80	6.2%	71.5%	105.3%	3.9%	4.4%	7.5%	8.7%
三日月	9%	13%	2.10	5.3	89	94	135	158	4.8%	51.3%	76.6%	3.4%	3.7%	5.7%	6.8%
合計				31.3	679	698	1,013	1,198	2.8%	49.1%	76.5%	4.0%	4.3%	6.6%	7.8%

イ) 小学生増減率 2029年 (対2019年)

ウ) 小学生増減率 2049年 (対2019年)



エ) 小学生増減率 2064年(対2019年)



長期的に、すべての地域で小学生数は増加し、安定化が達成される

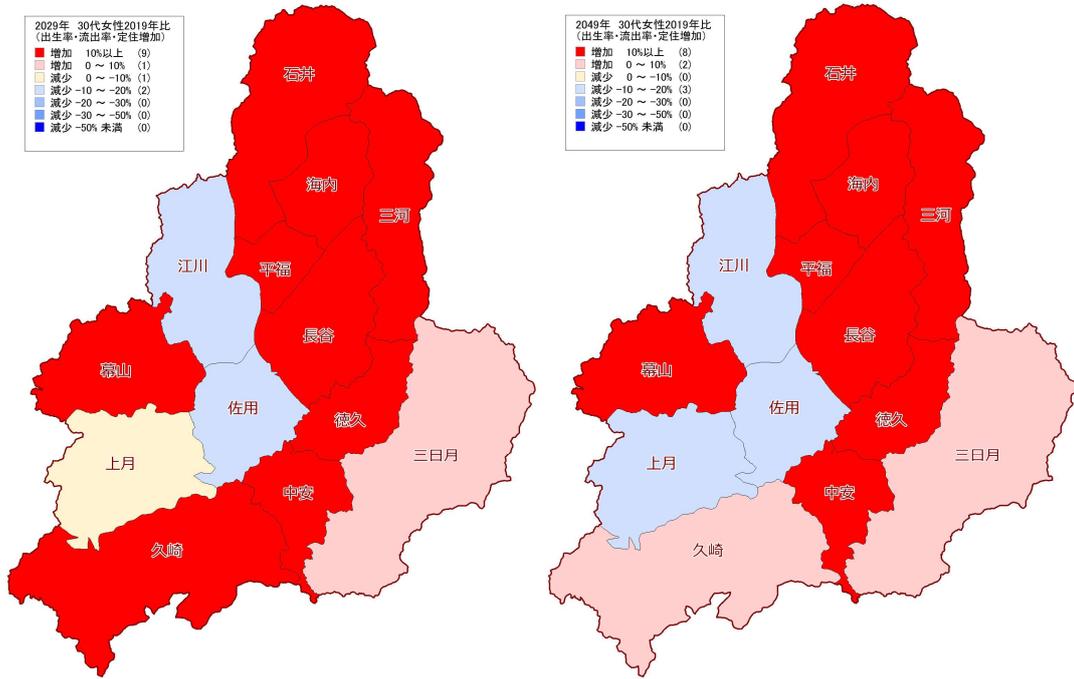
(4) 30代女性数予測

ア) 一覧表

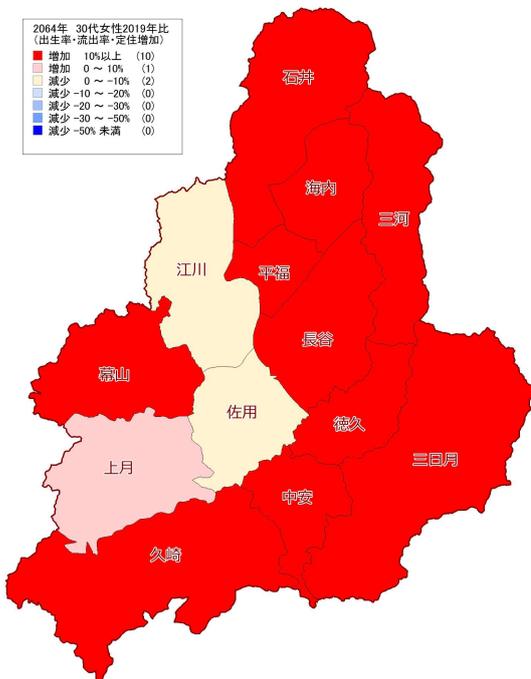
地域名	10代後半流出率		合計 特殊 出生率	毎年 定住 増加 組数	30代女性数				対2019年比			30代女性率			
	男性	女性			2019年	2029年	2049年	2064年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	199	169	174	184	-15.2%	-12.3%	-7.6%	5.4%	4.8%	5.3%	5.8%
長谷	5%	14%	2.10	1.5	25	29	39	44	14.2%	57.0%	77.5%	3.1%	3.8%	5.5%	6.0%
平福	28%	29%	2.10	1.1	20	29	30	42	45.1%	49.5%	111.1%	3.2%	4.9%	5.2%	7.0%
石井	25%	17%	2.10	1.2	18	22	22	36	19.4%	22.0%	101.5%	3.1%	4.1%	4.2%	6.0%
海内	21%	30%	2.29	0.5	4	9	12	15	120.9%	203.8%	276.2%	2.1%	4.9%	6.7%	8.0%
江川	8%	19%	2.10	2.3	40	36	33	39	-10.9%	-16.7%	-1.6%	4.1%	3.8%	3.8%	4.4%
幕山	22%	20%	2.10	1.4	29	33	33	40	14.2%	13.6%	36.7%	3.7%	4.5%	4.6%	5.2%
上月	4%	16%	2.10	3.1	76	71	66	83	-6.4%	-13.3%	9.2%	4.5%	4.4%	4.3%	5.4%
久崎	8%	19%	2.10	4.2	53	64	58	64	20.6%	9.5%	20.0%	3.3%	4.2%	4.0%	4.4%
中安	14%	16%	2.10	2.8	29	36	36	39	23.5%	24.8%	34.7%	2.8%	3.6%	3.9%	4.2%
徳久	14%	24%	2.10	2.2	50	65	55	63	31.0%	10.0%	26.7%	3.7%	5.1%	4.6%	5.1%
三河	16%	-16%	2.10	2.6	36	47	47	55	29.5%	31.4%	52.3%	3.6%	4.9%	5.3%	6.0%
三日月	9%	13%	2.10	5.3	100	107	104	119	7.3%	3.7%	19.4%	3.9%	4.3%	4.4%	5.1%
合計				31.3	679	716	710	824	5.4%	4.6%	21.4%	4.0%	4.4%	4.7%	5.4%

イ) 30代女性増減率 2029年(対2019年)

ウ) 30代女性増減率 2049年(対2019年)



エ) 30代女性増減率 2064年(対2019年)



長期的に、すべての地域で30代女性の安定化が達成される。

(5) 一覧表

地域名	組み合わせ最適シナリオ											
	10代後半男性流出率	10代後半女性流出率	合計特殊出生率	毎年定住増加組数	(1) 人口総数				(2) 高齢化率			
					2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	3,654	3,547	3,293	3,192	30.2%	33.5%	33.6%	29.4%
長谷	5%	14%	2.10	1.5	794	748	720	744	43.2%	43.9%	33.6%	25.4%
平福	28%	29%	2.10	1.1	628	588	570	603	46.7%	47.9%	37.3%	29.6%
石井	25%	17%	2.10	1.2	573	522	521	609	52.9%	49.9%	32.8%	22.7%
海内	21%	30%	2.29	0.5	189	179	181	188	49.7%	45.7%	36.9%	28.2%
江川	8%	19%	2.10	2.3	984	936	888	899	47.2%	48.0%	40.3%	33.9%
幕山	22%	20%	2.10	1.4	776	736	718	763	44.2%	44.2%	33.1%	27.5%
上月	4%	16%	2.10	3.1	1,671	1,604	1,521	1,535	39.1%	42.9%	38.4%	31.0%
久崎	8%	19%	2.10	4.2	1,597	1,537	1,455	1,433	40.9%	44.1%	37.7%	32.1%
中安	14%	16%	2.10	2.8	1,031	1,008	931	934	44.4%	45.6%	36.8%	29.2%
徳久	14%	24%	2.10	2.2	1,339	1,285	1,206	1,245	42.1%	42.3%	33.7%	28.8%
三河	16%	-16%	2.10	2.6	991	942	893	917	41.6%	39.1%	32.8%	25.6%
三日月	9%	13%	2.10	5.3	2,594	2,513	2,354	2,323	39.9%	42.2%	39.7%	32.2%
合計				31.3	16,821	16,147	15,248	15,385	39.9%	41.6%	36.1%	29.6%

地域名	組み合わせ最適シナリオ											
	10代後半男性流出率	10代後半女性流出率	合計特殊出生率	毎年定住増加組数	(3) 小学生数予測				(4) 30代女性数予測			
					2019年	2029年	2049年	2064年	2019年	2029年	2049年	2064年
佐用	11%	15%	2.10	3.1	199	200	219	240	199	169	174	184
長谷	5%	14%	2.10	1.5	38	30	60	67	25	29	39	44
平福	28%	29%	2.10	1.1	22	19	37	48	20	29	30	42
石井	25%	17%	2.10	1.2	12	23	45	70	18	22	22	36
海内	21%	30%	2.29	0.5	4	5	11	12	4	9	12	15
江川	8%	19%	2.10	2.3	35	32	53	63	40	36	33	39
幕山	22%	20%	2.10	1.4	28	37	53	65	29	33	33	40
上月	4%	16%	2.10	3.1	70	65	102	126	76	71	66	83
久崎	8%	19%	2.10	4.2	56	53	87	100	53	64	58	64
中安	14%	16%	2.10	2.8	40	35	59	69	29	36	36	39
徳久	14%	24%	2.10	2.2	49	65	84	100	50	65	55	63
三河	16%	-16%	2.10	2.6	39	41	67	80	36	47	47	55
三日月	9%	13%	2.10	5.3	89	94	135	158	100	107	104	119
合計				31.3	679	698	1,013	1,198	679	716	710	824

IV 人口分析結果報告会編

今年度の地区別人口分析の成果を受けとめ、今後の取り組みの方向を考える報告講演会を開催した。

1. 報告講演会

「佐用町の未来を見つめる講演会 ～いつ考える？今でしょ～」

(1) 概要

地区ごとの人口現状分析や将来予測、必要となる取組のポイント等について広く町民と共有し、住み続けられる地域づくりの推進に向けて意識の醸成を図るため、報告講演会を開催した。

日 時：2019年12月22日（日）15：00～17：00

場 所：南光文化センター ホール

参加者：町長、副町長、教育長、町議会議員、町幹部職員、県・他市町職員、自治会長、地域づくり協議会、まちづくり推進会議委員、町民など
(定員 200名)

(2) 当日の進行と成果

参加者：147名

現状分析や将来予測を踏まえた講演を行った。取組事例に分析結果を重ね合わせて人口減少社会において求められる取組のヒントをひも解くことで、住み続けられる地域づくりの推進に向けて意識の醸成が図られた。

< 報告講演会の様子 >

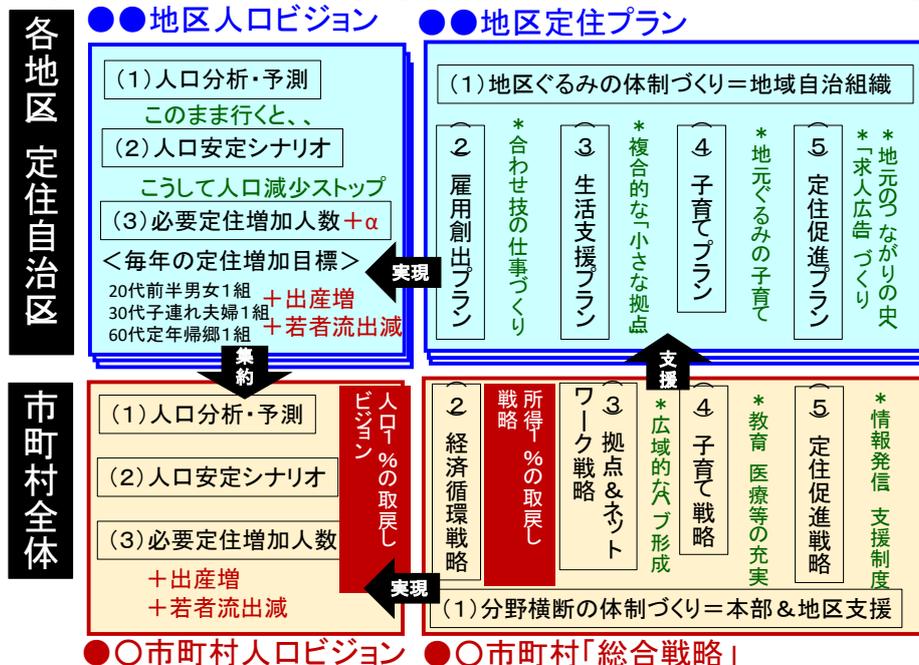


V 政策提言編

1. 身近な地元ごとの人口ビジョンと戦略を立てていく ～真の「地方創生」は「2階建て方式」で

町全体の人口ビジョンと総合戦略だけでは、住民一人一人が地域人口安定化を自分たちの問題としてとらえ、具体的な行動を呼び起こすことは難しい。今回の地域づくり協議会等のような身近な地元ごとに、まず、このまま行くと地域の人口はどうなるのか、安定させるためにはどの世代を何組・何人多く定住させればよいのかという具体的な予測と目標を明らかにしていく必要がある。そうした具体的な数字を基に、雇用や住宅、子育てといった地区の特色や課題、可能性に応じた定住のプランを立てていくことを提言したい。

●市町村における「地方創生」の枠組み～地域に根差した「2階建て」



<市町村全体と各地区の2階建て方式の地方創生>

この度の業務により、地区ごとの現状推移の人口予測と安定化に必要な定住増加組数等は、すべて明らかになっている。今後は、毎年の取り組みに応じて、データ更新を行い、達成した地区を中心に、地区同士の学び合い・磨き合いを進めてもらいたい。

その上で、地区ごとの「孤軍奮闘」に終わらないように、年1～2度は、小学校区同士あるいは小学校区の中の行政区同士が一堂に会し、取り組みの成果と課題を共有する「リーグ戦」方式の連携を提案したい。

例えば、邑南町では、12の公民館区が、毎年、人口と介護のデータ分析（下一覧表）を共有し、定住実現に向けて地区の特色を活かした地区別戦略を展開している。写真下のように、定期的な地区を横断した研修会による学び合い、励まし合いが成果を上げている。



＜邑南町における定住実現に向けた地区別戦略の中間報告会＞

邑南町	シナリオ1 このままで推移すれば・・・								シナリオ2 毎年 48 組の定住を実現！							
	2013				2023				子連れ ターンの 増加組数	若者 ターンの 増加組数	定年 帰郷 増加組数	2023 (改善) 対2013				
	人口	人口増減率	高齢化率	小学生	小学生増減数	人口	高齢化率	小学生				人口	増減率	高齢化率	小学生	
阿須那	835	-16.0	52.1	29	-4	580	56.9	19	阿須那	2	2	2	742	-11.2	47.2	32
井原	718	-9.9	40.1	28	-8	597	47.3	15	井原	2	2	2	746	3.9	40.5	24
口羽	815	-10.4	54.0	22	-8	616	57.1	20	口羽	1	1	1	703	-13.7	51.3	27
高原	958	-7.2	43.2	42	-7	787	46.5	33	高原	1	1	1	872	-9.0	43.0	38
市木	479	-6.3	41.8	20	1	432	33.8	39	市木	0	0	0	432	-9.8	33.8	39
出羽	926	-6.2	37.7	38	0	795	39.5	37	出羽	1	1	1	879	-5.0	36.8	42
中野	1,599	-2.0	36.0	64	-10	1,482	47.7	38	中野	3	3	3	1,713	7.2	43.0	52
田所	1,863	-4.7	42.1	87	1	1,642	44.8	73	田所	2	2	2	1,809	-2.9	41.8	85
日貫	543	-12.7	44.6	19	-7	416	50.5	9	日貫	1	1	1	498	-8.4	44.2	14
日和	439	-8.9	43.5	12	-5	366	47.6	15	日和	1	1	1	452	2.9	40.8	20
布施	220	-10.9	52.3	8	-2	183	60.4	4	布施	1	1	1	255	15.9	47.1	9
矢上	2,285	-6.7	32.0	141	-9	2,077	34.2	120	矢上	1	1	1	2,166	-5.2	33.2	127
合計	11,680	-8.5	43.3	509	-58	9,972	47.2	422	合計	16	16	16	11,268	-8.6	41.9	508

＜邑南町における公民館区の人口分析・安定化シナリオ一覧表の事例＞

2. 地区ごとの人口ビジョンに向けた研修会を開く

では、実際に、地区ごとでは、どんなやり方で、地域住民の危機感・やる気を醸成すればよいのであろうか。

ここでは、2016年度から、持続可能な地域社会総合研究所がサポートしている鹿児島県の「かごしま農村創生塾」事例を取り上げて紹介したい。この県の農政部主催の研修には、県内7つの地域で村づくりに取り組む地域住民の方が1泊2日で参加された。

初日は、「田園回帰1%戦略」の講演に始まり、地域ごとの人口安定化目標づくりのワークショップを行った。今回の人口分析でも使用したプログラムを活用し、直近の5年間の人口動態を踏まえ、人口予測を参加者自らが行う。多くの地域で、想像以上に人口や子どもが減ることに、みなさん強い危機感を持つようになる。次に、各世代の定住をそれぞれ何組増やせば、長期的に地域人口が安定化するか、出生率の向上や若者流出率の抑制とも組み合わせ、いろいろなパターンで試してみる。その中から、地域の特色や強みを活かし、実現可能と思われるものを選び出していく。

2日目は、具体的な世代・組数の定住を実現するための作戦会議を展開する。まず、地元の現状分析を「集落天気図」という形でまとめてみる。地域内の主な組織や拠点を模造紙に並べた上で、定住促進にとって強みとなるところには「高気圧」、弱みとなっているところには「低気圧」、そして連携不足のところには「前線マーク」を置いていくやり方である。これも、持続可能な地域社会総合研究所で開発した方式である。こうすると、一目で、今の地域の課題と可能性が理解できるようになる。次に、「天気図」に示された強みを活かし、弱みを解消し、お互いの力がつながるように、横断的な「小さな拠点」や事業組織、マネージャー等を核にして、地域全体をつなぎ直し、進化させていくプランを検討する。

この研修のミソは、参加者自らが主体的に分析や図作成を行うこと、そして各チームの成果や課題を段階ごとに発表し、共有していくことにある。

このような「超実践的」な研修を終えると、各地区のリーダーの方々は、今度は地元に戻り、みんなとやってみようという手応えを感じるようになる。

以下、その研修の様子をグラビア風にまとめてみる。



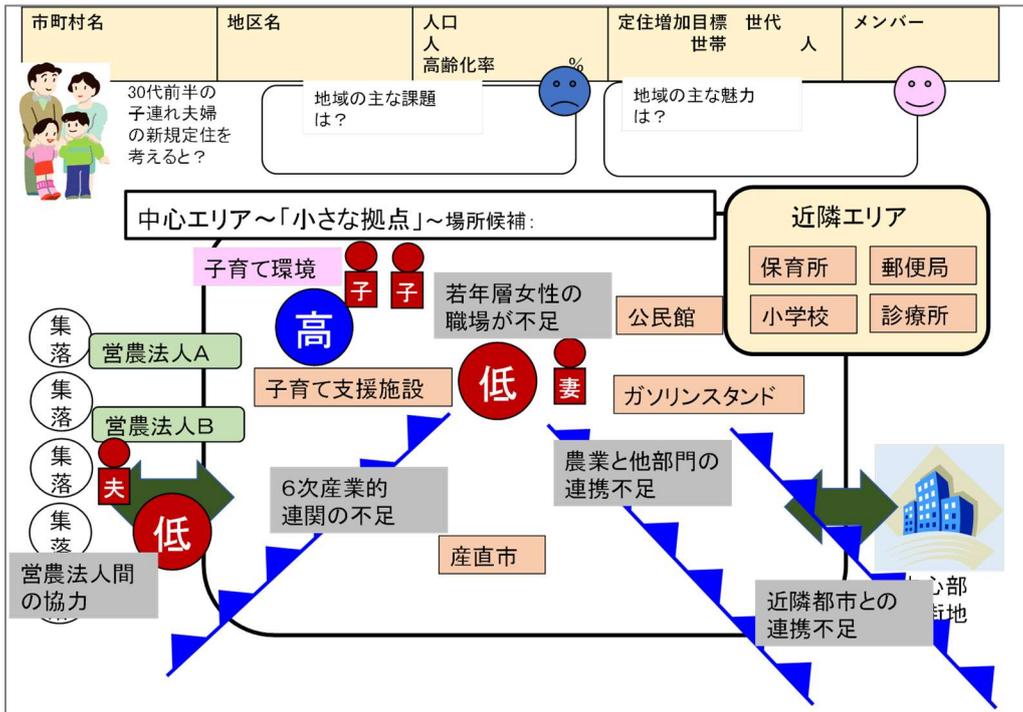
< 2日間の研修終了時の記念写真 >



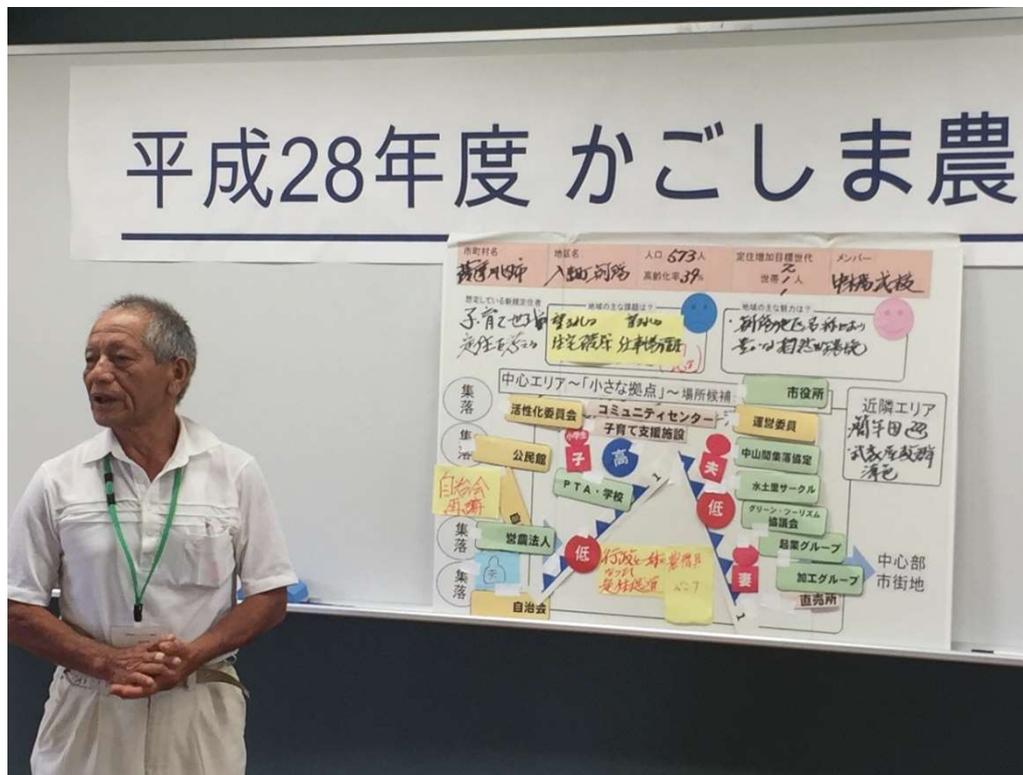
<①専用プログラムで地域の人口安定化シナリオを作成>

地区名	30代 子連れ	20代 男女	60代 夫婦	出生率	10代後半 ～20代前 半流出率 男	10代後半 ～20代前 半流出率 女
さつま町 柏原	6.0	3.0	4.0	2.08	51	50
鹿屋市 西祓川	3.0	2.0	1.0	1.65	27	25
鹿児島市 四元	1.0	0.5	1.5	1.60	40	13
西之表市 古田	1.5	0	1.0	1.50	100	100
東串良町 新川西	1.1	0.5	1.8	1.60	17	14
霧島市 佳例川	1.8	1.0	2.0	2.00	60	40
龍郷町 秋名	1.0	1.0	2.0	3.14	50	21

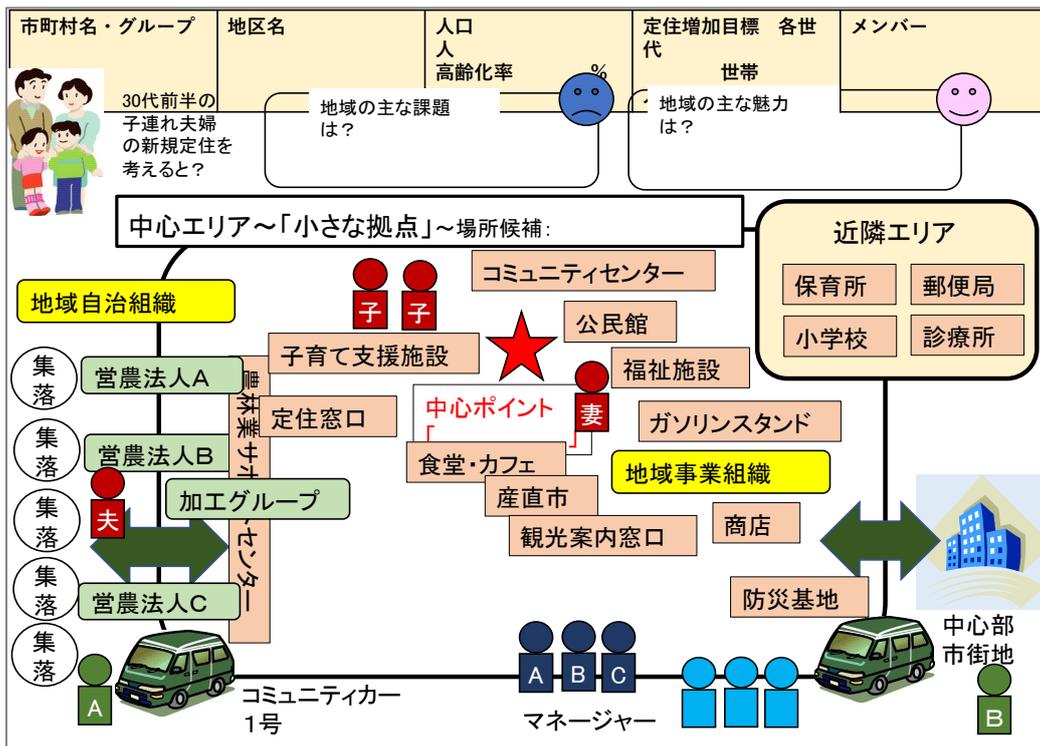
<②各地区の目標数値設定～地域人口安定化へ>



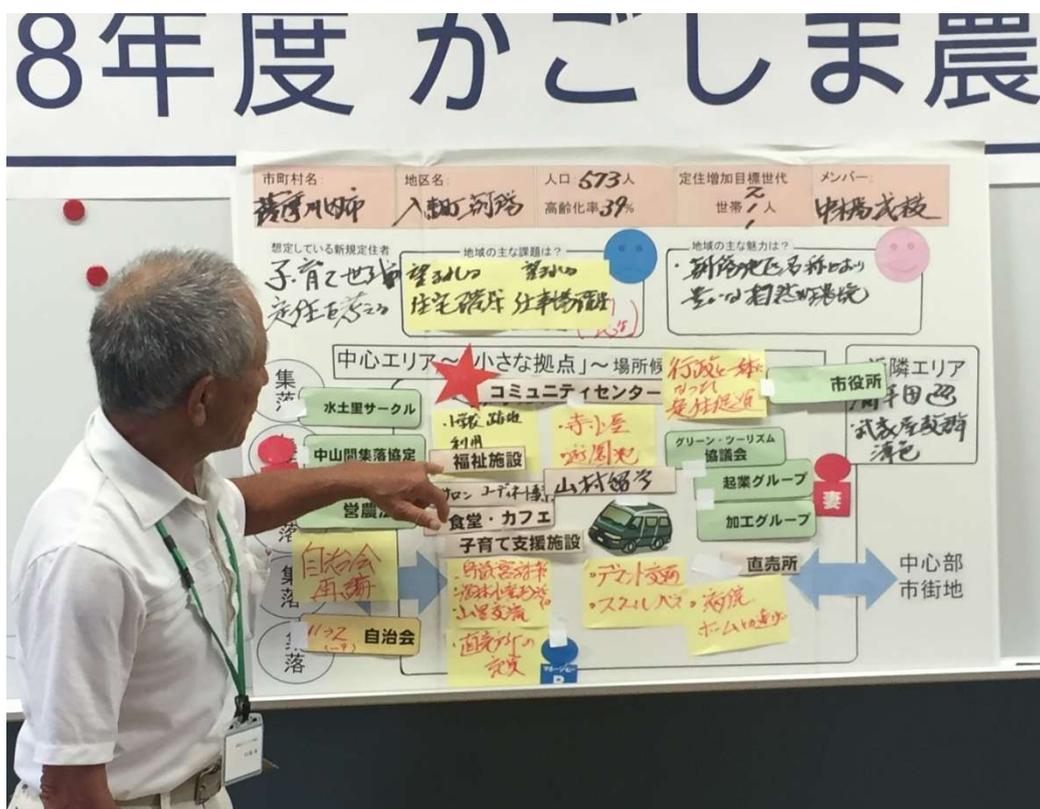
<③地元天気図のイメージ図>



<④地元天気図の実例>



<⑤移住定住を促進するための地元のつなぎ直しイメージ図>



<⑥移住定住を促進するための地元のつなぎ直しプランの実例>

3. 所得取戻しのカギは、域内経済循環の強化 ～毎年1%分を地元産に変えていく

中山間地域では、一般的に、住民所得に匹敵する金額を外部から購入している現状がある。この逆境を逆手に取り、前年は100ほど外から買っていたものを今年は99に減らし、1%分を原材料も含めて域内生産に切り替えていけば、所得の1%取戻しが達成される。このような毎年1%分の地産地消による所得取戻し策を提案したい。

例えば、島根県西部のスーパーマーケットチェーンの(株)キヌヤでは、この6年間、毎年1%ずつのペースで地産地消の割合を高め、大きく地元経済に貢献している。

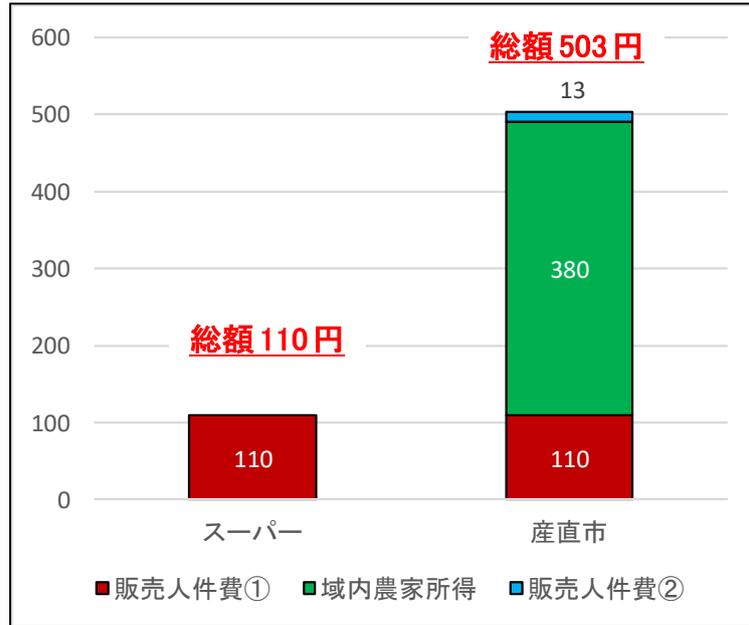


<地産地消コーナーを強化してきた(株)キヌヤの取り組み>

例えば、産直市で地元の農家が育てた野菜を買う場合と、全国チェーンのスーパーマーケットで地域外の野菜を買う場合では、どのくらい地域全体に生じる所得に違いがあるのだろうか。

次の図は、同じ1,000円分の野菜を買った場合、地域内に生じる所得額の違いを示したものである。販売員が全員地元雇用とすれば、販売段階の人件費は、110円で同一だが、産直市の場合は、域内循環の第2段階として、産直市に出荷する農家に生産者所得が生まれる。そして、細かく言うと、域内循環の第2段階として、農家が域内から苗等の資材を購入すれば、その販売人件費も生まれる。

こうして、スーパーマーケットで地域外の野菜を買う場合に比べて、産直市で地元の農家が育てた野菜を買う場合は、総額で5倍近い地域内所得を生み出すことになる。



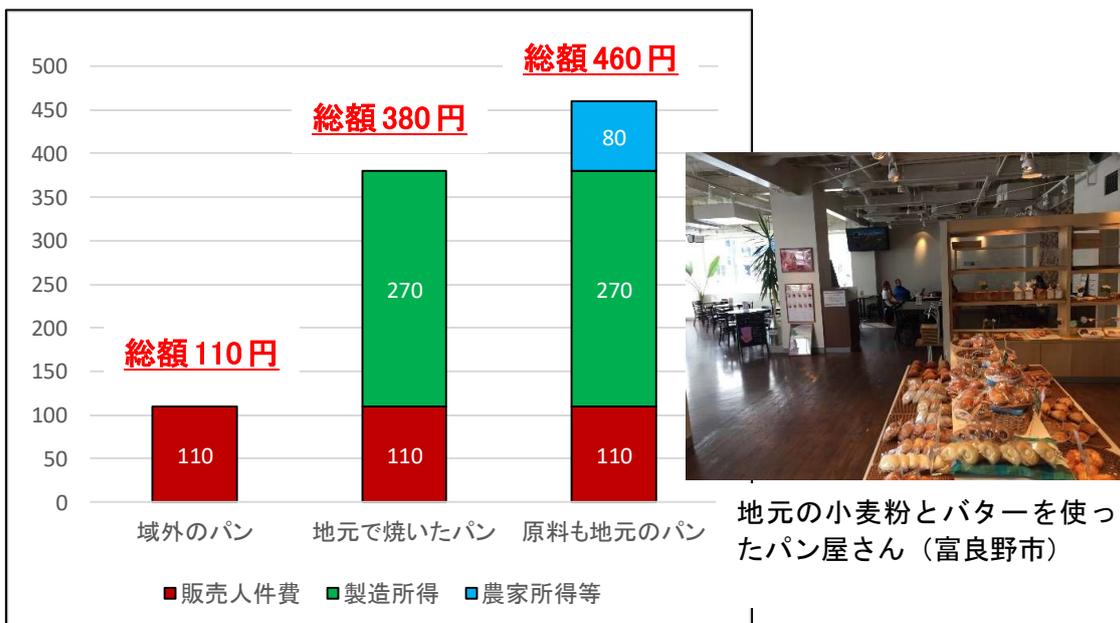
<1,000円分の生鮮野菜を買った場合の所得創出額の違い>

*販売人件費①は、販売商店の人件費（販売額の11%）

*販売人件費②は、苗等の資材を域内購入により発生するもの（資材総額120円分の11%分）

最近各地で増えているパン屋さんについても同様の分析をしてみたい。

次の図に示したように、野菜と同じく、外で作られたものを仕入れて売っているだけでは、1割強の所得にしかならない。一方、中で手間暇かけて焼いたパンでは、所得額は一気に4倍近くになる。そして、小麦粉等の主要な材料を地元の農家から仕入れると、販売価格の半分近くは、地元の所得へと変わる。



地元の小麦粉とバターを使ったパン屋さん（富良野市）

<1,000円分のパンを買った場合の所得創出額の違い>

*販売人件費は、販売商店の人件費（販売額の11%）

*製造所得は、パン製造の人件費（販売額の27%分）

*農家所得等は、小麦粉等の主な原材料の生産によるもの

また、今後は、地域からの大きな所得流出源となっているエネルギー部門について、再生エネルギーの活用を意欲的な所得取戻し策として提案したい。現在、全国各地では、地域に根ざした薪の活用や発電と熱供給を同時に行うコジェネレーションシステムなど、有望な取り組みが各地で進められている。こうした先進事例を活かし、鶴岡市においても地域現場における活用を加速させたい。

地元の宿泊施設を「薪ボイラー」で 竹にもみ殻を詰め、安定燃焼の燃料へ
(地元小学生も協力)

**真庭市中和地区では、地域ぐるみ
で薪活用を進めている**

薪ステーション




宿泊施設に設置の薪ボイラー

小規模施設では、薪ボイラー
で対応するのが得策の場合も

＜真庭市中和地区における地元密着型の薪エネルギーの活用システム＞

熱供給と発電を同時に行うコジェネ・エネルギープラント(チップ利用)

気仙沼市



「小さな拠点」周辺に安定した熱消費施設(病院・ホテル等)配置がカギ

＜気仙沼市におけるコジェネレーションの展開＞

4. 定住を支える新たな拠点・ネットワーク・組織構造 ～「小さな拠点」と「郷づくり会社」を地元で創る

域内の小規模・分散的な生産をつなぎ、必要な生活機能を確保するためには、縦割りではなく分野横断の拠点や輸送を実現する「小さな拠点」を地元単位（小学校区、場合によっては行政区）で形成していくことが重要となる。このような「合わせ技」の結節機能を創設することにより、域内循環が強化されると共に今のままでは消えていく諸機能が確保され、定住条件が改善していく。



<国の地方創生の総合戦略にも位置づけられている「小さな拠点」>

例えば、島根県雲南市波多地区（人口 340 人）では、交流センターという「合わせ技」の分野横断型の施設において、無くなっていた商店が復活し、地域内の買い物の足も確保されるといった効果が生まれている。

波多交流センター職員

はたマーケット販売業務

雲南市からの交付金で波多コミュニティ協議会が雇用しています。

交流センター事務室では普段の仕事を行います。

職員4人が役割り分担をして、普段の業務とはたマーケットをやくりりしています。会長も運営手続き、送迎などで大忙しです。やっと慣れてきた運営ですが、まだまだこれからです。地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。

*平成27年2月12日「小さな拠点」全国フォーラム発表資料より

<合わせ技で復活した交流センター内のはたマーケット>

交通 **地域内交通「たすけ愛号」**

車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方より、手軽に頼める交通機関があれば嬉しいとの要望より「たすけ愛号」の運行が始まりました。

はたマーケットオープンにより買い物に来られた方の送迎を「たすけ愛号」で行っています。
 買い物をしていただいた方は無料となっています。
 買い物に来られない方は、注文取って配達をします。
 運転は、交流センター職員でおこなっています。



※平成27年2月12日「小さな拠点全国フォーラム発表資料より」

「たすけ愛号」の利用ニーズと実績

リピーター多い！
潜在ニーズ多い！

のべ利用者数 (25年度)	450
事前アンケートで「利用したい」と回答した人数	119

利用用途：診療所、マーケット、温泉、バス停、知り合い宅へなど



＜地域内は無料で送迎する「たすけ愛号」～雲南市波多地区＞

このような「合わせ技」の拠点や活動は、地域住民の出資により設立される分野を横断した事業組織＝「郷づくり会社」によって、運営されることが望ましい。

例えば、島根県邑南町の出羽地区では、集落を連携させた自治組織に留まらず、農林業や空き家改修、薪の流通、飲食店経営など、地域に求められる多面的な機能を横つなで展開する合同会社を立ち上げ、新規定住者の雇用や起業を創出するなど、大きな成果を上げている。

出羽自治会
＝出羽公民館エリア

事務局

- 総務部
- 生活部
- 交流部
- 産業部

＜集落＞

- 三門市一
- 三門市二
- 出羽
- 三本松
- 山田
- 淀原一
- 淀原二
- 後谷
- 岩屋
- 後木屋
- 百石
- 大林

合同会社 出羽

自治会の機能だけでは難しい、収益事業、空き家対策、産業等について、機動的に対応できる実働部隊として2013年に設立。資本金539万円 出資社員17名(設立時6万円、6名)

農業部門
農地集積32ha
放棄地活用
新規就農支援

定住部門
空き家活用
(修繕、賃貸)
起業支援




起業支援
でパン屋も
オープン

＜自治組織と連動した合同会社の設立～邑南町出羽地区＞

5. じっくりと地域のつながりの中へ定住 ～毎年1組ずつを丁寧に導き入れる

多くの地域では、毎年各世代1～2組程度の定住増加で、十分人口の安定化が達成される。これは、平均100人規模の集落単位にすると、4～5年に1組ほど定住増加があれば、大丈夫ということに意味する。

移住は、入る方も迎える方も、一生のつき合いの始まりである。したがって、あせらず丁寧に導き入れる定住方式を、それぞれの地域で展開してほしい。

島根県浜田市弥栄自治区では、数年前から、定住案内と田舎ツーリズムを兼ねた取り組みとして、住民自ら集落の暮らしを案内する「ええとこ歩き」を展開している。移住のトラブルの大部分は、事前のコミュニケーション不足に起因している。手引き等もつくり手間暇かけて、じっくりと地域のつながりの中に定着していくやり方を進めたい。



＜弥栄自治区における「ええとこ歩き」＞

●移住の手引き(弥栄全体)



●暮らしの覚え書き(集落単位)



＜弥栄自治区で作成された「移住の手引き」や「暮らしの覚え書き」＞

6. 地域の介護の実情を調べ、持続可能に組み直す

今や、国民全体においても、各地域においても、最大の「産業」は、介護と医療となっている。移住定住を進めても、介護や医療が安心できる体制が築けないと長い目でみると、持続可能な地域社会にはならない。逆に、そこで年をとっても大丈夫な見通しが立てば、移住定住を呼び込む地域の強みとできる。

次に、それぞれの地域で、介護にどれだけお金がかかっているか、具体的に見てみたい。

下表は、山口市の住民基本台帳人口と介護保険のデータから、市全体および山間部に位置する10の公民館区の介護状況を比較したものである。

人口20万人弱の山口市は、高齢化率はまだ30%に達していないが、既に人口の14人に1人(7.4%)が要支援・要介護の認定を受けている。介護費用の総額は153億円、1人当たりでは7.9万円となっている。

市内山間部に位置する旧徳地町・旧阿東町の10公民館区では、高齢化が進んでいる。山間10地区全体では、高齢化率は50%を超え、要支援・要介護の認定率も1割を超えている(11.8%)。介護費用の総額は21億円、1人当たりでは17.1万円となっている。

地区ごとの状況を見ると、400人規模の地区でも介護費用の総額は、1億円を超えている(嘉年地区)。一般的に高齢化率が高い方が、住民一人当たりの介護費用が高くなる傾向があるが、よく見ると、串地区のように、高齢化率が63.1%に達しているにもかかわらず、高齢化率が低い八坂地区や柚野地区、生雲地区も平均介護費用が低い場合もある。

実際、どのように地区ごとの介護費用が決まってくるのか、もっと探っていく必要がある。何しろ、1人年間10~20万円を使っている介護のお金は、個人負担からも、財政的にも、そして地域経済としても、大変重要な存在となっているからだ。

地域	人口	高齢化率	要支援・ 介護者数	同人口比	介護費用 総額 (万円)	住民1人 当たり (万円)
山口市	193,287	28.2%	14,207	7.4%	1,527,660	7.9
串	344	63.1%	52	15.1%	6,740	19.6
島地	1,292	49.9%	151	11.7%	19,582	15.2
出雲	2,720	40.5%	255	9.4%	34,135	12.5
八坂	1,453	53.0%	210	14.5%	30,762	21.2
柚野	316	58.5%	52	16.5%	6,789	21.5
篠生	853	53.7%	110	12.9%	16,668	19.5
生雲	1,056	58.0%	157	14.9%	24,530	23.2
地福	1,211	49.7%	132	10.9%	21,029	17.4
徳佐	2,362	50.4%	240	10.2%	35,403	15.0
嘉年	415	65.3%	57	13.7%	10,409	25.1
山間総合	12,022	51.1%	1,416	11.8%	206,047	17.1

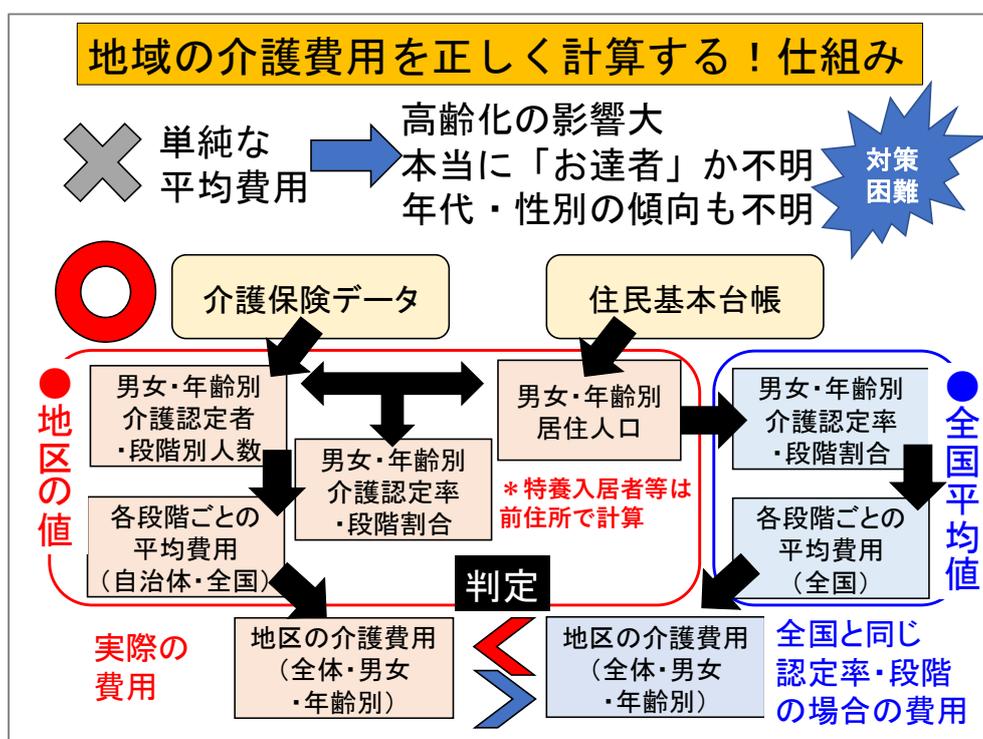
＜山口市とその山間地域10地区における介護状況(2017年)＞

*住民基本台帳人口および介護保険データより算出(山口市役所)

地域の介護費用を正しく計算するためには、単純な平均費用では不十分だ。高齢化が進んだ地域の方が一般的に多くなり、そうした高齢者が本当にお達者かどうか、わからないからだ。また、どの性別・年代が実質的に良いのか悪いのかも不明だ。

持続可能な地域社会総合研究所では、本当の「お達者」の度合いが反映するように、地域の介護費用の実質的な比較を分析するために、次のような仕組みを開発してみた。

最初に、全国どこの自治体でも入手できる介護保険データと住民基本台帳の対象地区分を用意する。次に対象地区について実際の介護費用を、男女年齢階層別の認定率・段階と各段階の平均費用を合わせて計算する。一方、男女年齢階層別の認定率・段階と各段階の平均費用については、全国平均値が出ているので、これを対象地域の男女・年齢別の居住人口と組み合わせると、全国と同じ認定率・段階となった時の介護費用が計算できる。この2つの介護費用の総額や1人平均額を出すと、初めて同じ土俵でその地区として全国比で介護費用を浮かせているか、嵩ませているか、わかる。

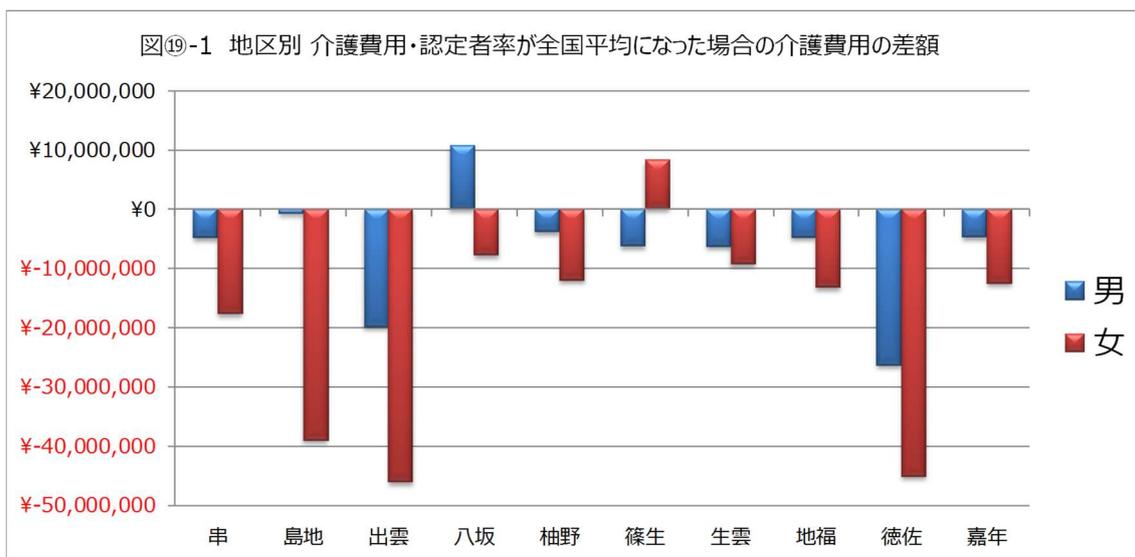


＜地域の介護費用を正しく算出する仕組み＞

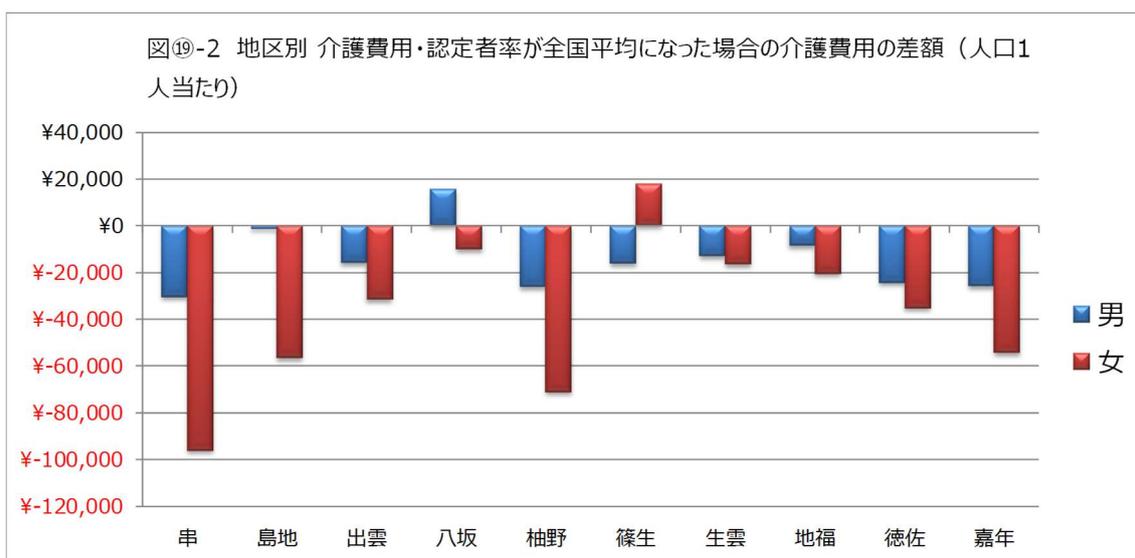
山口市の山間部の各地区は、全国平均に比べて、男女とも各年代の認定率や介護度が相対的に低く、ほとんどの地区で大きく介護費用を浮かせていることがわかる。多い地区では、その額は年間6,000万円以上となっている。

次に1人当たりの差額を見ても優秀で、ほとんどの地区で男女共、全国平均を下回っている。一番上位の串地区の女性は、人口1人当たり9万6,135円も浮かせている。これは、仮に国民全体で達成すると、12兆円になる（実際に、超高齢化が進んだとしての想定）。

また、同じ自治体の山間部でも、地区ごとにこれだけ差があるという事実は貴重だ。今後、先行して浮かせている地区に手法を学び、裾野を広げていく可能性があるのだ。



<山口市山間部 10 地区における全国平均との介護費用の差額 (総額) >



<山口市山間部 10 地区における全国平均との介護費用の差額 (1人当たり) >

この地区ごとの介護分析プログラムは、実は、地区ごとの人口予測プログラムと連動しており、地区人口が現状推移の場合や安定化した場合の長期的な介護費用も予測できる。次ページに串地区における介護費用の長期予測グラフを参考までに紹介しておく。

作用町におかれても、地区ごとの人口分析の次は、是非、介護分析へと進化させていただきたい。



<山口市串地区における年間介護費用の長期予測～地区人口が現状推移で減少した場合>



<山口市串地区における年間介護費用の長期予測～地区人口が安定化した場合>

* 地区人口が現状と同程度で安定化しても、介護費用は長期的に低下し、介護費用の面からも、地域人口安定化シナリオが成り立つことがわかる。

7. 女性専門の「起業支援センター機能」を創設する

佐用町では、20歳から34歳までの世代において、男性以上に女性の流出超過が目立つ。

女性人口取り戻しにおいて最も重要な世代は、子育ての主力世代である30代である。近年、この世代の女性の就業志向は、会社等への就職から、自分の夢やこだわりを活かせる起業へと向かっている。

そうした女性の自己実現をサポートする「起業支援センター機能」の創設を提言したい。そのために必要な機能は、次の3つである。

- ① 専門的かつ寄り添い型の支援スタッフの配置
- ② 仲間づくりを促すサロン機能
- ③ 小さな子ども連れでも気軽に行ける空間づくり

例えば、三次市では、平成30年度、「アシスタ lab.」という女性をターゲットにした起業支援センターを「まちづくりセンター」内に創設している。



気軽に入りやすい入口



中にはミーティングスペースやキッチン



小さな子どもを遊ばせておくスペースも

成果物について

本業務の成果物として、以下のファイルを別途CD-ROMで納品する。

ラベル名：【令和元年度 地域人口の現状分析ならびに将来予測に係る委託業務 成果物】

- 佐用町全体の将来人口推計・分析結果 × 1ファイル
- 佐用町地域づくり協議会単位の将来人口推計・分析結果 × 13ファイル
- 本報告書の電子データ(PDF) × 1ファイル
- 本報告書の電子データ(WORD) × 1ファイル

執筆者リスト

業務代表者 藤山 浩
(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長)

業務協力者 森山 慶久
(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 理事)

業務協力者 田中 宏美
(一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 研究マネージャ)

令和元年度

地域人口の現状分析ならびに将来予測に係る委託業務域

発行年月：令和元年 12 月

発 行：兵庫県佐用町

〒679-5380 兵庫県佐用郡佐用町佐用 2611-1

TEL: 0790-82-2521

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

〒699-3671 島根県益田市津田町 1401

TEL: 0856-55-1011